

C M E S

ANNUAL

REPORT

20 Vol.
015 14

愛媛大学 沿岸環境科学研究センター 年報

愛媛大学沿岸環境科学研究センター 年 報

(第 15 号)

2014年

ま え が き

本年報の掲載対象である平成25年度は、グローバルCOEプログラム終了後2年目にあたります。同プログラムの前身である21世紀COEプログラムから通算して10年間もビッグプロジェクトが続いたために、ここ1、2年は、「これからCMESはどうするの?」といった声がしきりに聞かれました。しかし、CMESはこれら二つのCOEによって大きく発展し学外にも認知されてきたことは確かですが、CMES教員の研究活力がCOEの終了によって低下したわけではありません。研究の活性や質の一般的な指標の一つは科研費の採択状況ですが、CMES教員が代表者として採択された科研費は、平成20年にほぼ年額1億円に達し、その後は変動はあるものの継続して1億円を超えています。これらの額は、教員一人あたりにすると一般的な理系教員の10倍程度にもなります。さらにCMESでは、受託研究や共同研究等の外部資金も毎年数千万円獲得して、活発に研究を推進しています。このように、CMESの研究活力は決して衰えてはいませんが、COEが余りに大きなプログラムであったために、研究面における愛媛大学の看板としてのCMESの存在感が低下してきたことは否めません。そこでCMESでは、新たな展開として、全国の「共同利用・共同研究拠点」を目指すことになりました。同拠点制度は、文部科学省の「全国共同利用拠点」制度が平成20年度に改正されたもので、現在全国で46大学（29国立大学，17公私立大学）95拠点が認定されています。同拠点には、地球深部ダイナミクス研究センターが平成23年度に認定されていますが、全ての拠点が平成27年度で期限となり、新たに平成28年度からの拠点が認定される見込みです。CMESでは既にこれまで全国拠点や国際的拠点としての一定の役割を果たしてきましたが、拠点として認定されることによりその役割をさらに明確にし、関連分野における学術研究の発展のために貢献したいと考えています。このため、CMESでは拠点認定に向けた組織整備などの準備を現在進めているところです。関係各位におかれましては、今後とも引き続き御指導、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年9月

愛媛大学沿岸環境科学研究センター

センター長 武岡 英隆

目 次

まえがき	1
1. 総 説	4
1. 1 組 織 (平成26年4月現在)	4
1. 2 各部門の概要	5
2. 研究者要覧 (平成26年4月現在)	7
3. 研究プロジェクト (平成25年度)	16
3. 1 卓越した大学院拠点形成支援補助金	16
3. 2 科学研究費等	16
3. 3 共同研究	19
3. 4 受託研究	19
3. 5 各種研究助成金 (民間・財団等), 奨学寄付金等	20
4. 研究成果 (暦年で2013に出版, 掲載されたもの)	21
4. 1 著 書	21
4. 2 学協会誌等	21
4. 3 学内, 所内誌等	25
4. 4 一般誌等	25
4. 5 報告書等	26
4. 6 学会発表等	26
5. 学会及び社会における活動 (平成25年度)	38
5. 1 併任・委員会委員等	38
5. 2 学協会委員等	40
5. 3 学会, 講演会などの開催 (センター主催または共催)	41
5. 4 学会, 講演会などの開催 (個人)	41
5. 5 学会賞等	42
6. 国際的活動 (平成25年度)	43
6. 1 国際研究プロジェクト	43
6. 2 在外研究等	44
6. 3 海外調査・国際学会等	44
6. 4 外国人客員研究員等	48
6. 5 海外からの訪問者	48
6. 6 招聘研究員	48
6. 7 留学生	49
7. 教育活動 (平成25年度)	50
7. 1 卒業論文・修士論文・博士論文 題目	50
7. 2 講義・集中講義	51
8. 設 備 (平成25年度導入)	57
9. 広 報 (平成25年度)	58
9. 1 CMES ニュース・グローバル COE ニュース	58
9. 2 報道関係	59
9. 3 講座, 講演会等	59
10. 調査実習船「いさな」運航状況 (平成25年度)	60
11. 研究員名簿 (平成25年度)	61
12. 客員研究員名簿 (平成25年度)	63
13. 運営委員会 (平成25年度)	66
14. センター規則および運営委員会規程	67

1. 総説

1. 1 組織（平成26年4月現在）

センター長 : 武岡 英隆

環境動態解析部門

教授 : 武岡 英隆
 *教授 : 磯辺 篤彦 (平成26年4月より九州大学応用力学研究所へ)
 准教授 : 郭 新宇
 准教授 : 加 三千宣
 助教 : 吉江 直樹
 *特任助教 : 加古真一郎 (平成25年9月より鹿児島大学工学部へ)
 *研究員 : 岩崎 慎介 (平成26年4月より九州大学応用力学研究所へ)
 *研究員 : 佐川 拓也 (平成25年6月より九州大学大学院理学研究院へ)
 *研究員 : 槻木 玲美 (平成26年4月より松山大学法学部へ)
 研究員 : 堤 英輔
 研究補助員 : Soeyanto Endro (平成25年10月着任)
 事務補佐員 : 大塚あかり
 事務補佐員 : 上城戸香奈

化学汚染・毒性解析部門

教授 : 田辺 信介
 教授 : 岩田 久人
 教授 : 国末 達也 (平成26年4月着任)
 *准教授 : 磯部 友彦 (平成26年5月より国立環境研究所へ)
 助教 : 仲山 慶
 助教 : 野見山 桂
 助教 : 板井 啓明
 特任助教 : 阿草 哲郎
 日本学術振興会外国人研究員 : Nguyen Minh Tue
 日本学術振興会特別研究員 : 平野 将司
 日本学術振興会特別研究員 : 落合 真理
 研究補助員 : 小川 次郎
 研究補助員 : 満汐 美穂
 *研究補助員 : 須賀 みどり (平成26年3月退職)
 研究補助員 : 野見山 智子 (平成25年8月着任)
 事務補佐員 : 松田 昌子
 事務補佐員 : 倉田 智美
 事務補佐員 : 小倉 美子

生態系解析部門

教授 : 鈴木 聡
 准教授 : 大森 浩二

1. 総説

准教授	: 北村 真一
助教	: 横川 太一
特命准教授	: 濱村奈津子
研究員	: 高部 由季
*研究員	: 片岡 剛文 (平成26年3月退職)
*研究員	: 福島 江 (平成26年3月退職)
*研究員	: 黄 鶴 (平成26年3月退職)
研究員	: Arnaud Germond (平成25年9月退職)
日本学術振興会外国人特別研究員	: Nguyen Tue Minh
研究補助員	: Jerome Dixon
研究補助員	: 森 久美子
研究補助員	: 黒木 みつ子 (平成26年6月着任)
技術補佐員	: 村上 祥子
事務補佐員	: 金谷 由美

国際・社会連携部門

特命教授	: Annamalai Subramanian
客員教授	: 高菅 卓三 (株式会社島津テクノロジー 取締役)
客員教授	: Kurunthachalam Kannan (State University of New York at Albany 教授)
客員教授	: 呉 明柱 (韓国国立全南大学校水産生命医学科 教授)
客員教授	: 大久保規子 (大阪大学大学院法学研究科 教授)
客員准教授	: 金 恩英 (韓国慶熙大学 助教授)

共通

技術専門職員	: 大西 秀次郎
--------	----------

研究支援部研究拠点事務課

*研究支援部長	: 渡邊 博善
研究支援部長	: 菊川 昭治 (平成26年4月より)
研究支援部研究拠点事務課長	: 藤村 宗
*研究支援部研究拠点事務課副課長	: 西川 勇
研究支援部研究拠点事務課研究拠点第一チーム TL	: 松本 誠一 (平成26年4月より)
事務補佐員	: 渡部 江利子
事務補佐員	: 中山 真理

※ *は転任または退職した職員を示す。
(平成26年4月現在)

1. 2 各部門の概要

環境動態解析部門

研究内容：沿岸海域の環境は、様々な人間活動や気候変動などの影響によって変動する。これらの変動の実態やメカニズムを解明し、将来の沿岸環境の変動を予測することが本部門の目標である。調査船や各種モニタリングシステムによる現地調査、数値シミュレーションなどの手法を用い、他部門とも連携しながらこの目標に向けた各種の課題に取り組んでいる。また、現在の様々な沿岸環境問題のメカニズムを物理学的側面から解明していくことも本部門の研究課題である。

主な研究テーマ：瀬戸内海の栄養塩環境の長期モニタリングと将来予測、高解像度数値生態系モデルによる瀬戸内海の環境変動機構の解明、豊後水道の急潮および底入り潮の発生機構とそれらの環境への影響の解明、宇

和海水温情報システムの開発，瀬戸内海の物質循環と生物生産機構の解明，赤潮や貧酸素水塊の物理機構の解明，養殖漁場の物質循環と環境保全，クラゲ類の大量発生と集群メカニズム，黄海・東シナ海の海洋循環，長江河川水プリュームの挙動，海岸漂着ゴミの予報実験，瀬戸内海の貧酸素水塊，北太平洋の混合層発達過程，大気海洋結合相互作用，宇和海の環境変遷史解明

化学汚染・毒性解析部門

研究内容：生物蓄積性有害化学物質の汚染モニタリングとリスク評価を通して生態系を守る方途を提言する。具体的には，内分泌かく乱物質（環境ホルモン）やその代謝物など生物やヒトの健康に悪影響を及ぼす化学物質に注目して，環境や生態系汚染の現状と推移，分布・挙動・ゆくえ，生物蓄積の特徴を地域的・地球的視点で解明することを目的としている。また，無脊椎動物・魚類・両生類・爬虫類・鳥類・哺乳類などの野生生物や実験動物を対象に，異物代謝酵素や脂溶性リガンドレセプターの機能特性を分子レベルで解析し，毒性発現の種多様性や感受性の種差を解明する研究（敏感・鈍感のサイエンス）にも取り組んでいる。

主な研究テーマ：地球規模での大気，水質，堆積物（土壌），生態系汚染の実態解明と動態解析，途上国（とくにアジア）の陸域および沿岸海洋汚染の実態解明と動態解析，廃棄物投棄場やリサイクル施設の化学汚染と影響の解明，野生生物（プランクトン，両生類，爬虫類，魚類，鳥類・哺乳類）の汚染実態の解明と生物濃縮機構の解析およびリスク評価，ヒトの汚染実態解明と健康影響評価，海洋汚染および陸域汚染の過去復元と将来予測，化学物質汚染による野生生物個体群の異物代謝酵素への影響，核内レセプターの比較機能学的研究，シトクロム P450およびメタロチオネインの比較機能学的研究，野生生物のマイクロアレイを利用した遺伝子ネットワーク攪乱のモニタリング，化学物質暴露による胚発生への毒性影響とその発現メカニズムの解明，毒性影響の感受性を支配する分子機構の解明，野生生物における化学物質代謝能の評価

生態系解析部門

研究内容：海洋および陸水を含めた水圏における生物過程の研究を行っている。海洋での物質循環と遺伝子伝播過程における微生物機能に関する研究，海洋微生物・魚病ウイルスの分子生態学的研究，魚類感染症の発症と環境汚染の関連性の研究などに取り組んでいる。また，安定同位体解析による瀬戸内海生態系構造と化学物質の生態濃縮の研究も行なっている。

主な研究テーマ：環境微生物の抗生物質耐性に関する研究，微生物間での遺伝子伝播の研究，魚介類の日和見・再興感染症ウイルスの生態，重油汚染の魚類生体防御系への影響，瀬戸内海の生態系構造解析など

国際・社会連携部門

研究および活動の概要：CMES はこれまでも活発な国際的活動を展開してきたが，環境科学の世界的拠点の一つとして発展しつつある現在，その必要性はさらに増している。一方，設立時の目標の一つであった社会貢献についても，環境問題の深刻化の中で CMES に対する期待は一層高まっている。特命教授や外部の客員教員により構成される本部門では，各種の連携研究に加え，若手研究者の国際性涵養のための人材育成や社会科学的視点導入のための教育，国際共同研究，研究者交流および社会連携を推進し，環境情報の公開なども含む多様な活動を展開している。

主な研究テーマと活動内容：残留性有機汚染物質・臭素系難燃剤等による途上国の化学汚染の実態解明，微量環境汚染物質の分析技術開発と未知成分の検索，有機フッ素化合物による環境汚染の実態解明，化学物質に対する感受性の種差を規定する分子機序の解明と野生生物のリスク評価，魚病制御と水産食品の安全性に関する研究，生物・化学環境データを含む統合型地球環境データベースの研究，環境科学と社会の連携による環境リスク低減のための仕組み作りとリスクコミュニケーションのあり方についての教育研究，国際学会におけるプレゼンテーション能力および学術論文作成能力育成のための若手研究者教育，インターンシップや講座等によるキャリアパス支援，途上国出身留学生の支援と留学生教育の高度化推進

2. 研究者要覧

(平成 26年4月現在)

環境動態解析部門



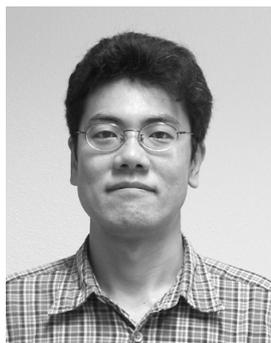
武岡 英隆 TAKEOKA Hidetaka

【職名】教授 沿岸環境科学研究センター長 工学部環境建設工学科・スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理工学研究科生産環境工学専攻及び先端科学特別コース兼担 学長特別補佐 先端研究・学術推進機構副機構長 スーパーサイエンス特別コース長 同環境科学コース長 【電話】089-927-9833 【FAX】089-927-9846 【E-mail】takeoka.hidetaka.mx@ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和49年3月 京都大学理学部卒業, 昭和51年3月 京都大学大学院理学部研究科修士課程地球物理学専攻修了 【学位】昭和59年3月 京都大学理学博士 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. 土木学会, 4. 海洋気象学会, 5. 水産海洋学会, 6. 日本沿岸域学会 【専門分野】1. 沿岸海洋学, 2. 海洋物理学 【主な研究テーマ】1. 沿岸海域の流動と物質輸送, 2. 豊後水道の急潮と底入り潮, 3. 瀬戸内海の物質循環と生物生産機構, 4. 養殖場の物質循環と環境保全, 5. 地球環境変動の沿岸域への影響, 6. クラゲ類の大量発生機構と移動集積機構 【受賞歴】1999年 日本海洋学会日高論文賞, 2003年 愛媛県政発足記念日知事表彰, 2003年 瀬戸内法30周年記念環境大臣表彰, 2009年 原子力安全功労者表彰(経済産業大臣)



郭 新宇 GUO Xinyu

【職名】准教授 理学部地球科学科・スーパーサイエンス特別コース地球惑星科学コース・理工学研究科数理物質科学専攻及び先端科学特別コース兼担 【電話】089-927-9824 【FAX】089-927-9846 【E-mail】guoxinyu@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和63年7月 中国天津大学海洋船舶工学科卒業, 平成3年1月 中国ハルビン船舶工程学院修士課程海洋流体力学専攻修了, 平成9年3月 愛媛大学理工学研究科博士後期課程生産工学専攻修了 【学位】平成9年3月 博士(工学) 愛媛大学 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. 日本地球惑星科学連合, 4. American Geophysical Union, 5. American Meteorological Society 【専門分野】1. 海洋物理学, 2. 沿岸海洋学 【主な研究テーマ】1. 東シナ海の流動構造と栄養塩の動態, 2. 瀬戸内海の流動構造と栄養塩の動態, 3. 黒潮流域における栄養塩輸送



加 三千宣 KUWAE Michinobu

【職名】准教授 理学部地球科学科・スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理工学研究科数理物質科学専攻及び先端科学特別コース兼任 【電話】089-927-9654 【FAX】089-927-9654 【E-mail】mkuwae@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成14年3月大阪市立大学大学院理学研究科後期博士課程(生物地球系専攻)修了 【学位】平成14年3月大阪市立大学大学院博士(理学) 【所属学会】1. 日本第四紀学会, 2. 日本海洋学会, 3. 日本地球化学会, 4. 日本珪藻学会, 5. 日本水産海洋学会, 6. 日本海洋学会沿岸海洋研究会, 7. 地球環境史学会, 8. 日本地球惑星科学連合, 9. American Geophysical Union 【専門分野】1. 第四紀学, 2. 古陸水学, 3. 古海洋学 【主な研究テーマ】1. 琵琶湖湖底堆積物の珪藻化石を用いた過去40万年間の環境変遷史, 特に古気候変動記録の復元に関する研究, 2. 珪藻及び安定同位体比を用いた西南日本沿岸浅海域における基礎生産の気候変動に対する応答, 3. 魚鱗を用いた多様性小型浮魚類のバイオマスの長期変動に関する研究, 4. 浮遊性有孔虫及び底生有孔虫殻のMg/Ca比を用いた西南日本沿岸浅海域の海洋温暖化に関する研究, 5. 日本沿岸域における高解像度古海洋変動の解明 【受賞歴】2008年日本海洋学会日高論文賞受賞, 2004年日本第四紀学会日本第四紀学会論文賞



吉江 直樹 YOSHIE Naoki

【職名】講師 工学部環境建設工学科兼任 【電話】089-927-9839 【FAX】089-927-9846 【E-mail】yoshie.naoki.mm@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成9年3月北海道大学水産学部水産化学科卒業, 平成14年9月北海道大学大学院地球環境科学研究科博士課程大気海洋圏環境科学専攻修了 【学位】平成14年9月 博士(地球環境科学)北海道大学 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. 日本地球惑星科学連合, 4. 水産海洋学会, 5. The American Society of Limnology and Oceanography 【専門分野】1. 生物地球化学, 2. 海洋生態系モデリング, 3. 海洋学, 4. 海洋生物学 【主な研究テーマ】1. 瀬戸内海における低次生態系・物質循環の現場モニタリングおよび数値モデリング, 2. 沿岸域への外洋水進入現象に伴う生態系応答の現場モニタリングおよび数値モデリング, 3. 日本周辺沖合域における低次生態系・物質循環の数値モデリング, 4. 瀬戸内海における藻場の時空間分布, 5. 瀬戸内海におけるミズクラゲの時空間分布, 6. 瀬戸内海におけるタチウオの時空間分布 【受賞歴】2010年日本海洋学会岡田賞, 2011年北太平洋海洋科学機構(PICES) Best presentation award



堤 英輔 TSUTSUMI Eisuke

【職名】研究員 【電話】089-927-8179 【FAX】089-927-9846 【E-mail】tsutsumi.eisuke.my@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成19年3月九州芸術工科大学芸術工学部音響設計学科卒業, 平成21年3月九州大学大学院総合理工学府大気海洋環境システム学専攻修士課程修了, 平成24年3月九州大学大学院総合理工学府大気海洋環境システム学専攻博士課程修了 【学位】平成24年3月博士(理学)九州大学 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会 【専門分野】1. 沿岸海洋学 2. 海洋物理学 【主な研究テーマ】1. 沿岸域における乱流計測に基づいた鉛直混合過程 2. 沿岸域における内部潮汐波の動態

化学汚染・毒性解析部門



田辺 信介 TANABE Shinsuke

【職名】教授（特別荣誉教授） スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理学部化学科・理工学研究科環境機能科学専攻分子科学コース及び先端科学特別コース・大学院医学系研究科兼任 【電話】089-927-8171 【FAX】089-927-8171 【E-mail】shinsuke@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和50年3月愛媛大学大学院農学研究科農芸化学専攻修士課程修了 【学位】昭和60年2月名古屋大学農学博士 【所属学会】1. 日本海洋学会, 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究部会, 3. 日本水産学会, 4. 日本農芸化学会, 5. 日本極地研究振興会, 6. 日本薬学会, 7. 日本環境科学会, 8. 日本生態学会, 9. 日本地球化学会, 10. 日本環境化学会, 11. 日本比較生理生化学会, 12. 日本環境毒性学会, 13. 日本BICER協議会, 14. 日本鳥学会, 15. 日本哺乳類学会, 16. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 17. 日本化学会, 18. 日本微量元素学会, 19. 日本セトロジー研究会, 20. 日本ウミガメ協議会, 21. ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議, 22. 東南アジア国際農学会, 23. 日本農学アカデミー, 24. 環境放射能除染学会, 25. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), 26. American Chemical Society 【専門分野】環境化学 【主な研究テーマ】1. 生物蓄積性有害物質(PTS)による地球規模の海洋汚染とその動態, ゆくえおよび歴史トレンドに関する環境化学的研究, 2. PTSによる海棲哺乳動物の汚染と毒性影響に関する研究, 3. PTSによる北海の汚染とアザラシへの蓄積および毒性影響に関する研究, 4. PTSによる鳥類の汚染と毒性影響に関する研究, 5. PTSによる深海生物の汚染と毒性影響に関する研究, 6. マッセルウオッチ:ニ枚貝を生物指標としたアジアの海洋汚染モニタリング, 7. 魚介類を指標にした有害物質の蓄積および毒性影響に関するモニタリング手法の開発, 8. 海棲哺乳動物における重金属の蓄積特性に関する研究, 9. 鳥類における重金属の蓄積特性に関する研究, 10. 野生高等動物におけるヒ素の蓄積特性に関する研究, 11. 環境保全型漁業をめざした有害物質のリスク評価と管理に関する研究, 12. 途上国の廃棄物投棄場におけるダイオキシン類, 農薬, 重金属類等有害物質の汚染と毒性影響に関する研究, 13. 途上国におけるヒ素の地下水汚染とヒトへの影響に関する研究, 14. 有機臭素化合物等難燃剤による環境汚染, 生物蓄積, 経年変化, 生態影響に関する研究, 15. 水酸化代謝物の生物蓄積特性と影響評価に関する研究, 16. 生物環境試料バンクを基盤とした国際的・学際的研究 【受賞歴】1985年4月 日本海洋学会岡田賞, 1999年3月 日産科学賞, 2000年10月 ISI引用最高荣誉賞, 2003年12月 ベトナム政府フレンドシップメダル, 2004年7月 日本環境化学会学術賞, 2004年10月 日本環境科学会学術賞, 2005年11月 The 2005 SETAC (Society of Environmental Toxicology and Chemistry) Founders Award 国際賞, 2006年6月 日本環境化学会環境化学論文賞, 2007年11月 Excellence in Review Award for Environmental Science & Technology 国際賞, 2007年11月 SETAC/Menzie-Cura Environmental Educational Award 国際賞, 2009年11月 日本学術振興会科学研究費補助金第一段審査貢献表彰, 2010年6月 Marine Pollution Bulletin Highly Cited Author Award 2005-2009, 2010年11月 Environmental Pollution Highly Cited Author Award 2007-2010 (2編), 2011年4月 紫綬褒章, 2012年1月 愛媛大学特別荣誉教授称号



岩田 久人 IWATA Hisato

【職名】教授 スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理学部生物学科・理工学研究科環境機能科学専攻生物環境科学コース及び先端科学特別コース・大学院医学系研究科兼担 【電話】089-927-8172 【FAX】089-927-8172 【E-mail】iwatah@agr.ehime-u.ac.jp

【学歴】平成6年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了

【学位】平成6年3月 博士(学術)愛媛大学 【所属学会】1. 日本環境科学会, 2. 日本環境会議, 3. 日本環境化学会, 4. 日本BICER協議会, 5. 日本環境毒性学会, 6. 日本獣医学会, 7. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 8. 日本生化学会, 9. 日本分子生物学会, 10. Society of Environmental Toxicology and Chemistry, 11. Society of Toxicology 【専門分野】環境毒性学

【主な研究テーマ】1. 環境汚染物質による生態系の汚染とその毒性影響の解明, 2. 多元的オミックス解析による環境汚染物質の毒性発現機序の解明, 3. 環境汚染物質による毒性影響の多様性および種特異的感受性を決定する分子機構の解明, 4. シトクロムP450を指標とした化学物質暴露および毒性影響の評価, 5. 野生生物のリスク評価を目指した核内受容体リガンドの網羅的解析法の開発 【受賞歴】1994年9月 QUINTESSENCE Excellence in Environmental Contamination and Toxicology, 2011年7月 第16会生態学琵琶湖賞受賞



国末 達也 KUNISUE Tatsuya

【職名】教授 スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理学部化学科・理工学研究科環境機能科学専攻分子科学コース及び先端科学特別コース兼担 【電話】089-927-8162

【FAX】089-927-8171 【E-mail】kunisue.tatsuya.ew@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成16年3月愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成16年3月 博士(農学) 愛媛大学 【所属学会】1. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 2. 日本環境化学会, 3. Society of Environmental Toxicology and Chemistry, 4. American Chemical Society 【専門分野】環境化学, 機器分析化学 【主な研究テーマ】1. 多様な動物種に対する化学物質の曝露とリスクの評価, 2. 新規環境汚染物質の探索とアジア地域の汚染, 3. ホルモン様物質の分析法開発と環境毒性学への応用

【主な研究テーマ】1. 多様な動物種に対する化学物質の曝露とリスクの評価, 2. 新規環境汚染物質の探索とアジア地域の汚染, 3. ホルモン様物質の分析法開発と環境毒性学への応用



磯部 友彦 ISOBE Tomohiko

【職名】准教授 スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・理学部化学科・理工学研究科環境機能科学専攻分子科学コース及び先端科学特別コース兼担 【電話】089-927-8162

【FAX】089-927-8171 【E-mail】t.isobe@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成13年3月 東京農工大学大学院連合農学研究科資源環境学専攻博士課程修了 【学位】平成13年3月 東京農工大学博士(農学) 【所属学会】1. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 2. 日本水環境学会, 3. 日本環境化学会, 4. 日本セトロジー研究会, 5. American Chemical Society 【専門分野】1. 環境化学, 2. 機器分析化学 【主な研究テーマ】1. 新規POPs候補物質の分析法開発, 2. 臭素系難燃剤の環境動態解明に関する研究

【主な研究テーマ】1. 新規POPs候補物質の分析法開発, 2. 臭素系難燃剤の環境動態解明に関する研究

2. 研究者要覧



仲山 慶 NAKAYAMA Kei

【職名】講師 理学部生物学科・理工学研究科環境機能科学専攻兼担 【電話】089-927-8132
【FAX】089-927-8133 【E-mail】kei_n@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成15年9月 九州大学大学院
生物資源環境科学府生物機能科学専攻博士(後期)課程修了 【学位】平成15年9月 博士(農
学)九州大学 【所属学会】1. 日本環境毒性学会, 2. 日本水産学会, 3. 日本内分泌攪乱化
学物質学会, 4. Society of Environmental Toxicology and Chemistry 【専門分野】1. 環境毒性
学, 2. 水産化学 【主な研究テーマ】1. トキシコゲノミクスおよびメタボロミクスによる
化学物質の毒性影響の評価およびメカニズムの解明, 2. 化学物質の複合暴露による毒性
影響の評価手法の開発, 3. 複合的な環境要因の変化に対する生体応答の詳細解析, 4. 有
機汚染物質が魚類の発生や脳神経系および行動に及ぼす影響の解明 【受賞歴】2006年9
月第12回バイオアッセイ研究会・日本環境毒性学会合同研究発表会奨励賞



野見山 桂 NOMIYAMA Kei

【職名】特任講師 理学部化学科・理工学研究科環境機能科学専攻分子科学コース兼担
【電話】089-927-8196 【FAX】089-927-8196 【E-mail】keinomi@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】
平成19年3月 熊本県立大学大学院環境共生学研究科環境共生学専攻博士課程修了 【学
位】平成19年3月 熊本県立大学博士(環境共生学) 【所属学会】1. Society of Environmental
Toxicology and Chemistry (SETAC), 2. 日本環境化学会, 3. 日本水環境学会, 4. 日本セト
ロジー研究会, 5. American Chemical Society (ACS) 【専門分野】1. 水環境化学, 2. 環境分
析化学, 3. 異物代謝学 【主な研究テーマ】1. 有機ハロゲン化代謝物の分析法開発と代謝物
をマーカーとした比較生物学的研究, 2. 野生高等生物の肝マイクロゾームを用いた有機ハ
ロゲン化合物の/in vitro/代謝系の確立, 3. 哺乳類に残留する有機ハロゲン代謝物の脳移
行と甲状腺ホルモンへの影響評価, 4. 野生生物に残留する医薬品類および生活関連化学
物質(PPCPs)の蓄積特性に関する研究, 5. 極性環境汚染物質の新規分析法開発, 6. メタ
ボロミクスによる有機ハロゲン代謝物の生体影響評価 【受賞歴】第15回日本環境毒性学
会・バイオアッセイ研究会合同研究発表会奨励賞



板井 啓明 ITAI Takaaki

【職名】特任講師 理学部地球科学科兼担 【電話】089-927-8133 【FAX】089-927-8133
【E-mail】itai@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成21年3月 広島大学大学院理学研究科地球惑星
システム学専攻博士課程修了 【学位】平成21年3月 広島大学博士(理学) 【所属学会】1.
日本地球化学会, 2. 日本環境化学会, 3. 日本陸水学会, 4. プラズマ分光分析研究, 5.
International Association for Geochemistry and Cosmochemistry (IAGC), 6. Society of Environ-
mental Toxicology and Chemistry (SETAC), 7. Society for Environmental Geochemistry and Hea-
lth (SEGH) 【専門分野】1. 環境無機化学, 2. 地球化学 【主な研究テーマ】1. 水圏環境の
貧酸素化に伴う微量元素の動態変化とその生態影響評価, 2. ヒ素によるアジア地域地下
水汚染の実態解明, 3. 大型海洋生物アーカイブの水銀同位体比分析による外洋中メチル
水銀の生成過程解明, 4. 環境・生体試料中における微量元素の化学形態分析法の確立

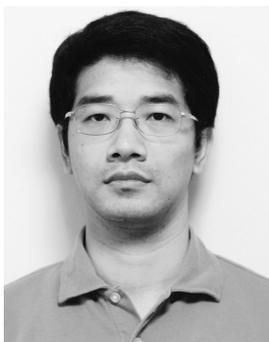
阿草 哲郎 AGUSA Tetsuro

【職名】研究員(特任助教) 【電話】089-927-8194 【FAX】089-927-8194 【E-mail】ax@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成17年3月愛媛大学連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】平成17年3月博士(農学)愛媛大学 【所属学会】1.日本微量元素会, 2.日本ヒ素研究会, 3.廃棄物資源循環学会, 4. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) 【専門分野】1.環境化学, 2.環境毒性学 【主な研究テーマ】1.ヒ素曝露の健康影響評価とその感受性因子の探索, 2.水棲哺乳類における水銀蓄積メカニズムの解明 【受賞歴】1.2010年5月Young Scientist Award in The Third International Congress on Arsenic in the Environment(As2010), 2.2011年11月第17回ヒ素シンポジウム奨励賞



平野 将司 HIRANO Masashi

【職名】日本学術振興会特別研究員PD 【電話】089-927-8194 【FAX】089-927-8194 【E-mail】m-hirano@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成21年3月熊本県立大学大学院環境共生学研究科博士後期課程修了 【学位】平成21年3月博士(環境共生学)熊本県立大学 【所属学会】1.日本内分泌攪乱化学物質学会, 2.日本毒性学会 【専門分野】1.生態毒性学, 2.食環境安全性学 【主な研究テーマ】無脊椎動物核内受容体と化学物質の相互作用の定量的解析



グエン・ミン・トゥエ Nguyen Min Tue

【職名】日本学術振興会外国人特別研究員 【電話】089-927-8196 【FAX】089-927-8196 【E-mail】tuenm@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成17年3月スイス連邦工科大学大学院環境科学修士課程修了 【学位】平成22年9月愛媛大学博士(理学) 【専門分野】環境化学 【主な研究テーマ】アジアのe-wasteリサイクル地域における内分泌攪乱物質の人体暴露とリスク

生態系解析部門



鈴木 聡 SUZUKI Satoru

【職名】教授 農学部生物資源学科生物環境保全学専門教育コース・スーパーサイエンス特別コース環境科学コース・農学研究科生物資源学専攻生物環境保全学専門教育コース・連合農学研究科生物環境保全学専攻兼任 【電話】089-927-8552 【FAX】089-927-8552 【E-mail】ssuzuki@ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和60年9月北海道大学大学院薬学研究科博士課程製薬化学専攻修了 【学位】昭和60年9月薬学博士北海道大学 【所属学会】1.日本微生物生態学会, 2.日本魚病学会, 3.日本海洋学会, 4.マリンバイオテクノロジー学会, 5.日本水産学会, 6.日本生化学会, 7.米国微生物学会, 8.国際微生物生態学会, 9.日本細菌学会 【専門分野】1.海洋微生物学, 2.環境分子生物学, 3.生態系生化学 【主な研究テーマ】1.海洋中溶存態タンパク質の形成と分解過程に関する研究, 2.微生物間での薬剤耐性遺伝子の伝播と変異の研究, 3.緑膿菌の水圏環境での生態 【受賞歴】1999年日本魚病学会研究奨励賞, 2001年日本微生物生態学会論文賞

2. 研究者要覧



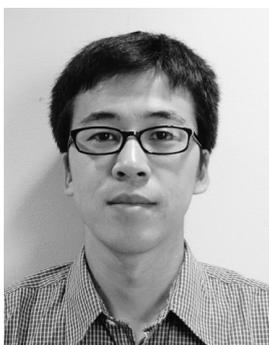
大森 浩二 OMORI Koji

【職名】准教授 理学部生物学科兼任 【電話】089-927-9643 【FAX】089-927-9630 【E-mail】omori.koji.mj@ehime-u.ac.jp, ohmori@sci.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和58年3月九州大学理学研究科修士課程修了 【学位】昭和60年1月理学博士九州大学 【所属学会】1. 日本生態学会, 2. 日本ベントス学会, 3. 日本海洋学会沿岸海洋部会, 4. 個体群生態学会 【専門分野】1. 水域生態学, 2. 生態系生態学 【主な研究テーマ】1. 基礎生態学解析, 2. 河川生態系の解析, 3. 沿岸海洋生態系の解析



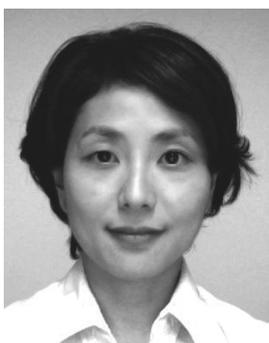
北村 真一 KITAMURA Shin-Ichi

【職名】准教授 理学部生物学科・理工学研究科環境機能科学専攻及び先端科学特別コース兼任 【電話】089-927-8998 【FAX】089-927-8998 【E-mail】kitamura@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成11年高知大学大学院農学研究科栽培漁業学専攻修士課程修了 【学位】平成15年3月博士(水産科学)北海道大学 【所属学会】1. 日本魚病学会, 2. 韓国魚病学会, 3. 日本微生物生態学会, 4. 日本水産学会, 5. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) 【専門分野】1. 感染症学, 2. 魚類環境生理学 【主な研究テーマ】1. ヒラメのスクーチカ症に関する研究, 2. 魚類イリドウイルスに関する研究, 3. 魚類体表粘液中のマイクロフローラに関する研究, 4. 環境変化による感染症発生メカニズムの解明, 5. マボヤの被囊軟化症に関する研究, 6. 日本産アゲハチョウの分子進化的研究



横川 太一 YOKOKAWA Taichi

【職名】講師 農学研究科生物資源学専攻生物環境保全学専門教育コース・連合農学研究科生物環境保全学専攻兼任 【電話】089-927-8551 【FAX】089-927-8551 【E-mail】taichi.yokokawa@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成16年11月京都大学大学院理学研究科博士課程修了 【学位】平成16年11月博士(理学)京都大学 【所属学会】1. 日本微生物生態学会, 2. 日本海洋学会, 3. 日本生態学会 【専門分野】微生物海洋学 【主な研究テーマ】1. 細菌群集を介した海洋炭素循環, 2. 微生物群集の生物地理学的研究, 3. 抗菌性物質が沿岸生態系の腐食食物網に及ぼす影響評価, 4. 細菌群集多様性とその生態系機能



濱村奈津子 HAMAMURA Natsuko

【職名】特命准教授 【電話】089-927-8295 【FAX】089-927-8295 【E-mail】nhama@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成13年4月オレゴン州立大学 Molecular and Cellular Biology Program博士課程修了 【学位】平成13年4月Ph.D. オレゴン州立大学 【所属学会】1. American Society of Microbiology, 2. International Society of Microbial Ecology, 3. 日本微生物生態学会, 4. 日本ゲノム微生物学会, 5. 日本地球惑星科学連合, 6. 日本生態学会 【専門分野】1. 微生物生態学, 2. 微生物生理学, 3. 環境ゲノム 【主な研究テーマ】1. ヒ素汚染環境中の微生物ヒ素代謝機能の解析, 2. ゲノムやトランスクリプトーム手法を用いた高温環境中の微生物生態及び機能のメタ解析, 3. 複合汚染環境における微生物遺伝子応答の解析



高部 由季 SATO-TAKABE Yuki

【職名】研究員 【電話】089-927-8554 【E-mail】takabe.yuki.mf@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成24年3月 北海道大学大学院環境科学院博士課程修了 【学位】平成24年3月 博士(環境科学) 北海道大学 【所属学会】1. 日本微生物生態学会, 2. 日本地球惑星科学連合, 3. 日本海洋学会, 4. American Society of Limnology and Oceanography 【専門分野】1. 微生物生態学, 2. 光合成生理学 【主な研究テーマ】1. 光従属栄養細菌が海洋食物連鎖に与える影響評価, 2. 光従属栄養細菌の生理生態学的研究

グエン・タイ・トゥエ Nguyen Tai Tue

【職名】研究員 【電話】090-28941610 【E-mail】tuent@ehime-u.ac.jp 【学歴】平成24年8月 愛媛大学大学院理工学研究科博士課程修了 【学位】平成24年8月 博士(理学) 愛媛大学 【専門分野】1. 生態学, 2. 環境地質学 【主な研究テーマ】安定同位体分析によるマングローブ生態系解析

国際・社会連携部門



アンナマライ・スブラマニアン SUBRAMANIAN Annamalai

【職名】特命教授 【電話】089-927-8173 【FAX】089-927-8196 【E-mail】subra@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】昭和63年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科生物環境保全学専攻博士課程修了 【学位】昭和63年3月 愛媛大学博士(学術), 1982年6月 Annamalai University Ph.D. 【所属学会】1. Indian Society of Life Sciences, 2. National Geographic Society, 3. Marine Mammal Society 【専門分野】海洋環境学 【主な研究テーマ】内分泌攪乱物質による途上国の海洋汚染とその生態毒性の解明 【受賞歴】平成14年度日本学術振興会外国人招へい研究者(長期)



高菅 卓三 TAKASUGA Takumi

【職名】客員教授 株式会社島津テクノリサーチ 執行役員 環境事業事業部長 【電話】075-811-3181 【FAX】075-821-7837 【E-mail】t_takasuga00@shimadzu-techno.co.jp 【学歴】昭和60年3月 愛媛大学大学院農学研究科環境化学専攻修士課程修了 【学位】平成13年5月 東京大学博士(農学), 平成15年2月 スウェーデンrebro大学名誉博士 【所属学会】1. 日本環境化学会, 2. 日本分析化学会, 3. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 4. 日本水環境学会, 5. 廃棄物資源循環学会 【専門分野】1. 環境化学, 2. 分析化学, 3. 環境分析化学, 4. 廃棄物処理 【主な研究テーマ】1. 廃棄物関連試料及び環境試料中の微量有機ハロゲン化合物の分析化学的研究, 2. POPsモニタリングにおける大気・生物試料の超高感度分析方法の最適化に関する研究, 3. 臭素化ダイオキシン類及び臭素系難燃剤の超微量測定方法の開発, 4. GC/MS(EI及びNCI)法を用いた生物試料中有機臭素化合物の調査研究, 5. GC-HR-TOFMSを用いた環境試料の微量有機ハロゲン化合物の検索と同定および高感度・高精度スクリーニング分析, 6. 各種有機ハロゲン化合物等の分析法開発 【受賞歴】1994年6月 日本環境化学会技術賞, 1997年6月 日本環境化学会学術賞, 1999年11月 環境測定分析功労者賞(社団法人日本環境測定分析協会), 2003年2月 スウェーデンrebro大学名誉博士, 2009年5月 協会功労者賞(社団法人日本環境測定分析協会)

2. 研究者要覧



クルンタチャラム・カンナン KANNAN Kurunthachalam

【職名】客員教授 State University of New York at Albany教授 【学歴】平成6年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程修了 【学位】平成6年3月 博士(学術)愛媛大学 【所属学会】1. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC), USA, 2. American Chemical Society (ACS), USA, 3. Society of Toxicology (SOT), USA, 4. American Society for the Advancement of Science, USA 【専門分野】環境化学 【主な研究テーマ】有機フッ素化合物による環境汚染の実態解明 【受賞歴】Thomson ISI, Highly Cited Researcher in Environment/Ecology in 2005, ranked #8 in 2005, #7 in 2007, Thomson ISI, Highly Cited Researcher- Special Topics- PCBs, ranked #17 in 2003, United States Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC)/Weston F. Roy Award in Environmental Chemistry in 1999, Excellence in Review Award by American Chemical Society Journal-Environmental Science and Technology in 2004



呉 明柱 OH Myung-Joo

【職名】客員教授 韓国国立全南大学校水産生命医学科教授 【電話】+82-61-659-3173 【FAX】+82-61-659-3173 【E-mail】ohmj@chonnam.ac.kr 【学歴】北海道大学大学院水産科学研究科博士課程修了 【学位】平成7年3月 水産学博士北海道大学 【所属学会】1. ヨーロッパ魚病学会, 2. 韓国魚病学会, 3. 日本魚病学会, 4. 韓国水産学会, 5. 世界水産学会, 6. アジア水産学会, 7. 日本水産学会, 8. 韓国マリンバイオテクノロジー学会, 9. 韓国生物科学学会, 10. 韓国微生物学会 【専門分野】1. 魚病学, 2. 病原微生物学 【主な研究テーマ】1. 魚類ウイルス病に関する研究, 2. 食中毒原因病原体の分子疫学 【受賞歴】1. 2004年 Best Researcher prize, The Korean Ministry of Marine and Fisheries, 2. 2001年 Best poster presentation prize at the European Association of Fish Pathologists (EAFP) 10th International Conference on Diseases of Fish and Shellfish, 3. 2001年 Best Researcher prize, The Korean Ministry of Marine and Fisheries



大久保規子 OKUBO Noriko

【職名】客員教授 大阪大学大学院法学研究科教授 【電話】06-6850-6111 【学歴】平成5年3月一橋大学大学院法学研究科博士後期課程修了 【学位】平成3年9月 MAGISTRA IURIS (法学)ゲーセン大学, 平成5年3月 博士(法学)一橋大学 【所属学会】1. 日本公法学会, 2. 環境法政策学会, 3. 日本公共政策学会, 4. 日本社会情報学会 【専門分野】1. 行政法, 2. 環境法 【主な研究テーマ】1. 環境公益訴訟, 2. 行政訴訟の原告適格, 3. 参加・協働の法理, 4. 水管理法制



金 恩英 KIM Eun-Young

【職名】客員准教授 韓国慶熙大学准教授 【電話】089-927-8194 【FAX】089-927-8194 【E-mail】eykim@agr.ehime-u.ac.jp 【学歴】平成9年3月 愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程生物環境保全学専攻修了 【学位】平成9年3月 博士(学術)愛媛大学 【所属学会】1. 日本環境化学会, 2. 日本環境毒性学会, 3. 日本内分泌攪乱化学物質学会, 4. Society of Environmental Toxicology and Chemistry, 5. Society of Toxicology 【専門分野】環境毒性学 【主な研究テーマ】1. 野生生物における毒性影響の感受性を考慮した環境影響評価システムの開発, 2. 内分泌攪乱化学物質に対する種特異的反応・感受性のバイオマーカーの

3. 研究プロジェクト

概要：ローカルスケールの大気海洋相互作用が海洋の生態系に及ぼす影響について現場観測と数値モデルを用いて研究した。

- 7) 吉江 直樹 (代表), 若手研究 (B), 「環境変化に対する沿岸生態系・物質循環の応答機構の解明」, 1,480千円
概要:瀬戸内海の海洋低次生態系と物質循環が様々な環境変化に対してどのように応答するかについて研究した。

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 田辺 信介 (実施責任者), 卓越した大学院拠点形成支援補助金「化学物質の環境科学教育研究拠点」, 17,679千円
概要：本事業では博士課程学生が自己研鑽の機会を得ながら学修研究に専念できる多様な教育研究プログラムと支援を実行し、優秀な若手が集い熟達した専門家として単立つ環境学の拠点形成に努めた。
- 2) 田辺 信介 (代表), 基盤研究 (A) 一般「ペット動物の化学汚染：有機ハロゲン化合物および代謝物の暴露実態解明とリスク評価」, 17,300千円
概要：ペット動物のイヌ・ネコに注目し、有機ハロゲン化合物および代謝物の残留実態と蓄積の特徴を解明し、それらの暴露ルートを解析した。
- 3) 田辺 信介 (代表), 基盤研究 (A) 海外「新規 POPs および POPs 代替物質によるアジア地域の汚染実態と時空間分布の解明」, 13,000千円
概要：ベトナムおよびインドの廃棄物リサイクル施設を中心に海外調査を実施し、新規 POPs および POPs 代替物質の現地適応型分析法を開発するとともに、発生源の汚染実態について解析した。
- 4) 田辺 信介 (代表), 挑戦的萌芽研究「東日本大震災による残留性環境化学物質の海洋生物汚染とその長期モニタリングの検証」, 120千円
概要：魚介類を供試して、東日本大震災による有害物質汚染の拡大を時空間的に検証するとともに生態系構造との関連について解析した。
- 5) 田辺 信介 (分担), 基盤研究 (C)「琉球列島隆起サンゴ礁島嶼の環境特性に対応した有害物質汚染調査手法の開発」, 450千円
概要：琉球列島の生物試料に残留するダイオキシン類緑化合物の分析法を開発し、汚染実態解明のための予備的分析を試みた。
- 6) 田辺 信介 (分担), 環境省環境研究総合推進費補助金研究事業「使用済自動車 (ELV) の資源ポテンシャルと環境負荷に関するシステム分析」, 京都大学, 5,300千円
概要：ベトナムの ELV 鉛バッテリーリサイクルに関連した有害金属汚染の実態解明とヒトの健康リスク評価を試みた。
- 7) 田辺 信介 (分担), 環境省環境研究総合推進費補助金研究事業「製品に含まれる化成品及び不純物に由来する有害廃棄物対策と循環方策構築に向けた研究」, 2,300千円
概要：アジア途上国のヒト母乳から有機リン系難燃剤を検出し、その広域汚染の実態を明らかにした。
- 8) 岩田 久人 (代表), 基盤研究 (S)「化学物質による細胞内受容体－異物代謝酵素シグナル伝達系攪乱の感受性支配因子の解明」, 20,040千円
概要：化学物質による多様な生物の細胞内受容体－異物代謝酵素シグナル伝達系の攪乱を指標として、感受性の種差を規定する分子機構について解明した。
- 9) 岩田 久人 (分担), 基盤研究 (A)「ペット動物の化学汚染：有機ハロゲン化合物および代謝物の暴露実態解明とリスク評価」, 1,400千円
概要：有機ハロゲン化合物および代謝物の暴露によるイヌへの毒性影響について調査した。
- 10) 岩田 久人 (代表), 挑戦的萌芽研究「ゲノム－核内受容体の相互作用アレイによる化学物質影響評価系の開発」, 900千円
概要：ビスフェノール類がゲノム－核内受容体の相互作用に与える影響を評価する実験系の構築を試みた。
- 11) 仲山 慶 (分担), 基盤研究 (B)「マボヤ被嚢軟化症の被嚢軟化メカニズムの解明」, 700千円
概要：マボヤ被嚢軟化症の原因虫である *Azumiobodo hoyamushi* を対象に、次世代シーケンサーを用いた mRNA 配列の解析を行い、被嚢軟化に関わる寄生虫遺伝子の同定を進めている。
- 12) 磯部 友彦 (代表), 基盤研究 (B)「死亡漂着鯨類を指標とした化学物質による海洋環境汚染の時空間変動解析と影響評価」, 7,800千円

- 概要：日本沿岸のスナメリを対象に、有機ハロゲン化合物の汚染実態を明らかにした。
- 13) 板井 啓明 (代表), 基盤研究 (B) 「琵琶湖深部の貧酸素化にともなうマンガ・ヒ素大量溶出モデルの構築」, 7,930千円
概要：琵琶湖湖底の貧酸素化進行にともなう堆積物中のマンガ、ヒ素の湖水への溶出挙動を、観測的・実験的に検証した。
- 14) 野見山 桂 (代表), 若手研究 (A) 「哺乳類に残留する有機ハロゲン代謝物の脳移行と甲状腺ホルモンへの影響評価」, 6,240千円
概要：ニホンザルを対象に有機ハロゲン代謝物の脳移行を実証し、その特徴を比較生物学的に解析した。
- 15) 野見山 桂 (分担), 基盤研究 (A) 一般 「ペット動物の化学汚染：有機ハロゲン化合物および代謝物の暴露実態解明とリスク評価」 1,300千円
概要：ペット動物のイヌ・ネコに注目し、有機ハロゲン化合物および代謝物の蓄積特性と残留実態を明らかにし、暴露ルートおよび毒性リスク評価を解析した。
- 16) 磯部 友彦 (代表), 環境研究総合推進費補助金研究事業 「震災時に放出された化学物質の東北沖魚介類生態系における生物濃縮と毒性リスク評価」, 環境省, 16,906千円
概要：POPs, 新規 POPs, 重金属類などに注目し、震災による魚介類汚染の実態を明らかにするとともに、経年変動について解析し、震災による一部化学物質の流出を示唆した。
- 17) 阿草 哲郎 (代表), 挑戦的萌芽研究 「イルカはどのように水銀を解毒しているのか?」, 1,200千円
概要：海棲高等動物における Hg の無毒化メカニズムを解明するため、HgSe 形成のカギとなる Hg および Se 結合タンパクの同定を試みた。
- 18) 阿草 哲郎 (分担), 基盤研究 (S) 「化学物質による細胞内受容体-異物代謝酵素シグナル伝達系攪乱の感受性支配因子の解明」, 500千円
概要：As の感受性支配因子を同定するため、As 曝露させた組換え近交系マウスや途上国の As 汚染地域の住民を対象に、As 感受性遺伝子の解析を試みた。
- 19) 平野 将司 (代表), 特別研究員奨励費 「化学物質の生態リスク評価のための新たな無脊椎モデル生物の確立」, 110千円
概要：無脊椎動物固有の核内受容体である脱皮ホルモン受容体 (EcR) に着目し、EcR を介したシグナル伝達機構を指標として、環境化学物質のリスクを評価する生態毒性試験を確立する。
- 20) Nguyen Minh Tue (代表), 特別研究員奨励費 「ベトナムの樹脂廃棄物リサイクルにより発生する内分泌攪乱物質の動態とリスク評価」, 1,200千円
概要：CALUX を用いてベトナムの樹脂廃棄物リサイクルにより発生する内分泌攪乱物質のヒト暴露実態を解析した。
- 21) 落合 真理 (代表), 特別研究員奨励費 「鯨類に残留する有機ハロゲン代謝物の蓄積特性と脳移行の実態解明」, 600千円
概要：鯨類の血中および脳中水酸化有機ハロゲン化合物を分析し、脳下垂体に集積していることを明らかにした。

生態系解析部門

- 1) 鈴木 聡 (代表), 基盤研究 (A) (一般) 「複合汚染環境における薬剤耐性遺伝子の消長とヒト病原菌への伝播リスク」, 6,400千円
概要：金属、各種抗生物質などの複合汚染に曝された履歴のある環境における薬剤耐性遺伝子の消長と細菌間遺伝子水平伝播を定量的に解明する。バナジウムによる遺伝子水平伝播促進効果は細菌種によって異なることを見いだした。また、環境では培養不可能菌が特異な耐性遺伝子リザーバとなっていることを解明した。薬剤汚染と耐性遺伝子暴露リスク軽減策に関する提言論文を出版した。
- 2) 鈴木 聡 (代表), 基盤研究 (A) (海外学術) 「人為・自然攪乱された熱帯アジアの水圏環境における抗生物質汚染と薬剤耐性遺伝子の動態」, 9,900千円
概要：台風、氾濫、津波、不法な廃液放流などによって種々の排水や排出物が混合される水圏において、薬剤と薬剤耐性遺伝子の定量を行なう。初年度はタイ、バンコク周辺の水圏の汚染実態を明らかにした。
- 3) 鈴木 聡 (分担), 基盤研究 (A) (海外学術) 「アフリカ・アジアの水環境汚染実態と汚染メカニズムの比

3. 研究プロジェクト

較解析」，東京農工大学，700千円

概要：南アフリカの排水処理場における耐性遺伝子の定量分析を行なった。市内河川と処理場水では耐性遺伝子数が多いことが分かった。

- 4) 北村 真一 (代表)，基盤研究 (B)「マボヤ被囊軟化症の被囊軟化メカニズムの解明」，5,200千円

概要：プロテオーム解析により，マボヤ被囊軟化症の発生時に減少する被囊タンパク質を見出した。また，同症の原因虫である *Azumibodo hoyamushi* の病原因子を明らかにするために，EST 解析を行った。

- 5) 濱村奈津子 (代表)，最先端・次世代研究開発支援プログラム「複合汚染に対する微生物遺伝子応答の網羅解析による新規毒性影響評価技術の開発」，33,860千円

概要：複合汚染環境の微生物群集機能応答をメタトランスクリプトーム解析により行った。また汚染物質暴露による遺伝子損傷を DNA 付加体解析により検出した。

- 6) 横川 太一 (代表)，若手研究 (B)「抗生物質流出による水圏微生物群集の応答解析および腐食食物網への影響評価」，3,400千円

概要：抗生物質に対する細菌群集の代謝および群集動態の応答を測定し，生態系における腐食食物網の機能の変化を解析する。

- 7) 横川 太一 (分担)，基盤研究 (A)「海洋中深層における大規模炭素循環を支配する微生物食物網ネットワークの機構論的解明」，東京大学，900千円

概要：海洋中深層における細菌群集生物量・生産量の時空間分布調査および解析，さらに環境パラメータを予測変数として用いた細菌生物量・生産量モデルの確立を行う。

3. 3 共同研究

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 仲山 慶 (代表)，「水生生物に対する界面活性剤の毒性発現機序研究」，花王株式会社，500千円

概要：界面活性剤の魚類に対する毒性影響を解析した。

生態系解析分野

- 1) 北村 真一，Meiji Seika ファルマ，2,000千円

概要：魚類感染症の予防に関する研究。

3. 4 受託研究

環境動態解析分野

- 1) 武岡 英隆，「瀬戸内海等での有害赤潮発生機構解明と予察・被害防止等技術開発」，独立行政法人瀬戸内海水産総合研究センター，880千円

概要：宇和海沿岸域における水温等のモニタリングを行うとともに，過去の海況データや気象データを用いて，赤潮の発生や消滅に関わる環境条件の分析をおこなった。

- 2) 郭 新宇，「西日本沿岸域の藻場生態系への温暖化の影響評価と高精度予測技術の開発」，独立行政法人水産総合研究センター，独立行政法人水産総合研究センター，4,500千円

概要：瀬戸内海西部における水温の経年変動及び長期トレンドについて，観測データを解析し，さらにそれを再現する数値モデルの構築を行った。

- 3) 吉江 直樹，「黒潮から親潮域における低次生態系モニタリングと小型浮魚類漁業への温暖化影響評価」，独立行政法人水産総合研究センター，1,055千円

概要：低次生態系モデルを用いて日本周辺海域の低次生態系を再現し，気候変動にどのように応答するかについて研究した。

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 田辺 信介，生物蓄積性内分泌かく乱候補物質によるわが国の野生生物汚染の実態解明，日本エヌ・ユー・エ

ス株式会社, 3,000千円

概要：スナメリから検出された有機ハロゲン化合物とその代謝物の蓄積特性を解析し、リスクを評価した。

- 2) 岩田 久人 (代表), JSPS 二国間交流事業共同研究「日韓共通の野生生物種を利用した環境汚染物質のバイオモニタリングシステムの構築」, 1,200千円

概要：日韓共通の野生生物種を対象に、環境汚染物質のバイオマーカーを探索した。

- 3) 仲山 慶 (代表), EXTEND2010「医薬品等糖質コルチコイド様物質による環境汚染レベルの把握と生態影響評価」, 日本エヌ・ユー・エス, 2,700千円

概要：下水処理場処理水における合成糖質コルチコイドのモニタリングを実施するとともに、コイを対象とした室内実験にて糖質コルチコイドの生物影響を評価した。

3. 5 各種研究助成金 (民間・財団等), 奨学寄付金等

環境動態解析分野

- 1) 郭 新宇 (分担), 海洋放射能汚染緊急対応予測システムの提案, 住友財団の環境研究助成, 100千円

概要：瀬戸内海の海洋循環モデルをベースにして、汚染物質の輸送と拡散のシミュレーションを行った。

- 1) 槻木 玲美, 公益財団法人クリタ, 環境科学振興財団—国内研究助成一般研究「水・越境汚染が我が国の湖沼生態系に及ぼす影響に関する研究」, 1,400千円

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 板井 啓明 (代表), ニッセイ財団 (環境問題研究助成)「水銀安定同位体比を指標とした海洋中メチル水銀生成機構の解明」, 1,300千円

概要：外洋域に存在する水銀のソースおよびメチル水銀の生成場について、es-Bank に保存された様々な生物試料中の水銀安定同位体比をもとに解析した。

- 2) 阿草 哲郎 (代表), ニッセイ財団, (テーマ：鯨類における微量元素の越境汚染の影響 (若手研究助成), k 1,100千円

概要：日本海側と太平洋側の鯨類中微量元素濃度および Pb 同位体比を測定することで、大陸由来の越境汚染の影響を評価した。

生態系解析部門

- 1) 大森 浩二, 貯水池の適正管理手法の開発, 財団法人ダム水源地環境整備センター, 200千円

- 2) 濱村奈津子, モンゴル鉱山地域における重金属耐性微生物の分布と多様性調査, 公益財団法人発酵研究所, 250千円

概要：モンゴルのウランバートル近辺の鉱山地域における、重金属耐性微生物の分布と多様性解析を行った。

4. 研究成果

(暦年で2013年に出版、掲載されたもの)

4. 1 著 書

環境動態解析部門

- 1) Tsugeki N. K., Urabe J. : Eutrophication, warming and historical changes of the plankton community in Lake Biwa during the 20th century., 7章分担執筆 Goldman C., Kumagai M., Roberts R. (eds). : Climate Change and Inland Waters : Impacts and Mitigation approaches for Ecosystems and Society., Wiley Blackwell. pp. 111-130.
- 2) 吉江直樹 : 第14章 海洋生態系とモデリング, 日本海洋学会沿岸海洋研究会編, 詳論沿岸海洋学, 恒星社厚生閣, 229-246

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 田辺信介 : 9.4 環境中の化学物質濃度, 環境年表, 国立天文台編, 丸善出版, 東京, 369-395.
- 2) Sousa, A. C. A., Pastorinho, M. R., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Organotin compounds from snails to humans. Pollutant Diseases, Remediation and Recycling, Environmental Chemistry for a Sustainable World, Vol. 4, Lichtfouse, E., Schwarzbauer, J. and Robert, D. (Eds), Springer, Switzerland, 215-275.

4. 2 学協会誌等

環境動態解析部門

原 著

- 1) Guo, X., Zhu, X. -H., Long, Y., and Huang, D. : Spatial variations in the Kuroshio nutrient transport from the East China Sea to south of Japan. *Biogeosciences*, 10, 6403-6417, doi : 10.5194/bg-10-6403-2013.
- 2) Miyazawa, Y., Murakami, H., Miyama, T., Varlamov, S. M., Guo, X., Waseda, T., and Sil, S. : Data assimilation of the high-resolution sea surface temperature obtained from the Aqua-Terra satellites (MODIS-SST) using an ensemble Kalman Filter. *Remote Sensing*, 5, 3123-3139, doi : 10.3390/rs5063123.
- 3) 郭新宇・于晓杰・武岡英隆 : 大潮・小潮に連動する潮汐フロント, 底部冷水と河口循環流. *沿岸海洋研究*, 50 (2), 131-140.
- 4) 岡英太郎・磯辺篤彦・市川香・升本順夫・須賀利雄・川合善美・大島慶一郎・島田浩二・羽角博康・見延庄士郎・早稲田卓爾・岩坂直人・河宮未知生・伊藤幸彦・久保田雅久・中野俊也・日比谷紀之・寄高博行 “海洋学の10年展望(1)—日本海洋学会将来構想委員会物理サブグループの議論から—”, *海の研究*, 22 (6), 191-218
- 5) 磯辺篤彦 “沿岸水と黒潮水を繋ぐ黒潮前線波動”. *沿岸海洋研究*, 50, 149-155
- 6) Tsugeki, N. K., Urabe, J. : An experimental test of the ability of *Daphnia galeata* resting egg production in lake Biwa. *Journal of Limnology*, 73, 191-196.
- 7) Kuwae, M., Tsugeki, N. K., Agusa, T., Toyoda, K., Tani, Y., Ueda, S., Tanabe, S., Urabe, J.: Sedimentary records of metal depositions in Japanese alpine lakes for the last 250 years : Recent enrichments of airborne Sb and In in East Asia. *Science of The Total Environment*, 442, 189-197
- 8) Kuwae, M., Yamamoto, M., Ikehara, K., Irino, T., Takemura, K., Sagawa, T., Sakamoto, T., Ikehara, M., and Takeoka, H. (2013) Stratigraphy and wiggle-matching-based age-depth model of late Holocene marine sediments in Beppu Bay, southwest Japan. *Journal of Asian Earth Sciences*, 69, 133-148.
- 9) Kaneda, A., Fujii, N., Ohyama, J., Takahashi, D., Yamamoto, F. and Takeoka, H. : Seasonal and interannual variations in the abundance of jellyfish in a southern coastal waters of Iyo-Nada, Japan : Influence of cyclonic gyre transport. *Plankton & Benthos Research*, 8 (3), 124-133.

総説等

- 1) 磯辺篤彦 “沿岸・陸棚帯におけるアルゴ時代の海洋物理学”. *月刊海洋*, 45 (1), 30-35
- 2) 磯辺篤彦 “海ごみの科学—漂流・漂着のメカニズムと研究の最前線”. *生活と環境*, 58 (9), 11-15

化学汚染・毒性解析部門

原著

- 1) Eguchi, A., Isobe, T., Ramu, K., Tue, N. M., Sudaryanto, A., Devanathan, G., Viet, P. H., Tana, R. S., Takahashi, S., Subramania, An. and Tanabe, S.: Soil contamination by brominated flame retardants in open waste dumping sites in Asian developing countries. *Chemosphere*, **90** (9), 2365-2371.
- 2) Mizukawa, H., Nomiya, K., Nakatsu, S., Yachimori, S., Hayashi, T., Tashiro, Y., Nagano, Y. and Tanabe, S.: Species-specific differences in the accumulation features of organohalogen contaminants and their metabolites in the blood of Japanese terrestrial mammals. *Environmental Pollution*, **174** (1), 28-37.
- 3) Suzuki, G., Tue, N. M., Malarvannan, G., Sudaryanto, A., Takahashi, S., Tanabe, S., Sakai, S. I., Brouwer, A., Uramaru, N., Kitamura, S. and Takigami, H.: Similarities in the Endocrine-Disrupting Potencies of Indoor Dust and Flame Retardants by Using Human Osteosarcoma (U2OS) Cell-Based Reporter Gene Assays. *Environmental Science and Technology*, **47** (6), 2898-2908.
- 4) Asante, K. A., Takahashi, S., Itai, T., Isobe, T., Devanathan, G., Muto, M., Agyakwah, S. K., Adu-Kumi, S., Subramanian, An. and Tanabe, S.: Occurrence of halogenated contaminants in inland and coastal fish from Ghana: Levels, dietary exposure assessment and human health implications. *Ecotoxicology and Environmental Safety*, **94**, 123-130.
- 5) Ochiai, M., Nomiya, K., Isobe, T., Mizukawa, H., Yamada, T. K., Tajima, Y., Matsuishi, T., Amano, M. and Tanabe, S.: Accumulation of hydroxylated polychlorinated biphenyls (OH-PCBs) and implications for PCBs metabolic capacities in three porpoise species. *Chemosphere*, **92** (7), 803-810.
- 6) Tue, N. M., Suzuki, G., Takahashi, S., Kannan, K., Takigami, H. and Tanabe, S.: Dioxin-related compounds in house dust from New York State: Occurrence, *in vitro* toxic evaluation and implications for indoor exposure. *Environmental Pollution*, **181**, 75-80.
- 7) Kitamura, S., Matsuishi, T., Yamada, T. K., Tajima, Y., Ishikawa, H., Tanabe, S., Nakagawa, H., Uni, Y. and Abe, S.: Two genetically distinct stocks in Baird's beaked whale (Cetacea: Ziphiidae). *Marine Mammal Science*, **29** (4), 755-766.
- 8) Ilyas, M., Sudaryanto, A., Setiawan, I. E., Riyadi, A., Isobe, T. and Tanabe, S.: Characterization of polychlorinated biphenyls and brominated flame retardants in sludge, sediment and fish from municipal dumpsite at Surabaya, Indonesia. *Chemosphere*, **93** (8), 1500-1510.
- 9) Chakraborty, P., Zhang, G., Eckhardt, S., Li, J., Breivik, K., Lam, P. K. S., Tanabe, S. and Jones, K. C.: Atmospheric polychlorinated biphenyls in Indian cities: Levels, emission sources and toxicity equivalents. *Environmental Pollution*, **182**, 283-290.
- 10) Itai, T., Maruoka, T., Kusakabe, M., Uesugi, K., Mitamura, M. 2013. Use of soil color meter for aqueous iron and ammonium measurements. *Soil Science and Plant Nutrition*, **59**, 450-454.
- 11) Hamamura, N., Fukushima, K., Itai, T., 2013. Identification of arsenite- and antimonite-oxidizing bacteria associated with antimony mine tailings. *Microbes and Environments*, **2**, 257-263.
- 12) Hisada, A., Shimodaira, K., Okai, T., Watanabe, K., Takemori, H., Takasuga, T., Noda, Y., Shirakawa, M., Kato, N. and Yoshinaga, J.: Serum levels of hydroxylated PCBs, PCBs and thyroid hormone measures of Japanese pregnant women. *Environmental Health and Preventive Medicine*, **18** (3), 205-214.
- 13) Taniyasu, S., Kannan, K., Wub, Q., Kwok, K., Yeung, L. Y. W., Lam, P. K. S., Chittim, B., Kida, T., Takasuga, T., Tsuchiya, Y. and Yamashita, N.: Interlaboratory trials for analysis of perfluorooctanesulfonate and perfluorooctanoate in water Ssmples: performance and recommendations. *Analytica Chimica Acta*, **770**, 111-120.
- 14) Sankoda, K., Kuribayashi, T., Nomiya, K. and Shinohara, R.: Occurrence and source of chlorinated polycyclic aromatic hydrocarbons (Cl-PAHs) in tidal flats of the Ariake Bay, Japan. *Environmental Science & Technology*, **47** (13), 7037-7044.
- 15) Sankoda, K., Nomiya, K., Kuribayashi, T. and Shinohara, R.: Halogenation of polycyclic aromatic hydrocarbons

4. 研究成果

- by photochemical reaction under simulated tidal flat conditions. *Polycyclic Aromatic Compounds*, **33** (3), 236-253.
- 16) Ikenaka, Y., Sakamoto, M., Nagata, T., Takahashi, H., Miyabara, Y., Hanazato, T., Ishizuka, M., Isobe, T., Kim, J. -W. and Chang, K. -H.: Effects of polycyclic aromatic hydrocarbons (PAHs) on an aquatic ecosystem: acute toxicity and community-level toxic impact tests of benzo [a] pyrene using lake zooplankton community. *Journal of Toxicological Sciences*, **38** (1), 131-136.
 - 17) Malarvannan, G., Isobe, T., Covaci, A., Prudente, M. and Tanabe, S. : Accumulation of brominated flame retardants and polychlorinated biphenyls in human breast milk and scalp hair from the Philippines : Levels, distribution and profiles. *Science of the Total Environment*, **442**, 366-379.
 - 18) Isobe, T., Ogawa, S. P., Sugimoto, R., Ramu, K., Sudaryanto, A., Malarvannan, G., Devanathan, G., Ramaswamy, B. R., Munuswamy, N., Ganesh, D. S., Sivakumar, J., Sethuraman, A., Parthasarathy, V., Subramanian, A., Field, J. and Tanabe, S. : Perchlorate contamination of groundwater from fireworks manufacturing area in South India. *Environmental Monitoring and Assessment*, **185** (7), 5627-5637.
 - 19) Kim, J. -W., Isobe, T., Sudaryanto, A., Malarvannan, G., Chang, K. -H., Muto, M., Prudente, M. and Tanabe, S. : Organophosphorus flame retardants in house dust from the Philippines : Occurrence and assessment of human exposure. *Environmental Science and Pollution Research*, **20** (2), 812-822.
 - 20) Dau, P. T., Sakai, H., Hirano, M., Ishibashi, H., Tanaka, Y., Kameda, K., Fujino, T., Kim, E. Y. and Iwata, H. : Quantitative analysis of the interaction of constitutive androstane receptor with chemicals and steroid receptor coactivator 1 using surface plasmon resonance biosensor systems : a case study of the Baikal seal and the mouse, *Toxicological Sciences*, 131 (1), 116-127.
 - 21) Lee, J. S., Iwabuchi, K., Nomaru, K., Nagahama, N., Kim, E. Y. and Iwata, H. : Molecular and functional characterization of a novel aryl hydrocarbon receptor isoform, AHR1 β in the chicken (*Gallus gallus*), *Toxicological Sciences*, 136 (2), 450-466.
 - 22) Fujisawa N., Darwish, W. S., Ikenaka, Y., Kim, E. Y., Lee, J. S., Iwata, H., Nakayama, S. and Ishizuka, M., : Molecular evaluation of a new highly sensitive aryl hydrocarbon receptor in ostriches, *Poultry Science*, 92 (7), 1921-1929.
 - 23) Thuruthippallil, L. M., Kubota, A. Kim, E. Y. and Iwata H. : Alternative *in vitro* approach for assessing AHR-mediated CYP1A induction by dioxins in wild cormorant (*Phalacrocorax carbo*) population, *Environmental Science and Technology*, 47 (12), 6656-6663.
 - 24) Kubota, A., Yoneda, K., Tanabe, S. and Iwata, H. : Sex differences in the accumulation of chlorinated dioxins in the cormorant (*Phalacrocorax carbo*) : implication of hepatic sequestration in the maternal transfer, *Environmental Pollution*, 178, 300-305.
 - 25) Bak, S. M., Iida, M., Hirano, M., Iwata, H. and Kim, E. Y. : Potencies of red seabream AHR1-and AHR2-mediated transactivation by dioxins : implication of both AHRs in dioxin toxicity, *Environmental Science and Technology*, 47 (6), 2877-2885.
 - 26) Iida, M., Kim, E. Y., Murakami, Y., Shima, Y. and Iwata, H. : Toxic effects of 2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-*p*-dioxin on the peripheral nervous system of developing red seabream (*Pagrus major*), *Aquatic Toxicology*, 128-129, 193-202.
 - 27) Wananabe, M. X., Kunisue, T., Ueda, N., Nose, M., Tanabe, S. and Iwata, H. : Toxicokinetics of dioxins and other organochlorine compounds in Japanese people : association with hepatic CYP1A2 expression levels, *Environment International*, 1 (53), 53-61.
 - 28) Kuwae, M., Tsugeki, N. K., Agusa, T., Toyoda, K., Yukinori, T., Ueda, S., Tanabe, S. and Urabe, J. : Sedimentary records of metal depositions in Japanese alpine lakes for the last 250 years : recent enrichments of airborne Sb and In in East Asia, *Science of the Total Environment*, 442, 189-197.
 - 29) Noguchi, T., Itai, T., Tue, N. M., Agusa, T., HaN. N., Horai, S., Trang, P. T. K., Viet, P. H., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Exposure assessment of lead to workers and children in the battery recycling craft village, Dong Mai, Vietnam, *Journal of Material Cycles and Waste Management*, 16 (1), 46-51.

生態系解析部門

原著

- 1) Cruz, A., Areias, D., Duarte, AS, Correia, A., Suzuki, S. and Mendo, S. : *Aeromonas molluscorum* Av27 is a potential tributyltin (TBT) bioremediator : phenotypic and genotypic characterization indicates its safe application. *Antonie van Leeuwenhoek Journal of Microbiology*, 104, 385-396.
- 2) Suzuki, S., Ogo, M., Miller, T. W., Shimizu, A., Takada, H. and Siringan, M. A. : Who possesses drug resistance genes in the aquatic environment? : sulfamethoxazole (SMX) resistance genes among the bacterial community in water environment of Metro-Manila, Philippines. *Frontiers in Microbiology*, 4, doi : 10.3389/fmicb. 2013.00102.
- 3) Suga, N., Ogo, M. and Suzuki, S. : Risk assessment of oxytetracycline in water phase to major sediment bacterial community : a water-sediment microcosm study. *Environmental Toxicology and Pharmacology*, 36, 142-148.
- 4) Mizukawa, K., Takada, H., Ito, M., Geok, Y. B., Hosoda, J., Yamashita, R., Saha, M., Suzuki, S., Migués, C., Frias, J., Antunes, J. C., Sobral, P., Santos, I., Micaelo, C. and Ferreira, A. M. : Monitoring of a wide range of organic micropollutants on the Portuguese coast using plastic pellets. *Marine Pollution Bulletin*, 70, 296-302.
- 5) Bong, C. W., Obayashi, Y. and Suzuki, S. : Succession of protease activity in seawater and bacterial isolates during starvation in a mesocosm experiment. *Aquatic Microbial Ecology*, 69, 33-46.
- 6) Shimizu, A., Takada, H., Koike, T., Takeshita, A., Saha, M., Rinawati, Nakada, N., Murata, A., Suzuki, T., Suzuki, S., Chiem, N. H., Tuyen, B. C., Viet, P. H., Siringan, M. A., Kwan, C., Zakaria, M. P. and Reungsang, A. : Ubiquitous occurrence of sulfonamides in tropical Asian waters. *Science of the Total Environment*, 452-453, 108-115.
- 7) Cruz, A., Micaelo, N., Felix, V., Song, J-Y., Kitamura, S-I., Suzuki, S. and Mendo, S. : *sugE* : a gene involved in tributyltin (TBT) resistance of *Aeromonas molluscorum* Av27. *Journal of General and Applied Microbiology*, 59, 39-47.
- 8) Seto, M., Wada, S. and Suzuki, S. : The effect of zinc on aquatic microbial ecosystems and the degradation of dissolved organic matter. *Chemosphere*, 90, 1091-1102.
- 9) Sintés, E., Bergauer, K., De Corte, D., Yokokawa, T. and Herndl, G. J. : Archaeal *amoA* gene diversity points to distinct biogeography of ammonia-oxidizing Crenarchaeota in the ocean. *Environmental Microbiology*, 15, 1647-1658
- 10) Balter, F., Aristegui, J., Gasol, J., Yokokawa, T. and Herndl, G. J. : Bacterial versus archaeal origin of extracellular enzymatic activity in the northeast Atlantic deep waters. *Microbial Ecology*, 65, 277-288
- 11) De Corte, D., Sintés, E., Yokokawa, T. and Herndl, G. J. : Comparison between MICRO-CARD-FISH and 16S rRNA gene clone libraries to assess the active versus total community in the coastal Arctic. *Environmental Microbiology Report*, 5, 272-281
- 12) Yokokawa, T., Yang, Y., Motegi, C. and Nagata, T. : Large-scale geographical variation in prokaryotic abundance and production in meso- and bathypelagic zones of the central Pacific and Southern oceans. *Limnology and Oceanography*, 58, 61-73
- 13) Lekunberri, I., Sintés, E., De Corte, D., Yokokawa, T. and Herndl, G. J. : Spatial patterns of bacterial and archaeal communities along the Romanche fracture zone (tropical Atlantic). *FEMS Microbial Ecology*, doi : 10.1111/1574-6941.12142
- 14) Hamamura N., Meneghin, J. and Reyesnbach, A-L.: Comparative community gene expression analysis of Aquificales-dominated geothermal springs. *Environmental Microbiology*, 15, 1226-1237.
- 15) Takacs-Vesbach, T., Inskeep, W. P., Jay, Z. J. , Rusch, D. B., Tringe, S. G., Herrgard, M., Kozubal, M. A., Hamamura, N., Macur, R. E., Fouke, B. W., Reysenbach, A-L., McDermott, T. R., Jennings, R., Hengartner, N. W. and Xie, G. : The diversity and function of Aquificales in Yellowstone National Park : Analysis of metagenome sequence across geochemically diverse habitats reveals specialization of major lineages. *Frontiers in Microbiology*, 4, 84.
- 16) Hamamura, N., Fukushima, K. and Itai, T. : Identification of arsenite- and antimonite-oxidizing bacteria associated with antimony mine tailings. *Microbes and Environments*, 28, 257-263.
- 17) Hamamura, N., Ward, D. M. and Inskeep, W. P. : Effects of hydrocarbon mixture types on alkane degradation and hydrocarbon-degrading microbial populations in different soil environments. *FEMS Microbiology Ecology*, 85, 168-178.

4. 研究成果

- 18) Kanaly, R. A. and Hamamura, N. : 9,10-phenanthrene-dione biodegradation by a soil bacterium and identification of transformation product by LC/ESI-MS/MS. *Chemosphere*, 92, 1442-1449.
- 19) Mitsunobu, S., Hamamura, N., Kataoka, T. and Shiraishi, F. : Arsenic attenuation in geothermal streamwater coupled with biogenic arsenic (III) oxidation. *Applied Geochemistry*, 35, 154-160.
- 20) Kunihiro, M., Ozeki, Y., Nogi, Y., Hamamura, N. and Kanaly, R. K. : Benz [a] anthracene biotransformation and production of ring fission products by *Sphingobium* sp. strain KK22. *Applied and Environmental Microbiology*, 79, 4410-4420.
- 21) Miller, T. W., Bosley, K. L., Shibata, J., Brodeur, R. D., Omori, K. and Emmett, R. : Contribution of prey to Humboldt squid *Dosidicus gigas* in the northern California Current, revealed by stable isotope analyses. *Marine Ecology Progress Series* 477, 123-134.
- 22) Miller, T. W., Bosley, K. L., Shibata, J., Brodeur, R., Omori, K. and Emmett, R. : Use of mixing models for Humboldt squid diet analysis : Reply to Field et al. *Marine Ecology Progress Series* 500, 287-290.
- 23) Tue, G. T., Hamaoka, H., Quy, T. D., Nhuan, M. T., Sogabe, A., Nam, N. T. and Omori, K. : Dual isotope study of food sources of a fish assemblage in the Red River mangrove ecosystem, Vietnam. *Hydrobiologia*, published on-line.

総説等

- 1) Pruden, A., Larson, D. G. J., Amezquita, A., Collignon, P., Brandt, K. K., Graham, D. W., Lazorchak, J. M., Suzuki, S., Silly, P., Snape, J. R., Topp, E., Zhang, T. and Zhu, Y-G. : Management options for reducing release of antibiotics and antibiotic resistance genes to the environment. *Environmental Health Perspectives*, 121, 878-885. <http://dx.doi.org/10.1289/ehp.1206446>

4. 3 学内, 所内誌等

環境動態解析部門

- 1) Guo X, Harai K, Kaneda A, Takeoka H : Simulation of tidal currents and nonlinear tidal interactions in the Seto Inland Sea, Japan. *Reports of Research Institute for Applied Mechanics, Kyushu University*, No. 145, 43-52.

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 田辺信介：科研費 基盤研究（A）（海外学術）平成25年度採択「新規 POPs および POPs 代替物質によるアジア地域の汚染実態と時空間分布の解明」, 愛媛大学学報, Vol. 595号（平成25年5月号）.
- 2) 田辺信介：大学の力量, 会員だより, 愛媛大学農学部ユウカリ会報, 第39号, 7.

4. 4 一般誌等

環境動態解析部門

- 1) Guo, X., Zhu, X-H: Downstream increase of nutrient transport by the Kuroshio. *IMBER Newsletter*, Issue 25, 10-13.

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 田辺信介：コラム：PCB による環境汚染と子どもの健康, 化学物質の内分泌かく乱作用に関する情報提供サイト, 環境省, 1-2.
- 2) 野見山桂・田辺信介：野生生物の化学汚染：有機ハロゲン化合物および水酸化代謝物の曝露実態解明とリスク評価, *Endocrine Disrupter News Letter*, 16 (2), 4.
- 3) 田辺信介：東日本大震災で懸念される海の化学汚染, 人と海洋の共生をめざして, 150人のオピニオンIV, 海洋政策研究財団, 150-151.
- 4) 岩田久人：巻頭言 生態リスク初期評価のための適切な試験法とは？, *Endocrine Disrupter News Letter*, 16, 3, 1.

- 5) 飯田 緑・Kim Eun-Young・村上安則・岩田久人, ダイオキシンによるマダイ胚の末梢神経系への影響, *Endocrine Disrupter News Letter*, 16, 3, 3.
- 6) 岩田久人・Lee Jin-Seon・岩淵康平・Kim Eun-young, 鳥類で見つかった第3のダイオキシン受容体, *Endocrine Disrupter News Letter*, 16, 3, 5.

4. 5 報告書等

化学汚染・毒性解析部門

- 1) 田辺信介・高橋 真・板井啓明・野口貴子: 第5章 ベトナムの ELV 鉛バッテリーリサイクルに関連した有害金属汚染の実態解明とヒトの健康リスク評価, 平成24年度環境研究総合推進費補助金研究事業研究報告書「使用済み自動車 (ELV) の資源ポテンシャルと環境負荷に関するシステム分析」(K123001), 平成25年3月, 34-39.
- 2) 田辺信介・磯部友彦: 海洋汚染とどのようにつきあうべきか, WWF ジャパン 暮らしと自然の復興プロジェクト実施報告書, 世界自然保護基金ジャパン, 68-75.
- 3) 田辺信介: 環境報告書を拝読して, 外部の方からのご意見, 農業環境技術研究所環境報告書2013, 37 (2013年10月発行).

生態系解析部門

- 1) 鈴木 聡: 魚類養殖環境における薬剤耐性菌. 第46回緑膿菌研究会講演記録, 62-65.

4. 6 学会発表等

環境動態解析部門

- 1) Yoshie, N., S. Toyokawa, R Ishimaru, E. Tsutsumi, X. Guo and H. Takeoka: Lower-trophic level ecosystem dynamics in the western Seto Inland Sea, Japan, Japan Geoscience Union Meeting 2013, Makuhari, Japan, 19th May., Oral.
- 2) Ito, S., K. Komatsu, N. Yoshie, A. Takasuka, T. Okunishi, T. Kameda, S. Ohno and K. Watanabe: Evaluation of Global Change effect on Pacific saury using ecosystem models, Japan Geoscience Union Meeting 2013, Makuhari, Japan, 19th May., Oral.
- 3) 吉江直樹, 豊川将平, 石丸梨香, 堤英輔: 2012年夏季の豪雨に対する伊予灘の低次生態系応答, 2013年度日本海洋学会秋季大会, 札幌, 2013年9月22日, 口頭
- 4) 坂本航平, 吉江直樹, 中川美和: 夏季の東シナ海における植物プランクトン群集構造の短期変動, 2013年度日本海洋学会秋季大会, 札幌, 2013年9月20日, 口頭
- 5) 中川美和, 郭新宇, 石睿, 堤英輔, 眞野能, 吉江直樹, 岩崎慎介, 笠毛健生: 潮汐フロント周辺での GPS ラジオゾンデ観測: 盛夏と初秋の比較, 2013年度日本海洋学会秋季大会, 札幌, 2013年9月20日, 口頭
- 6) Taniuchi, Y., T. Kodama, K. Sakamoto, M. Nakagawa, N. Yoshie, T. Hasegawa, K. Hidaka, T. Ichikawa, and A. Kuwata: Distribution of marine diazotrophic cyanobacteria around Japan in the western North Pacific Ocean in summer, 18th International Congress on Nitrogen Fixation, Miyazaki, Japan, 15th Nov., Poster.
- 7) Yoshie, N., K. Sakamoto, M. Nakagawa, and X. Guo: Drastic change of phytoplankton community in the Kuroshio region of the East China Sea associated with the Kuroshio frontal eddy, Ocean Science Meeting 2014, Hawaii, USA, 27th Feb., Oral.
- 8) Guo, X., Li, Q., Koizumi, Y., Takeoka, H.: Seasonal and interannual variations of nutrient concentrations in the Bungo Channel, Japan. The 17th Pacific-Asian Marginal Seas Meeting. Hangzhou, China. April.
- 9) Wang, Y., Guo, X., Zhu, X-H., Wu, Q-S., Huang, D-J.: Interannual variations and trend of downstream nutrient transport by the Kuroshio in the East China Sea. The 17th Pacific-Asian Marginal Seas Meeting. Hangzhou, China. April.
- 10) 吉江直樹, 豊川将平, 石丸梨香, 堤 英輔, 郭 新宇, 武岡英隆: 西部瀬戸内海における低次生態系の動態. JpGU2013. 千葉. 5月
- 11) 中川美和, 郭 新宇, 石 睿, 吉江直樹, 堤 英輔, 眞野 能, 岩崎慎介, 笠毛健生: 潮汐フロント周辺での

4. 研究成果

- GPS ラジオゾンデ観測. 新学術領域 A01班合同集会. 三重. 6月
- 12) Guo, X.: Nutrient transport by the Kuroshio and its impact on the East China Sea and Seto Inland Sea. WCRP/CLIVAR Second International Symposium on Boundary Current Dynamics. Lijiang, China. (invited) July.
 - 13) 中川美和, 郭 新宇, 石 睿, 吉江直樹, 堤 英輔, 眞野 能, 岩崎慎介, 笠毛健生: 潮汐フロント周辺での GPS ラジオゾンデ観測: 盛夏と初秋の比較. 日本海洋学会秋季大会. 札幌. 9月
 - 14) 郭 新宇: 日中の沿岸海洋モニタリングの動向. 日本海洋学会秋季大会. 札幌. 9月
 - 15) 郭 新宇: 瀬戸内海の気象海象: 潮流、残差流、水温構造、大気境界層. 日本海洋学会秋季大会. 札幌. 9月
 - 16) Guo, X., Zhu, X-H., Long, Y., Huang, D-J.: Kuroshio nutrient transport from the East China Sea to south of Japan. 日本海洋学会秋季大会. 札幌. 9月
 - 17) 永井 平, 日比谷紀之, 武岡英隆, 郭 新宇, 堤 英輔: 潮汐残差流渦が豊後水道における急潮現象に与える影響. 日本海洋学会秋季大会. 札幌. 9月
 - 18) 岩清水徳堂, 森本昭彦, 郭 新宇, 王 玉成, 滝川哲太郎, 伊藤 雅: 東シナ海・黄における高精度潮汐同化モデルの開発Ⅱ. 日本海洋学会秋季大会. 札幌. 9月
 - 19) Guo, X., Zhu, X-H., Long, Y., Huang, D-J.: Budget calculation for the Kuroshio nutrient transport from the East China Sea to south of Japan. 6th China-Japan-Korea (CJK) IMBER Symposium. Tokyo, Japan. October.
 - 20) Guo, X., Wang, Y., Ono, J.: A modeling approach to understanding the transport of nutrients and pollution materials in a marginal sea. JSPS Joint International Seminar. Chiangmai, Thailand. November.
 - 21) 郭 新宇, 中川美和, 石 睿, 吉江直樹, 堤 英輔, 眞野 能, 岩崎慎介, 笠毛健生: 潮汐フロント周辺での GPS ラジオゾンデ観測: 盛夏と初秋の比較. 2013年日本気象学会秋季大会. 仙台. 11月
 - 22) Wang, Y., Guo, X., Zhao, L., Zhang, J.: Influence of nutrients with different sources on nutrient concentration and primary production in the East China Sea: a model study. 5th Environmental Science Joint Forum, Keelung, Taiwan. November.
 - 23) Yoshie, N., Sakamoto, K., Nakagawa, M., Guo, X.: Drastic change of phytoplankton community in the Kuroshio region of the East China Sea associated with the Kuroshio frontal eddy. Ocean Sciences Meeting. Hawaii, USA, February.
 - 24) Tsutsumi, E., Guo, X., Takeoka, H., Yoshie, N.: Inter-annual variability of water temperature in a channel connecting an inland sea and the Kuroshio region. Ocean Sciences Meeting 2014. Hawaii, USA. February.
 - 25) Wang, Y., Guo, X., Zhao, L., Zhang, J.: Influence of nutrients with different sources on nutrient distribution and primary production in the East China Sea. Ocean Sciences Meeting 2014. Hawaii, USA. February.
 - 26) Guo, X., Soeyanto, E., Ono, J., Miyazawa, Y.: Interannual variations of Kuroshio transport in the East China Sea and its relation to Pacific decadal oscillation and mesoscale eddy. Ocean Sciences Meeting. Hawaii, USA. February.
 - 27) Yu, X., Guo, X., Takeoka, H.: Fortnightly variation of circulation induced by the bottom cold water. Ocean Sciences Meeting 2014. Hawaii, USA. February.
 - 28) 石 睿, 郭新宇, 王東暁, 曾麗麗, 陳 拳: 南シナ海北部の沿岸フロントの季節変化及び海上風への影響. 2014年日本海洋学会春季大会. 東京. 3月
 - 29) 岩崎慎介・磯辺篤彦: 冬季東シナ海における黒潮前線尖鋭度の季節進行に伴う大気応答. 日本海洋学会春季大会. 東京. 3月
 - 30) 磯辺篤彦: 沿岸の海洋物理学に関する三つのパラダイム. 日本海洋学会春季大会. 東京. 3月
 - 31) 磯辺篤彦: 温暖化/水位上昇研究の瀬戸内海への展開— CMES プロジェクトの紹介. 日本海洋学会春季大会. 東京. 3月
 - 32) 磯辺篤彦・加古真一郎・岩崎慎介: 春季日本海のプランクトンブルームに対する SST と大気場の応答. 日本海洋学会秋季大会. 札幌. 9月
 - 33) 笠毛健生・磯辺篤彦: 冬季東シナ海の黒潮上で形成される降水帯の風向依存性について. 札幌. 9月
 - 34) 岩中祐一・磯辺篤彦・加古真一郎: バルーン空撮と非静水圧モデルで検出した河口フロントの前線波動構造. 日本海洋学会秋季大会. 札幌. 9月
 - 35) 宮尾泰幸・磯辺篤彦: バルーン空撮による沿岸海洋前線周辺の流速場の可視化. 日本海洋学会秋季大会. 札幌. 9月
 - 36) 加三千宣: 古海洋研究の最前線. 日本海洋学会秋季大会, 札幌, 9月
 - 37) 加三千宣・山本 正伸・佐川 拓也: 北海道苫小牧沖における過去3000年間の高解像度古水温記録. 日本地球惑星科学連合, 千葉, 5月.

- 38) 山本正伸・加三千宣：過去2900年間の太平洋十年規模振動とレジームシフト．日本地球惑星科学連合，千葉，5月
- 39) 林竜馬，牧野渡，占部城太郎，栗野将，槻木玲美，小田寛貴：山形県畑谷大沼周辺における過去50年間の植生とスギ花粉年間堆積量の変化．日本花粉学会第54回大会，8月
- 40) 槻木玲美，兵藤不二夫，加三千宣，牧野渡，谷幸則，占部城太郎：人為起源ダスト増加による我が国での重金属・栄養塩負荷の増大に関する研究．地球惑星科学連合2013年大会，千葉5月
- 41) 槻木玲美，加三千宣：堆積物の色素・遺骸を用いた湖沼のプランクトン動態の復元．日本生態学会第60回全国大会，静岡，6月
- 42) 大槻朝，石田聖二，加三千宣，槻木玲美，兵藤不二夫，牧野渡，占部城太郎：山地・低地湖沼における過去100年のミジンコ属 (*Daphnia*) 個体群構造とその変遷の復元．日本生態学会第60回全国大会，静岡，3月
- 43) Tsugeki, N. K., Yamamoto K., Hayami Y., Tani Y., Yoshino K., Hamada T. Contrasting temporal and spatial distribution of dinoflagellate versus diatom during a tidal cycle in a shallow estuary, Ariake Sea, Japan. International seminar on metapopulation studies on microalgae in coastal waters of East China Sea and Yellow Sea, Saga, Japan, November

化学汚染・毒性解析部

- 1) Tanabe, S. and Viet, P. H.: Preface. Japan-Vietnam Joint Workshop on Current Challenges for Managing Environmental Issues and Waste Recycling in Northern Vietnam, Hanoi, Vietnam, January, Abstract Book, 1.
- 2) Takahashi, S., Itai, T., Noguchi, T., Tue, N. M., Agusa, T., Ha, N. N., Horai, S., Trang, P. T. K., Viet, P. H. and Tanabe, S.: Human exposure to lead and antimony in a battery recycling village, Dong Mai, Vietnam. Japan-Vietnam Joint Workshop on Current Challenges for Managing Environmental Issues and Waste Recycling in Northern Vietnam, Hanoi, Vietnam, January, Abstract Book, 10.
- 3) Suzuki, G., Someya, M., Matsukami, H., Noda, N., Tue, N. M., Tuyen, L. H., Fujimori, T., Takahashi, S., Tanabe, S., Viet, P. H. and Takigami, H.: Emission of organic contaminants and heavy metals from primitive e-waste recycling activities: Preliminary results for soil and sediment collected in the northern part of Vietnam. Japan-Vietnam Joint Workshop on Current Challenges for Managing Environmental Issues and Waste Recycling in Northern Vietnam, Hanoi, Vietnam, January, Abstract Book, 11.
- 4) Tue, N. M., Suzuki, G., Trang, P. T. K., Katsura, K., Eguchi, A., Viet, P. H. and Tanabe, S.: Exposure to persistent organic pollutants including dioxin-related compounds for residents of Vietnamese e-waste recycling sites. Japan-Vietnam Joint Workshop on Current Challenges for Managing Environmental Issues and Waste Recycling in Northern Vietnam, Hanoi, Vietnam, January, Abstract Book, 12.
- 5) Agusa, T., Kunito, T., Inoue, S., Tue, N. M., Ha, N. N., Tu, N. P. C., Trang, P. T. K., Takahashi, S., Tuyen, B. C., Viet, P. H., Iwata, H. and Tanabe, S.: Arsenic, manganese and barium contamination in groundwater and their human exposure in Vietnam. Japan-Vietnam Joint Workshop on Current Challenges for Managing Environmental Issues and Waste Recycling in Northern Vietnam, Hanoi, Vietnam, January, Abstract Book, 14.
- 6) Horai, S., Komori, K., Horiuchi, F., Khanh, L., Noguchi, T., Itai, T., Viet, P. H., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Human contamination status and health effects of Pb in e-waste recycling area, Vietnam. Japan-Vietnam Joint Workshop on Current Challenges for Managing Environmental Issues and Waste Recycling in Northern Vietnam, Hanoi, Vietnam, January, Abstract Book, 17.
- 7) Eguchi, A., Nomiyama, K., Tue, N. M., Viet, P. H., Kim, T. P. T., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Distribution of polychlorinated biphenyls, polybrominated diphenyl ethers, and their metabolites in human serum from Vietnamese e-waste recycling workers. Japan-Vietnam Joint Workshop on Current Challenges for Managing Environmental Issues and Waste Recycling in Northern Vietnam, Hanoi, Vietnam, January, Abstract Book, 18.
- 8) Katsura, K., Tue, N. M., Suzuki, G., Takasuga, T., Viet, P. H., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Human milk contamination by dioxin related compounds from e-waste recycling and risk assessment for infants. Japan-Vietnam Joint Workshop on Current Challenges for Managing Environmental Issues and Waste Recycling in Northern Vietnam, Hanoi, Vietnam, January, Abstract Book, 19.
- 9) Tuyen, L. H., Tue, N. M., Suzuki, G., Misaki, K., Viet, P. H., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Aryl hydrocarbon receptor-mediated activity of road dust from Hanoi, Vietnam. Japan-Vietnam Joint Workshop on Current

4. 研究成果

- Challenges for Managing Environmental Issues and Waste Recycling in Northern Vietnam, Hanoi, Vietnam, January, Abstract Book, 20.
- 10) Goto, A., Someya, M., Isobe, T., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Brominated dioxins in East Asian marine sediments and its potential sources. Japan-Vietnam Joint Workshop on Current Challenges for Managing Environmental Issues and Waste Recycling in Northern Vietnam, Hanoi, Vietnam, January, Abstract Book, 21.
 - 11) 田辺信介: 環境汚染と子どもの健康, 愛媛県立衛生環境研究所創立60周年記念第27回公衆衛生技術研究会, 松山, 2月, 講演要旨集, 3.
 - 12) Ochiai, M., Nomiya, K., Isobe, T., Yamada, T. K., Tajima, Y., Makara, M., Amano, M. and Tanabe, S.: Transfer and distribution of hydroxylated polychlorinated biphenyls (OH-PCBs) in the brain of finless porpoises (*Neophocaena phocaenoides*). SETAC YES, 3rd Young Environmental Scientists Meeting, Krakow, Poland, February, Abstract Book, 39.
 - 13) Freitas, F. E. P., Pastorinho, M. R., Nogueira, A. J. A., Itai, T. and Tanabe, S.: Bioaccumulation in an estuarine trophic web: a study case from an historical contaminated location, Largo do Laranjo, Ria de Aveiro Coastal Lagoon in Portugal. YES - 3RD Young Environmental Scientists Meeting, Krakow, Poland, February, Abstract Book, 77.
 - 14) Isobe, T., Muto, M., Kim, J. W., Tue, N. M., Katsura, K., Sudaryanto, A., Malarvannan, G., Prudente, M., Viet P. H., Takahashi, S., and Tanabe, S.: Organophosphate flame retardants (PFRs) in human breast milk from several Asian countries. 6th International Symposium on Brominated Flame Retardants, San Francisco, USA, April, Abstract, 35.
 - 15) Isobe, T., Sugimoto, R., Amano, M., Tajima, Y., Yamada, T. K. and Tanabe, S.: Organohalogen contaminants accumulated in melon-headed whales from mass mortality event at Kashima Coast, Japan. 7th International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology, Hong Kong, China, June, Abstract, 227.
 - 16) 落合真理・野見山 桂・磯部友彦・山田 格・田島木綿子・真柄真実・天野雅男・田辺信介: スナメリ (*Neophocaena phocaenoides*) に残留する有機ハロゲン化合物の代謝と脳移行, 第24回日本セトロロジー研究会, 富山市, 5月, 講演要旨集, 14.
 - 17) 大久保里紗・磯部友彦・山田 格・田島木綿子・天野雅男・田辺信介: 有機ハロゲン化合物による大村湾スナメリ (*Neophocaena phocaenoides*) の汚染実態, 第24回日本セトロロジー研究会, 富山市, 5月, 講演要旨集, 15.
 - 18) Itai, T., Yasuda, Y., Urakami, S., Isobe, T., Horai, S. H., Yamada, T. K., Tajima, Y. and Tanabe, S.: Archived open sea dolphins tell us about the fate of Hg in North Pacific Ocean. The 29th International conference for the Society for Environmental Geochemistry and Health, Toulouse, France, July. Abstract book, 135.
 - 19) Itai, T., Otsuka, M., Takahashi, S., Asante, K. A. and Tanabe, S.: Transformation of trace metal speciation through open burning of electric waste using X-ray absorption spectroscopy. The 29th International conference for the Society for Environmental Geochemistry and Health, Toulouse, France, July. Abstract book, 26.
 - 20) Itai, T., Otsuka, M., Asante, K. A., Takahashi, S. and Tanabe, S.: An application of X-ray absorption spectroscopy for the transformation of trace metal speciation through open burning of electronic waste. The 29th International conference for the Society for Environmental Geochemistry and Health, Toulouse, France, July. Abstract book, 185.
 - 21) 磯部友彦・杉本里菜・田島木綿子・山田 格・天野雅男・田辺信介: 2011年3月に茨城県鹿嶋市でマストランドイングしたカズハゴンドウ (*Peponocephala electra*) の有機ハロゲン化合物汚染: 全個体の分析結果, 第24回日本セトロロジー研究会, 富山市, 5月, 講演要旨集, 32.
 - 22) 中田晴彦・後藤悠太・磯部友彦・Chang K. H. ・田辺信介: 沿岸生態系における多環芳香族炭化水素類 (Parent PAHs & Alkylated PAHs) の生物希釈生評価, 第22回環境化学討論会, 東京, 7-8月, 講演要旨集, 84-85.
 - 23) 染矢雅之・江口哲史・鈴木 剛・野見山桂・後藤哲智・高橋 真・滝上英孝・田辺信介: 日本沿岸域の二枚貝に残留する臭素化ダイオキシン類の起源とその毒性影響評価, 第22回環境化学討論会, 東京, 7-8月, 講演要旨集, 132-133.
 - 24) 染矢雅之・田代 豊・高橋 真・田辺信介: 沖縄県宜野湾市および浦添市から採取したマングースのダイオキシン類汚染の実態と蓄積特性の解明, 第22回環境化学討論会, 東京, 7-8月, 講演要旨集, 134-135.
 - 25) 後藤哲智・染矢雅之・磯部友彦・加三千宣・高橋 真・田辺信介: 瀬戸内海沿岸における塩素化・臭素化ダイオキシン類の分布とその起源, 第22回環境化学討論会, 東京, 7-8月, 講演要旨集, 136-137.
 - 26) 阿草哲郎・平川周作・渡邊 泉・池本徳孝・宇高真行・金 恩英・Petrov, E.・Batoev, V.・田辺信介・岩田

- 久人：バイカルアザラシの微量元素蓄積とその応答遺伝子の検索，第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，166-167.
- 27) 板井啓明・兵部唯香・中野伸一・田辺信介：琵琶湖北湖盆の貧酸素化にともなうマンガン・ヒ素の溶出・沈澱過程，第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，176-177.
- 28) 藤森崇・江口哲史・阿草哲郎・鈴木剛・Tue, N. M.・Viet, P. H.・田辺信介・滝上英孝：使用済み鉛バッテリーリサイクルによる表層土壌の鉛汚染：時間、距離、汚染経路、起源，第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，178-179.
- 29) 鈴木剛・染矢雅之・松神秀徳・宇智田（野田）奈津代・Tue, N. M.・藤森崇・Tuyen, L. H.・阿草哲郎・Viet, P. H.・高橋真・田辺信介・滝上英孝：ベトナム北部における E-waste リサイクルに伴うダイオキシン類縁化合物の環境排出実態調査（第一報），第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，200-201.
- 30) 松神秀徳・Tue, N. M.・鈴木剛・染矢雅之・宇智田（野田）奈津代・藤森崇・Tuyen, L. H.・阿草哲郎・Viet, P. H.・高橋真・田辺信介・滝上英孝：ベトナム北部における E-waste リサイクルに伴う難燃剤の環境排出実態調査（第一報），第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，202-203.
- 31) 宇智田（野田）奈津代・鈴木剛・染矢雅之・松神秀徳・藤森崇・Tue, N. M.・Tuyen, L. H.・阿草哲郎・Viet, P. H.・高橋真・田辺信介・滝上英孝：ベトナム北部における E-waste リサイクルに伴う有害金属類の環境排出実態調査（第一報），第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，204-205.
- 32) Riyadi, A. S.・Itai, T.・Isobe, T.・Ilyas, M.・Agus, S.・Stiawan, I. E.・Takahashi, S.・Tanabe, S. : Trophic transfer of trace elements in fish of Jakarta Bay using carbon and nitrogen stable isotope ratios. 第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，248.
- 33) 岩田直樹・林篤宏・井上毅・高菅卓三・野馬幸生：低濃度 PCB 廃棄物としての廃塗膜中 PCB 分析方法の開発，第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，272-273.
- 34) 岩田直樹・木邑奈美・林篤宏・井上毅・高菅卓三：有機顔料中の PCB 分析における技術的課題（その2），第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，274-275.
- 35) 高菅卓三・苗田千尋・原田浩二・小泉昭夫：短鎖塩素化パラフィンのトピックと環境化学的問題点（日本・韓国・中国における調査結果），第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，292-293.
- 36) 苗田千尋・原田浩二・高菅卓三・小泉昭夫：短鎖塩素化パラフィンの日本・韓国・中国の食品・母乳における調査結果，第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，294-295.
- 37) 辻沢雄将・野見山桂・水川葉月・落合真理・谷地森秀二・葦田恵美子・田辺信介：ニホンザルの血液・肝臓に残留する水酸化 PCBs の蓄積特性，第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，304-305.
- 38) 落合真理・野見山桂・磯部友彦・山田格・田島木綿子・真柄真実・天野雅男・田辺信介：日本沿岸に生息する小型歯鯨類の OH-PCBs および OH-PBDEs：脳移行と脳内分布，第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，306-307.
- 39) 野見山桂・江口哲史・神原千佳・今枝大輔・平川周作・金恩英・岩田久人・田辺信介：トキシコゲノミクス的アプローチによるバイカルアザラシ肝臓中水酸化 PCBs の生体影響評価，第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，318-319.
- 40) 長野靖子・野見山桂・水川葉月・江口哲史・中津賞・田辺信介：イヌ・ネコ肝臓における PCBs 代謝物（OH-PCBs, Me-SO₂-PCBs）の蓄積特性と代謝能の種間比較，第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，320-321.
- 41) 水川葉月・野見山桂・中津賞・久保田彰・石塚真由美・岩田久人・田辺信介：イヌ、ネコの肝ミクロソームを用いた PCBs および PBDEs 代謝能の種間比較，第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，322-323.
- 42) 磯部友彦・武藤衛・金俊佑・Tue, N. M.・桂加奈・Agus, S.・Malarvannan, G.・Maricar, P.・Viet, P. H.・高橋真・田辺信介：日本・ベトナム・フィリピンにおける母乳中有機リン系難燃剤レベルの比較，第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，332-333.
- 43) 大久保里紗・磯部友彦・山田格・田島木綿子・天野雅男・田辺信介：大村湾および有明海のスナメリにおける有機ハロゲン化合物の蓄積特性と経年比較，第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，334-335.
- 44) 鈴木剛・酒井伸一・Tue, N. M.・高橋真・田辺信介・滝上英孝：室内ダスト中の AR/PR アンタゴニスト及びαアゴニストプロファイリング，第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，344-345.
- 45) 高菅卓三・倉谷和代・松下正和・中村一夫：第二世代バイオディーゼル燃料化技術に関する燃料の詳細分析と評価，第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，360-361.
- 46) 田上瑠美・野見山桂・林光武・磯部友彦・中村遥菜・篠原亮太・田辺信介：生体試料に残留する極性 PPCPs

4. 研究成果

- の高感度一斉分析法：～鳥類・魚類肝臓試料への適用～，第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，370-371.
- 47) 八十島誠，高菅卓三，馬 寅，水野忠雄：中国南部都市河川におけるニトロソアミン類および PFCs 汚染の実態，第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，392-393.
- 48) 渡邊清彦・八十島誠・高菅卓三：LC-MS/MS を用いた河川水中ニトロソアミン類の分析法開発，第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，394-395.
- 49) 西岡宗一郎・磯部友彦・仲井邦彦・中田晴彦・張 光弦・田辺信介：東北沖魚類生態系における PCBs, BFRs 蓄積レベルの経時変化，第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，446-447.
- 50) 縄田佳那恵・Devanathan, G.・一瀬 寛・Subramanian, An.・渡邊 泉・田辺信介：インドで捕獲されたマングース (*Herpestes* sp.) の微量元素蓄積特性と環境モニタリングへの応用，第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，472-473.
- 51) 宇智田奈津代・藤森 崇・阿草哲郎・Tue, N. M.・Tuyen, L. H.・Viet, P. H.・鈴木 剛・高橋 真・田辺信介・滝上英孝：ベトナムの鉛バッテリーリサイクル地域周辺における米の有害金属汚染，第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，474-475.
- 52) 今川 渉・高橋 真・後藤哲智・長谷川和範・窪寺恒巳・田辺信介：日本海深海生態系における残留性有機ハロゲン化合物の分布と蓄積，第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，516-517.
- 53) 河上強志・伊佐間和郎・岩田直樹・高菅卓三・五十嵐良明：家庭用品に含まれる有機顔料由来 PCBs の実態調査，第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，524-525.
- 54) 染矢雅之・鈴木 剛・戸館侑孝・松神秀徳・野田奈津代・藤森 崇・Tue, N. M.・Tuyen, L. H.・桂 加奈・Viet, P. H.・高橋 真・滝上英孝・田辺信介：ベトナム北部における E-waste リサイクルに伴う塩素化及び臭素化ダイオキシン類の環境排出実態調査（第一報），第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，558-559.
- 55) 桂 加奈・Tue, N. M.・Tuyen, L. H.・鈴木 剛・高橋 真・Viet, P. H.・田辺信介：ベトナム廃プラスチック処理地域で採取したヒト母乳の *in vitro* 内分泌攪乱活性スクリーニングと乳幼児のリスク評価，第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，560-561.
- 56) 家田曜世・落合伸夫・石井啓介・小野寺潤・磯部友彦・田辺信介・山田 格・田島木綿子：GCxGC-高分解能 TOF-MS によるカズハゴンドウ脂皮抽出液の分析 その2，第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，582-583.
- 57) 江口哲史・野見山桂・Tue, N. M.・Viet, P. H.・Parthasarathy, P.・Bulbule, K. A.・Subramanian, An.・高橋 真・田辺信介：アジア途上国住民における血清中有機ハロゲン化合物・代謝物の残留特性，第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，594-595.
- 58) 高橋 真・Kim, J. W.・Tue, N. M.・磯部友彦・三崎健太郎・江口哲史・Riyadi, A. S.・Jang, H. S.・Viet, P. H.・田辺信介・松村千里：アジア途上国・新興国の廃棄物処理現場等におけるパーフルオロ化合物の汚染実態と発生源プロファイルの解析，第22回環境化学討論会，東京，7-8月，講演要旨集，712-713.
- 59) Itai, T., Hyobu, Y., Kumagai, M. and Tanabe, S.: Different diagenetic behaviors of As, Mo and Sb in Lake Biwa, Japan. *Goldschmidt 2013*, Florence, Italy, August., *Mineralogical Magazine*, **77** (5), 1364.
- 60) Takasuga, T., Nakano, T. and Shibata, Y.: Unintentional POPs contamination of chemicals considering the large volumes production of chlorinated paraffins (CPs). *The 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2013)*, Daegu, Korea August, Abstract Book, 3507.
- 61) Takahashi, S., Asante, K. A., Tue, N., Itai, T., Muto, M., Ansa-Asare, O. and Tanabe, S.: Contamination status of dioxin related compounds in soils and ash mixtures from Agbogbloshie e-waste recycling site in Accra, Ghana. *The 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2013)*, Daegu, Korea, August, Abstract Book, 4420.
- 62) Matsukami, H., Tue, N. M., Suzuki, G., Someya, M., Noda, N., Fujimori, T., Tuyen, L. H., Agusa, T., Viet, P. H., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Emissions of PBDE and non-PBDE flame retardants from primitive e-waste recycling activities in the northern part of Vietnam. *The 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2013)*, Daegu, Korea, August, Abstract Book, 4435.
- 63) Suzuki, G., Someya, M., Matsukami, H., Uchida-Noda, N., Tue, N. M., Fujimori, T., Tuyen, L. H., Agusa, T., Viet, P. H., Takahashi, S., Tanabe, S. and Takigami, H.: Emissions of dioxin-like compounds from primitive e-waste recycling activities in the northern part of Vietnam. *The 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2013)*, Daegu, Korea, August, Abstract Book, S3206.

- 64) Tue, N. M., Katsura, K., Suzuki, G., Takasuga, T., Takahashi, S., Tuyen, L. H., Viet, P. H. and Tanabe, S. : Accumulation of dioxin-related compounds in breast milk of women from Vietnamese e-waste recycling sites and contribution of non-dietary exposure. The 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2013), Daegu, Korea, August, Abstract Book, S3207.
- 65) Goto, A., Someya, M., Isobe, T., Kuwae, M., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Contamination status and potential sources of chlorinated and brominated dioxins in coastal areas of Seto Inland Sea, Japan. The 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2013), Daegu, Korea, August, Abstract Book, P-0051.
- 66) Takasuga T, Nouda C, Harada K and Koizumi A. : SCCPs contamination of food and mothers milk in East Asian region. 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2013), Daegu, Korea August, Abstract Book, P-0070.
- 67) Subramanian, An., Devanathan, G., Isobe, T., Asante, K. A., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Polychlorinated biphenyls and brominated flame retardants in fish collected from fresh water and coastal regions of India. The 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2013), Daegu, Korea, August, Abstract Book, P-0073.
- 68) Isobe, T., Sugimoto, R., Amano, M., Tajima, Y., Yamada, T. K. and Tanabe, S. : Levels and temporal trends of brominated flame retardants and organochlorine POPs in melon-headed whales from Japan. The 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2013), Daegu, Korea, August, Abstract Book, P-0084.
- 69) Tuyen, L. H., Tue, N. M., Suzuki, G., Viet, P. H., Takahashi, S. and Tanabe, S. : AhR-mediated activities and contribution of PAHs in road dust from Hanoi, Vietnam. The 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2013), Daegu, Korea, August, Abstract Book, P-0174.
- 70) Takahashi, S., Kim, J. W., Teu, N. M., Isobe, T., Misaki, K., Eguchi, A., Slamet, R., Jang H. S., Viet, P. H., Tanabe, S. and Matsumura, C. : Contamination status and emission profiles of perfluorinated compounds from waste treatment and recycling activities in some Asian countries. The 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2013), Daegu, Korea, August, Abstract Book, P-0223.
- 71) Someya, M., Suzuki, G., Todate, Y., Matsukami, H., Uchida-Noda, N., Tue, N. M., Fujimori, T., Tuyen, L. H., Agusa, T., Viet, P. H., Takahashi, S., Takigami, H. and Tanabe, S.: Emissions of chlorinated/brominated dibenzo-p-dioxins, furans and dioxin-like PCBs from primitive e-waste recycling activities in the northern part of Vietnam. The 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2013), Daegu, Korea, August, Abstract Book, P-0227.
- 72) Tue, N. M., Nomiya, K., Suzuki, G., Takahashi, S., Shinohara, R. and Tanabe, S. : Dioxin-like potencies of hydroxylated polychlorinated biphenyls in DR-CALUX assay. The 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2013), Daegu, Korea, August, Abstract Book, P-0260.
- 73) Coelho, S. D., Sousa, A. C. A., Nogueira, A. J. A., Taborda-Barata, L., Joon-Woo, K., Isobe, T. and Tanabe, S.: Levels of polybrominated diphenyl ethers, hexabromocyclododecanes and organophosphorus flame retardants in house dust samples from Portugal. 2013 Conference Environment and Health-Bridging South, North, East and West, Basel, Switzerland, August, Abstracts, 65.
- 74) Sousa, A. C. A. , Pastorinho, M. R., Nogueira, A. J. A., Taborda-Barata, L., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Unknown levels, uncertain sources : or all we know regarding humans and organotin compounds. The 2013 Conference of the International Society of Environmental Epidemiology (ISEE), the International Society of Exposure Science (ISES), and the International Society of Indoor Air Quality and Climate (ISIAQ), Basel, Switzerland, August, Abstracts in Environmental Health Perspectives ; [http://dx. doi. org/10.1289/ehp. ehbasel13](http://dx.doi.org/10.1289/ehp.ehbasel13).
- 75) Pastorinho, M. R., Sousa, A. C. A., Taborda-Barata, L., Nogueira, A. J. A., Itai, T., Takahashi, S. and Tanabe, S.: Tale of two cities: a household survey of metal (loids) in dust. 2nd International Conference on Occupational & Environmental Toxicology (ICOETox 2013), Porto, Portugal, September, Abstracts, 103.
- 76) Coelho, S. D., Sousa, A. C. A., Faustino, A., Oliveira, H. R., Nogueira, A. J. A., Isobe, T., Takahashi, S. and Tanabe, S. : Levels of persistent organic pollutants (POPs) and organotins (OTs) in seafood samples from Maio Island, Cape Verde Archipelago - a preliminary approach. 2nd International Conference on Occupational and Environmental Toxicology (ICOETox 2013), Porto, Portugal, September, Abstracts, 104.
- 77) Subramanian, An. and Tanabe, S.: Monitoring spatial and temporal trends of emerging POPs in the Asia-Pacific region:

4. 研究成果

- Studies from the environmental specimen bank (*es*-BANK). International Conference on Environmental Specimen Banks, Shanghai, China, October, Abstracts, 30.
- 78) 田上瑠美・野見山桂・磯部友彦・中村遥菜・篠原亮太・田辺信介：生体試料に残留する極性 PPCTs の高感度一斉分析法の開発および魚類の汚染実態解明，第16回日本水環境学会シンポジウム，沖縄，11月，講演集，163.
 - 79) 板井啓明・兵部唯香・田辺信介：湖底の貧酸素化による琵琶湖底泥からのマンガン溶出挙動解析－酸化層厚減少にともなう拡散予測モデル－，2013年度日本地球化学会年会，筑波，9月，講演要旨集，32.
 - 80) 磯部友彦・金 俊佑・西岡宗一郎・張 光弦・田辺信介：魚類中リン酸エステル系難燃剤の分析とヒト暴露評価，第16回日本水環境学会シンポジウム，沖縄，11月，講演集，167.
 - 81) Riyadi, A., S., Itai, T., Isobe, T., Ilyas, M., Sudaryanto, A., Setiawan, I. E. and Tanabe, S.: Trace elements in sediments and fish from Jakarta Bay, Indonesia. 第16回日本水環境学会シンポジウム，沖縄，11月，講演集，168.
 - 82) 宮城俊彦・中村 将・安村茂樹・田辺信介・高橋 真：南西諸島に生息する水棲生物中の有害化学物質調査，第16回日本水環境学会シンポジウム，沖縄，11月，講演集，329-332.
 - 83) 岩田直樹・林 篤宏・井上 毅・高菅卓三・野馬幸生：低濃度 PCB 廃棄物としての廃塗膜（塗膜くず）に関する研究，第24回廃棄物資源循環学会研究発表会，北海道，11月，講演集，653.
 - 84) 高菅卓三・倉谷和代・松下正和・中村一夫：第二世代バイオディーゼル燃料化技術に関する詳細分析の知見と評価，第24回廃棄物資源循環学会研究発表会，北海道，11月，講演集，385.
 - 85) Nomiya, K., Eguchi, A., Hirakawa, S., Kanbara, C., Kim, E., Iwata, H. and Tanabe, S.: Polychlorinated biphenyls and their hydroxylated metabolites (OH-PCBs) in the Baikal seals and implication from a toxicogenomic approach. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 34th Annual Meeting, Nashville. Tennessee, USA, November, Abstract Book, 28.
 - 86) Mizukawa, H., Nomiya, K., Nakatsu, S., Ishizuka, M. and Tanabe, S.: Analysis of anthropogenic and naturally occurring brominated phenols in the blood of Japanese pet animals. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 34th Annual Meeting, Nashville. Tennessee, USA, November, Abstract Book, 29.
 - 87) Eguchi, A., Nomiya, K., Ochiai, M., Mizukawa, H., Nagano, Y., Nakagawa, K., Tanaka, K., Miyagawa, H. and Tanabe, S.: Simultaneous determination of hydroxylated polychlorinated biphenyls in the liver and brain using gas chromatography/mass spectrometry. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 34th Annual Meeting, Nashville. Tennessee, USA, November, Abstract Book, 177.
 - 88) Ochiai, M., Nomiya, K., Isobe, T., Yamada, T. K., Tajima, Y., Makara, M., Amano, M. and Tanabe, S.: Halogenated phenolic compounds in cetacean brain: blood-brain transfer and distribution in eight brain regions. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 34th Annual Meeting, Nashville. Tennessee, USA, November, Abstract Book, 178.
 - 89) Tanoue, R., Nomiya, K., Hayashi, T., Nakamura, H., Shinohara, R., Isobe, T. and Tanabe, S.: Simultaneous determination of polar pharmaceuticals and personal care products (PPCPs) in avian liver and kidney. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 34th Annual Meeting, Nashville. Tennessee, USA, November, Abstract Book, 289-290.
 - 90) Eguchi, A., Kunisue, T., Wu, Q., Trang, P. T., Viet, P. H., Kannan, K. and Tanabe, S.: Perchlorate and thiocyanate in human serum from North Vietnam and their association with thyroid hormone and iodide levels. Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 34th Annual Meeting, Nashville. Tennessee, USA, November, Abstract Book, 317-318.
 - 91) Takasuga, T.: Super-sites monitoring results in Japan. The 10th Workshop on Environmental Monitoring of Persistent Organic Pollutants in East Asian Countries. Manila, Philippines, November, Proceeding Book, 115-131.
 - 92) Takasuga, T.: Introduction of draft technical manual on the monitoring of POPs in the atmospheric environment including newly added POPs chemicals. The 10th Workshop on Environmental Monitoring of Persistent Organic Pollutants in East Asian Countries. Manila, Philippines, November, Proceeding Book, 145-167.
 - 93) 江口哲史・野見山桂・Tue, N. M.・Trang, P. T. K.・Viet, P. H.・高橋 真・田辺信介：ベトナムの e-waste リサイクル地域住民における血清中 PCBs, OH-PCBs の残留および甲状腺ホルモン濃度との関係解析，環境ホルモン学会第16回研究発表会，東京，12月，要旨集，163.
 - 94) 板井啓明：地球化学・環境化学における微量元素形態分析の重要性，徳島地区分析技術セミナー（招待），徳

- 鳥, 12月.
- 95) Ochiai, M., Nomiyama, K., Isobe, T., Yamada, T. K., Tajima, Y., Makara, M., Amano, M. and Tanabe, S. : Contamination status of polychlorinated biphenyls (PCBs) and their hydroxylated metabolites (OH-PCBs) in the brain of finless porpoises (*Neophocaena phocaenoides*). 20th Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals, Dunedin, New Zealand, December, Abstracts, 158-159.
- 96) 矢原 藍, 仲山 慶, 北村真一: スクーチカ症の原因虫 *Miamiensis avidus* に感染したヒラメの白血球の組成変化, 東京, 平成25年度日本水産学会春季大会, 3月, 講演要旨集, 162.
- 97) 今宿 團, 仲山 慶, 尾浪淳史, 山崎龍太, 北村真一: 寄生虫感染時のヒラメの体表粘液虫マイクロフローラの変化, 東京, 平成25年度日本水産学会春季大会, 3月, 講演要旨集, 163.
- 98) Lee, J. S., Iwabuchi, K., Nomaru, K., Nagahama, N., Kim, E. Y. and Iwata, H.: Identification and functional characterization of a novel chicken aryl hydrocarbon receptor isoform, 2nd AHR1, The XIII International Congress of Toxicology 2013, Seoul, Korea, June, Program Book, 109.
- 99) Cho, S. W., Kim, E. Y., Suzuki, K., Miura, Y., Iwata, H., Miyazaki, T. and Nose, M. : Effects of aryl hydrocarbon receptor and transcriptional co-factor(s) on transactivation in MRL/lpr and C3H/lpr mouse strains, The XIII International Congress of Toxicology 2013, Seoul, Korea, June, Program Book, 109.
- 100) Iwata, H., Thuruthipallil, L. M., Kubota, A. and Kim, E. Y. : *In vitro* approach to predict AHR-mediated CYP1A induction by dioxins in cormorant population, The XIII International Congress of Toxicology 2013, Seoul, Korea, June, Program Book, 72.
- 101) Hirano, M., Bak, S. M., Iwata, H. and Kim, E. Y. : *In silico* analysis of avian AHRs to decipher the molecular basis for interspecies differences in responses to dioxins, The XIII International Congress of Toxicology 2013, Seoul, Korea, June, Program Book, 72.
- 102) Agusa, T., Komori, H., Soga, Y., Nose, M., Mori, S., Kubota, R., Tanabe, S. and Iwata, H.: Identification of quantitative trait loci (*QTL*) associated with inorganic arsenic metabolism using recombinant inbred strains of mice, The XIII International Congress of Toxicology 2013, Seoul, Korea, June, Program Book, 83.
- 103) Bak, S. M., Kim, E. Y., Iida, M. and Iwata, H. : Isoform-specific responses of aryl hydrocarbon receptor to dioxins in red seabream (*Pagrus major*), The XIII international Congress of Toxicology 2013, Seoul, Korea, June, Program Book, 109.
- 104) Ishibashi, H., Uchida, M., Hirano, M., Kobayashi, J., Komorita, T., Nakaura, H., Kagami, Y., Kusano, T., Ishibashi, Y. and Arizono, K.: Transcriptomic analysis of the liver of Japanese medaka (*Oryzias latipes*) exposed to Kanechlor-500, BDE47 or PFOS, 7th International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology, Hong Kong, June.
- 105) Nakayama, K., Ikeda, N., Inoue, Y., Hashizume, N., Murakami, H., Ishibashi, T., Ikeda, H., Isobe, T., Kitamura, S. I., Suzuki, G. : Uptake and biological effects of synthetic glucocorticoids in common carp, Hong Kong, SAR, China, 7th International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology, June, Programme & Abstracts, 59.
- 106) Sugajara Y., Kawaguchi, M., Kurokawa, D., Kitamura, S. I., Handoh, I. C., Murakami, Y., Nakayama, K.: Pyrene induces midbrain size reduction and abnormal swimming behavior in early hatched pufferfish larvae, Hong Kong, SAR, China, 7th International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology, June, Programme & Abstracts, 59.
- 107) 田崎純一, 仲山 慶, 山根雅之, 本多泰揮, 西山直宏: ヒメダカを用いた界面活性剤LASおよびAEの毒性発現解析, 千葉, 第40回日本毒性学会学術年会, 6月
- 108) 阿草哲郎・小森浩章・曾我美子・宮崎龍彦・能勢真人・森 士朗・久保田領志・田辺信介・岩田久人: 組換え近交系マウスを用いたヒ素感受性遺伝子座の同定, 第24回日本微量元素学会, 吹田, 6月, プログラム・抄録集, 103.
- 109) Lauan, M. C., Suzuki, K., Agusa, T. and Iwata H. : Identification of cytochrome P450 enzymes in phenobarbital-treated mouse liver microsomes using 2-DE and MALDI-TOF/TOF, 3rd International Conference on Proteomics and Bioinformatics, Philadelphia, USA, July, Abstract (online).
- 110) 阿草哲郎・平川周作・渡邊 泉・池本徳孝・宇高真行・金 恩英・Evgeny, A. Petrov・Valeriy, B. Batoev・田辺信介・岩田久人: バイカルアザラシの微量元素蓄積とその応答遺伝子の探索, 第22回環境化学討論会, 府中, 7月, 講演要旨集, 1-1B-2-1.
- 111) Cho, S. W., Suzuki, K. I., Miura, Y., Watanabe, M., Miyazaki, T., Nose, M., Iwata, H. and Kim, E.

4. 研究成果

- Y. : Effect of aryl hydrocarbon receptor variants and hnRNPA2/B1 on dioxin-induced cyp1a1 transactivation in MRL/lpr and C3H/lpr, The 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN2013), Daegu, Korea, August, Abstract (online).
- 112) Bak, S. M., Kim, E. Y., Iida, M. and Iwata, H. : Isoform-specific responses of aryl hydrocarbon receptor to dioxins in red seabream (*Pagrus major*), The 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2013), Daegu, Korea, August, Abstract (online).
- 113) Iwata, H., Hirakawa, S., Eguchi, A., Imaeda, D., Kunisue, T., Kim, E. Y., Kannan, K., Petrov, E. A., Batoev, V. B. and Tanabe, S. : Thyroid hormone-mediated effects of dioxins in wild Baikal seals (*Pusa sibirica*), The 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2013), Daegu, Korea, August, Abstract (online).
- 114) Nomiya, K., Eguchi, A., Hirakawa, S., Kanbara, C., Imaeda, D., Kim, E. Y., Iwata, H. and Tanabe, S. : Polychlorinated biphenyls and their hydroxylated metabolites (OH-PCBs) in the Baikal seals and implication from a toxicogenomic approach, The 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN2013), Daegu, Korea, August, Abstract (online).
- 115) Hwang, J. H., Jeong, L. R., Kannan, K., Evans, T. J., Iwata, H. and Kim, E. Y. : Functional characterization of aryl hydrocarbon receptor from the polar bear (*Ursus maritimus*), The 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2013), Daegu, Korea, August, Abstract (online).
- 116) Hirano, M., Ishibashi, H., Kim, E. Y., Arizono, K. and Iwata, H. : *In vitro* and *in silico* analyses to predict the effects of environmental chemicals through the mysid ecdysteroid receptor signaling pathway, The 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2013), Daegu, Korea, August, 25- August, Abstract (online).
- 117) Hirano, M., Ishibashi, H., Kim, E. Y., Arizono, K. and Iwata, H. : Homology modeling and ligand docking simulations of avian AhRs to decipher the interspecies differences in responses to dioxins, The 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN2013), Daegu, Korea, August, Abstract (online).
- 118) Suzuki, K. I., Nakano, M., Watabe, M., Fukuta, Y. and Iwata, H. : Proteomic analysis of liver microsomes in *X. tropicalis*, The 12th Human Proteome Organisation World Congress, Yokohama, September, Abstract, 77.
- 119) 宇野誠一, 國師恵美子, 小山次朗, 仲山 慶, 池田直美, 井上義之, 橋爪直樹, 村上秀和, 石橋 猛 : メタボロミクスを用いた同棲糖質コルチコイド類の魚類への複合暴露影響評価, 東京, 第19回日本環境毒性学会研究発表会, 9月、講演要旨集, 48
- 120) 佐藤健太郎, 仲山 慶, 小山次朗, 磯部友彦, 鈴木 剛 : 下水処理場放流水における糖質コルチコイドのモニタリング, 東京, 第19回日本環境毒性学会研究発表会, 9月、講演要旨集, 3
- 121) 鈴木賢一・中の三弥子・Daniel, R. Buchholz・岩田久人・柏木啓子・山本 卓・柏木昭彦 : 無尾両生類のメタモルフォーゼにおける肝臓代謝酵素群の変化, NGS 現場会・第三回研究会, 神戸, 9月, 要旨集, 99.
- 122) Hirano, M., Ishibashi, H., Kim, E. Y., Arizono, K. and Iwata, H. : Functional analyses of the mysid ecdysteroid receptor : DNA binding ability, ligand-induced transactivation and *in silico* modeling, Keelung, Taiwan, November, Abstract book 25-26.
- 123) Uno, S., Nakayama, K., Kokushi, E., Koyama, J. : Effects to metabolome profiles in Japanese medaka (*Oryzias latipes*) exposed to combined stressors, Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 34th Annual Meeting, Nashville, Tennessee, USA, November, Abstract book, 357.
- 124) Uno, S., Nakayama, K., Kokushi, E. Koyama, J. : Toxicity evaluations of rediment-exposed to Japanese medaka (*Oryzias latipes*) larvae using metabolomics approach, Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 34th Annual Meeting, Nashville, Tennessee, USA, November, Abstract book, 85.
- 125) Tasaki, J., Nakayama, K., Honda, Y., Yamane, M., Nishiyama, N. : Gene Expression in Japanese medaka (*Oryzias latipes*) response to surfactants at a sub-lethal concentration, Society of Environmental Toxicology and Chemistry (SETAC) North America 34th Annual Meeting, Nashville, Tennessee, USA, November, Abstract book, 280.
- 126) 阿草哲郎, 國頭 恭, Tue, N. M., Lan, V. T. M., Minh, T. B., Trang, P. T. K., 藤原純子, 竹下治男, 高橋 真, Viet, P. H., 田辺信介, 岩田久人 : ベトナム人における AS3MT 遺伝子の発現量と SNPs の関係, 第19回ヒ素シンポジウム, 福岡, 11月, 講演要旨集, 62-63. ?
- 127) Agusa, T., Kunito, T., Inoue, S., Minh, T. B., Tue, N. M., Ha, N. N., Tu, N. P. C., Trang, P. T. K.,

- Fujihara, J., Takeshita, S., Tuyen, B. C., Viet, P. H., Iwata, H. and Tanabe, S.: Arsenic exposure and susceptibility in Vietnamese, NIES Arsenic Workshop 2013- Seeking ways to reduce the arsenic health hazards from the toxicological standpoint, Tsukuba, December, Abstracts, 12.
- 128) 岩田久人・平野将司・Kim, Eun-Young: *In silico* 解析による化学物質と核内受容体・シトクロム P450の相互作用の評価, 環境ホルモン学会 第16回研究発表会, 東京, 12月, 要旨集, 31.
- 129) 飯田 緑・藤井 聡・内田雅也・中村 浩・鏡 良弘・Bak, Su-Min・Kim, Eun-Young・島 康洋・岩田久人: TCDD 曝露したマダイ胚のトランスクリプトーム解析, 環境ホルモン学会 第16回研究発表会, 東京, 12月, 要旨集, 70.
- 130) Hirano, M., Ishibashi, H., Kim, E. Y., Arizono, K. and Iwata, H.: Identification of amino acid residues critical for ligand binding and transactivation in ecdysone receptor, 環境ホルモン学会 第16回研究発表会, 東京, 12月, 要旨集, 119.
- 131) 古池 幸・平野将司・鈴木賢一・Yoo Jean・阿草哲郎・Thomas J. Evans・Kurunthachalam Kannan・岩田久人: ホッキョクグマのシトクロム P4501A および2B による PCBs 代謝能力の評価, 環境ホルモン学会 第16回研究発表会, 東京, 12月, 要旨集, 148.
- 132) Agusa, T., Takigami, H., Eguchi, A., Fujimori, T., Bekki, K., Yoshida, A., Terazono, A., Ballesteros Jr., F. C., Ha, N. N., Ramu, K., Murata, S., Parthasarathy, P., Bulbule, K. A., Takahashi, S., Subramanian, A., Iwata, H. and Tanabe, S.: Occupational exposure to trace elements in e-waste recycling workers; case studies from the Philippines and India, Workshop for Knowledge Sharing on E-waste in Thailand (The 9th NIES Workshop on E-Waste), Bangkok, Thailand, January.
- 133) Agusa, T., Kunito, T., Tue, N. M., Lan, V. T. M., Minh, T. B., Trang, P. T. K., Fujihara, J., Takeshita, H., Takahashi, S., Viet, P. H., Tanabe, S. and Iwata, H.: Associations of single nucleotide polymorphisms and haplotypes in arsenic [+3 oxidation state] methyltransferase (*AS3MT*) with arsenic metabolism: A case study in arsenic contaminated areas from Vietnam, The Society of Toxicology (SOT) 52nd Annual Meeting, San Antonio, Texas, USA, March, Abstract 318.

生態系解析部門

- 1) Suzuki, S., Ogo, M., Muziasari, W., Koike, T. and Virta, M.: Antibiotic resistance genes in the water column of aquaculture sites in the Baltic Sea. The Canadian Society of Microbiologists 63rd Annual Conference, Ottawa, 2013, June, 要旨集 XI.
- 2) Suzuki, S. and Nonaka, L.: Diverse mechanisms of antibiotic resistance gene transfer in aquaculture. The Canadian Society of Microbiologists 63rd Annual Conference, Ottawa, 2013, June, 要旨集 シンポジウム5.
- 3) 大西勇輝・野中里佐・鈴木 聡: 沿岸養殖場環境には多様な遺伝子水平伝達因子が混在する. 第29回日本微生物生態学会大会, 鹿児島, 2013年10月, 要旨集98.
- 4) Nonaka, L., Maruyama, F., Suzuki, S. and Masuda, M.: Novel macrolide resistance operon, *mef* (C) -*mph* (G), carried by plasmids isolated from *Vibrio* and *Photobacterium* species from an aquaculture site. 第29回日本微生物生態学会大会, 鹿児島, 2013年10月, 要旨集101.
- 5) 大林由美子・Bong, C. W.・鈴木 聡: 海水中の有機物分解酵素活性測定法: 方法論再考. 第29回日本微生物生態学会大会, 鹿児島, 2013年10月, 要旨集102.
- 6) 鈴木 聡・小郷みつ子・小池達也・高田秀重・Brent Newman: 南アフリカ (ダーバン) の河川, 下水処理場におけるサルファ剤耐性遺伝子の定量. 日本細菌学会中国四国支部大会, 呉, 2013年10月, 要旨集50.
- 7) Thao N. V., Nozawa, A., Obayashi, Y., Kitamura, S. I., Yokokawa, T. and Suzuki, S.: Prominent protease activity of marine ciliates against bacteria in microcosm experiments. "Big microbes": International workshop on microbial ecology for young scientists, Otsu, 2013年11月. 要旨集 xx
- 8) Kitamura, S. I., Nozawa, A., Kumagai, A. and Hirose, E.: Soft tunic syndrome in *Halocynthia roretzi* caused by the pathogenic kinetoplastid, *Azumiobodo hooyamushi*. 7th Tunicate meeting, July, Naples, Italy, Program P-56.
- 9) 里中美穂・仲山 慶・北村真一・岡本信明: リンホシスチス病耐性ヒラメのウイルス性出血性敗血症ウイルスに対する感受性. 平成26年度日本魚病学会春季大会, 3月, 函館, 要旨集112
- 10) Oktaviani, A. N., Yokokawa, T. and Suzuki, S.: Effect of antibiotics addition on bacterial community in seawater. The 5th Joint forum of Environmentla Sciences, National Taiwan Ocean University, Keelung, Taiwan, November,

4. 研究成果

Abstract Book, Invited speaker 1.

- 11) Yokokawa, T., Yanagawa, K. and Nunoura, T.: Heterotrophic activity of Archaea and Bacteria in the water column of the Japan Trench, western Pacific. 13th Symposium on Aquatic Microbial Ecology, Stresa, Italy, September, Abstract Book, 4.19.
- 12) Hamamura, N., Huang, H. and Damdinsuren, N.: Meta-transcriptomic analysis of microbial community response to arsenic exposure. American Society of Microbiology 113th Annual Meeting. Colorado, USA, May, Abstract 767.
- 13) Kanaly, R. A., Micheletto, R., Maeda, A. H. and Hamamura, N.: Investigation of DNA modification in a soil bacterium after exposure to organic and inorganic pollutants by LC-tandem mass spectrometry. American Society of Microbiology 113th Annual Meeting. Colorado, USA, May, Abstract 1669.
- 14) Kanaly, R. A., Maeda, A. H., Hamamura, N. and Micheletto, R.: Software-aided processing of DNA adductomics data obtained by liquid chromatography electrospray ionization tandem mass spectrometry. The XII International Congress of Toxicology, Seoul, South Korea. June Abstract P3-099.
- 15) 濱村奈津子・黄鶴：環境錯乱に対する微生物群集応答のメタトランスクリプトーム解析. NGS 現場の会 第3回研究会, 神戸, 9月, 要旨集 5-3-B.
- 16) Huang, H., Takemoto, K. and Hamamura, N.: Bioinformatics analysis in meta-transcriptome profiling of microbial response to toxic elements exposure. Annual Convention of Japanese Society for Bioinformatics, Tokyo, Japan, October, Abstract book, JSBi-35.
- 17) Hamamura, N., Fukushima, K., Huang, H. and Kataoka, T.: Microbial transformation of toxic elements associated with mine tailing. The 5th Taiwan-Korea-Japan International Symposium on Microbial Ecology, Taipei, Taiwan, October, Abstract book, PP75.
- 18) 濱村奈津子：変動する環境における微生物生態系：遺伝子から群集レベルでの機能と応答. 第29会日本微生物生態学会大会, 鹿児島, 11月, 要旨集67.
- 19) 片岡剛文・濱村奈津子：有害元素複合曝露に対する土壌微生物群集の応答とヒ素酸化能への影響. 第29会日本微生物生態学会大会, 鹿児島, 11月, 要旨集87.
- 20) Sato-Takabe, Y.: Ecophysiological characteristics of marine aerobic anoxygenic phototrophic bacteria. The 5th Joint forum of Environmental Sciences, National Taiwan Ocean University, Keelung, Taiwan, November, Abstract Book, Invited speaker 2.
- 21) 高部由季・鈴木翔太郎・宍倉竜樹・浜崎恒二・横川太一・鈴木 聡：宇和海における酸素非発生型好気性光合成細菌の生態2：空間分布と細胞サイズ, 日本海洋学会2014年度春季大会, 東京, 3月, 講演要旨集, 303
- 22) 高部由季・中尾浩則・西岡 将・浜崎恒二・横川太一・太田耕平・鈴木 聡：宇和海における酸素非発生型好気性光合成細菌の生態3：マダイ養殖いけすでの現存量と多様性変化, 日本海洋学会2014年度春季大会, 東京, 3月, 講演要旨集, 304.
- 23) Omori, K.: Application of stable isotope in studying marine environments. HNGEO2013, Hanoi, Viet Nam, October.

5. 学会及び社会における活動



(平成25年度)

5. 1 併任・委員会委員等

環境動態解析部門

武岡 英隆

- 1) グローバルCOEプログラム委員会専門委員, 日本学術振興会
- 2) 特別研究員審査委員会専門委員, 国際事業委員会書面審査委員, 日本学術振興会
- 3) 科学研究費専門員会委員, 日本学術振興会
- 4) 研究成果最適展開支援プログラム専門委員, (独) 科学技術振興機構
- 5) 重要海域抽出検討会委員, (財) 自然環境研究センター (環境省委託)
- 6) 愛媛県環境創造センター客員研究員, 愛媛県
- 7) 愛媛県環境影響評価審査会委員, 愛媛県
- 8) AD 委員会委員, 九州大学応用力学研究所

磯辺 篤彦

- 1) 水産庁委託事業「沿岸海域の栄養塩管理技術の開発」検討委員

郭 新宇

- 1) 招聘主任研究員, 独立行政法人海洋研究開発機構地球環境変動領域
- 2) 客員研究員, 国家海洋局第二海洋研究所 (中国)
- 3) 客員教授, 天津科技大学 (中国)

化学・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 日本学術会議連携会員, 日本学術会議
- 2) 客員研究員, 独立行政法人国立環境研究所
- 3) 科学技術・学術審議会専門委員 (学術分科会), 文部科学省
- 4) 科学技術動向研究センター専門調査員, 文部科学省
- 5) 国際事業委員会国際企画委員会委員, 独立行政法人日本学術振興会
- 6) 科学研究費委員会専門委員, 独立行政法人日本学術振興会
- 7) 国際科学技術協力推進委員, 独立行政法人日本科学技術振興機構
- 8) IOC 協力推進委員会海洋環境・生物国内専門部会委員, 独立行政法人海洋研究開発機構
- 9) 中央環境審議会環境保健部会化学物質審査小委員会委員, 環境省
- 10) 中央環境審議会臨時委員, 環境省
- 11) 環境研究企画委員会第2研究分科会委員, 環境省
- 12) 新規 POPs 等研究会委員, 環境省
- 13) POPs 条約有効性評価国内検討委員会委員, 環境省
- 14) 臭素系ダイオキシン類の排出源情報の収集・整理に関する調査業務の検討会委員, 環境省
- 15) 「海洋環境保全調査」に係る海洋環境モニタリング調査検討会検討員, 環境省
- 16) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討会委員, 環境省
- 17) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討委員会大阪事業部会委員, 環境省
- 18) ポリ塩化ビフェニール廃棄物処理事業検討委員会北九州事業部会委員, 環境省
- 19) 微量 PCBs 混入廃電気機器等処理実証試験検討委員会委員, 環境省

5. 学会及び社会における活動

- 20) PCB 廃棄物適正処理に関する検討委員会, 環境省
- 21) EXTEND2010野生生物の生物学的知見研究検討部会検討員, 環境省
- 22) 南極環境実態把握モニタリングマニュアル作成検討委員会委員, 環境省
- 23) 先端技術を活用した農林水産研究高度化事業専門評価委員, 社団法人農林水産技術情報協会
- 24) 愛媛県環境審議会委員, 愛媛県
- 25) 愛媛県環境審議会化学物質環境保全部会部長, 愛媛県
- 26) 愛媛県新長期計画策定会議委員, 愛媛県
- 27) 愛媛県環境創造センター客員研究員, 愛媛県
- 28) 愛媛県衛生環境評価専門部会委員, 愛媛県
- 29) 愛媛県廃棄物処理センター理事, 愛媛県
- 30) し尿汚泥等再生利用技術検討会委員, 愛媛県衛生環境研究所
- 31) 西条市環境審議会委員長, 愛媛県西条市
- 32) 日本しろあり対策協会四国支部支部長, 公益社団法人日本しろあり対策協会
- 33) 日本しろあり対策協会防除技術委員会委員, 公益社団法人日本しろあり対策協会

岩田 久人

- 1) 化学物質の内分泌かく乱作用に関連する報告の信頼性評価作業班検討員, 環境省
- 2) 化審法審査支援等検討会検討委員, 国立環境研究所

高菅 卓三

- 1) 黄砂問題検討会 黄砂実態解明調査解析ワーキンググループ委員, 環境省
- 2) 平成25年度 PCB 汚染物の PCB 含有量測定法検討ワーキンググループ委員, 産業廃棄物諸事業振興財団
- 3) 極微量物質研究会技術顧問, (社) 日本環境測定分析協会
- 4) 環境調査研修所 ダイオキシン類排ガスコース (中級) 講師, 環境省
- 5) 試験所審査員, (財) 日本適合性認定協会
- 6) MLAP 技術アドバイザー, (独) 製品評価技術基盤機構 (NITE) 認定センター
- 7) 環境組成標準物質開発委員会委員, 日本分析化学会

生態系解析部門

鈴木 聡

- 1) 書面審査専門評価委員, (公社) 農林水産・食品産業技術振興協会

大森 浩二

- 1) 河川・溪流アドバイザー, 肱川・野村ダム, 国土交通省
- 2) 水源地生態研究会議委員, ダム水源地環境センター
- 3) 山鳥坂ダム環境検討委員会, 国土交通省
- 4) 河川・溪流アドバイザー, 重信川, 国土交通省
- 5) 四国ダムフォローアップ委員会, 国土交通省
- 6) 肱川清流保全委員会, 国土交通省, 大洲市ほか
- 7) 肱川水系流域委員会, 国土交通省

北村 真一

- 1) Researcher : Food and Agriculture Organization of the united nations (FAO : 国際連合食糧農業機関)

5. 2 学協会委員等

環境動態解析部門

郭 新宇

- 1) 編集委員, 日本海洋学会学会誌「Journal of Oceanography」
- 2) 事業委員, 日本海洋学会沿岸研究部会事業部
- 3) 非常勤講師, 長崎大学

磯辺 篤彦

- 1) 評議員, 日本海洋学会
- 2) 委員, 日本海洋学会沿岸海洋研究部会

吉江 直樹

- 1) 委員, 北太平洋海洋科学機構 (PICES) 複合ストレスに対する生態系応答の評価指標開発に関する作業部会 (WG28)
- 2) 委員, 日本海洋学会沿岸海洋研究部会 事業部会

化学汚染・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 理事, 内分泌攪乱化学物質学会
- 2) 副会長・理事, 日本環境化学会
- 3) 評議員, 環境放射能除染学会
- 4) 幹事・副編集委員長, 日本環境毒性学会
- 5) 非常勤講師, 熊本県立大学
- 6) 教員特別研究推進費に係わる学外審査委員, 静岡県立大学
- 7) 環境問題助成選考委員会委員, 日本生命財団
- 8) Editorial Board Member, Marine Environmental Research (Elsevier)
- 9) Editorial Board Member, Marine Pollution Bulletin (Pergamon)
- 10) Editorial Board Member, Journal of Environmental Science, Processes & Impacts (RSCPublishing)

岩田 久人

- 1) Editorial Board Member, Ecotoxicology and Environmental Safety, Elsevier
- 2) Editorial Board Member, Journal of Toxicology, Hindawi Publishing Corporation
- 3) Editorial Board Member, Journal of Marine Biology, Hindawi Publishing Corporation
- 4) Editorial Board Member, Korean Society of Environmental Risk Assessment and Health Science

高菅 卓三

- 1) 副会長・理事, 講演会企画部会幹事, 編集委員会副委員長・幹事, 評議員 日本環境化学会
- 2) 極微量物質研究会技術顧問, (社) 日本環境測定分析協会
- 3) 試験所技術審査員, (財) 日本適合性認定協会
- 4) ダイオキシン分析技術セミナー委員及び講師, 日本分析化学会
- 5) ダイオキシン技能試験委員会委員, 日本分析化学会

仲山 慶

- 1) 幹事, 日本環境毒性学会

磯部 友彦

- 1) 水環境と洗剤研究委員会委員長, 日本水環境学会
- 2) Editorial Board Member, Environmental Science and Pollution Research (Springer)

5. 学会及び社会における活動

板井 啓明

- 1) 評議員, 日本地球化学会

生態系解析分野

鈴木 聡

- 1) Associate Editor, Microbes and Environments, 日本微生物生態学会
- 2) Associate Editor, Frontiers in Microbiology, Nature Publishing Group
- 3) 評議員, 日本微生物生態学会

大森 浩二

- 1) 愛媛県幹事, 日本生態学会
- 2) 和文誌編集委員, 応用生態工学会
- 3) 編集委員, Conference Papers in Environmental Sciences

北村 真一

- 1) 編集委員, Journal of Fish Pathology, 韓国魚病学会

濱村奈津子

- 1) 評議員, 日本微生物生態学会
- 2) 男女共同参画・ダイバーシティ推進委員長, 日本微生物生態学会
- 3) Associate Editor, Microbes and Environments, 日本微生物生態学会
- 4) Board of Editor, Ecological Research, 日本生態学会

5. 3 学会, 講演会などの開催 (センター主催または共催)

5. 4 学会, 講演会などの開催 (個人)

化学汚染・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 愛媛大学理学部化学科特別セミナー「分子環境地球化学：原子・分子から環境をみる重要性」, 講師：広島大学大学院理学研究科 高橋嘉夫教授 平成25年9月27日14:30~16:00, 愛媛大学総合研究棟 I 4F 共通会議室
- 2) 愛媛大学理学部化学科特別セミナー「見えないモノから視るー環境中の人工放射性核種を利用した地球科学研究ー」, 講師：広島大学大学院理学研究科 坂口 綾准教授 平成25年9月27日16:20~17:50, 愛媛大学総合研究棟 I 4F 共通会議室

岩田 久人

- 1) 愛媛大学-Kyung Hee University 環境毒性学合同研究セミナー開催 平成25年12月20日~23日, ソウル, 韓国

生態系解析部門

鈴木 聡

- 1) 愛媛微生物学研究会 NAME 第4回フォーラム, 平成25年11月2日, 愛媛大学

北村 真一

- 1) 地域産学連携支援委託事業 事業化可能性調査
「魚類寄生虫スクーチカ症の防除ワクチン開発に関するフィージビリティスタディ」
第1回ワークショップ, 平成25年12月21日, 愛媛大学

2) 地域産学連携支援委託事業 事業化可能性調査

「魚類寄生虫スクーチカ症の防除ワクチン開発に関するフィージビリティスタディ」
第2回ワークショップ，平成26年1月21日，大分県漁協下入津支店

濱村奈津子

- 1) 第29回日本微生物生態学会大会 鹿児島大学男女共同参画推進センター共催 男女共同参画シンポジウム，平成25年11月23日，鹿児島大学

5. 5 学会賞等

化学汚染・毒性解析部門

田上 瑠美

第22回日本環境化学会環境化学討論会最優秀学生賞，「生体試料に残留する極性 PPCPs の高感度一斉分析法：～鳥類・魚類肝臓資料への適用～」，（平成25年8月）

落合 真理

第22回日本環境化学会環境化学討論会優秀学生賞，「日本沿岸に生息する小型歯鯨類の OH-PCBs および OH-PBDEs：脳移行と脳内分布」，（平成25年8月）

長野 靖子

平成24年度愛媛大学大学院農学研究科生物環境保全学専攻修士論文発表会優秀賞，「イヌ・ネコに残留するハロゲン化フェノール類の代謝・排泄とその種間比較」，（平成26年2月）

6. 国際的活動

(平成25年度)

6. 1 国際研究プロジェクト

環境動態解析部門

郭 新宇

- 1) 平成25年1月～平成26年12月, 東シナ海における貧酸素水塊に関する研究, 華東師範大学
- 2) 平成25年1月～平成26年12月, 日本南岸の黒潮による栄養塩輸送及び下流側への影響, 国家海洋局第二海洋研究所
- 3) 平成25年1月～平成26年12月, 東シナ海における等深線を横切る交換流量に関する研究, 中国海洋大学, 天津科技大学

吉江 直樹

- 1) 平成23年～, 複合ストレスに対する生態系応答の評価指標開発に関する研究, 北太平洋海洋科学機構

化学汚染・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 平成15年～, 微量元素によるガーナの環境汚染, ガーナ水圏研究所
- 2) 平成16年～, 途上国の廃棄物投棄場におけるダイオキシン類等 POPs の汚染と毒性影響に関する研究, カンボジア・カンボジア水産局, インド・アンナマライ大学海洋生物学研究所等
- 3) 平成17年～, POPs および POPs 候補物質によるポルトガルの海洋汚染に関する研究, ポルトガル・アベイロ大学
- 4) 平成18年～, アジア地域の有機フッ素化合物汚染, 米国・ニューヨーク州立大学アルバニー校
- 5) 平成18年～, 電子・電気機器リサイクル施設および廃棄物処理施設における POPs 候補物質の汚染と影響, インド・アンナマライ大学, KLE's Nijalingappa College, Banglor
- 6) 平成19年～, POPs および POPs 候補物質によるインドネシアの環境汚染に関する研究, Center Technology for Marine Survey, Agency for the Assessment and Application of Technology (BPPT), インドネシア
- 7) 平成19年～, 電子・電気機器リサイクル施設および廃棄物処理施設における POPs 候補物質の汚染と影響, ベトナム・ハノイ大学
- 8) 平成20年～, 有害物質によるワニの内分泌攪乱, 米国・フロリダ大学および NAS
- 9) 平成23年～, 福島原発災害による放射性物質の海棲哺乳動物汚染, モナコ・国際原子力機関 (IAEA)

板井 啓明

- 1) 平成25年9月～, 海洋大型生物アーカイブの水銀安定同位体比を指標とした外洋中メチル水銀の生成過程に関する研究, フランス国立科学研究センター

岩田 久人

- 1) 平成16年～, 野生生物の有機フッ素化合物汚染とその影響に関する研究, 米国・ニューヨーク州立大学
- 2) 平成17年～, バイカルアザラシにおける化学物質の汚染および影響に関する研究, ロシア・The Eastern-Siberian Scientific and Production Fisheries Center
- 3) 平成19年～, ヒ素代謝酵素の遺伝的多型に関する研究, ベトナム・ハノイ大学
- 4) 平成21年～, 野生生物のアリアルハイドロカーボンレセプターの進化と機能に関する研究, 韓国・Kyung Hee 大学
- 5) 平成25年～, フィリピン野生生物の化学物質汚染と影響に関する研究, フィリピン・University of the Philippines

金 恩英

- 1) 平成15年～, 野生鳥類のアリールハイドロカーボンレセプターの進化と機能に関する研究, 米国・ウッズホール海洋研究所
- 2) 平成16年～, 野生生物の有機フッ素化合物汚染とその影響に関する研究, 米国・ニューヨーク州立大学
- 3) 平成17年～, バイカルアザラシにおける化学物質の汚染および影響に関する研究, ロシア・The Eastern-Siberian Scientific and Production Fisheries Center

生態系解析部門

鈴木 聡

- 1) 平成20年8月～, 養殖場の薬剤耐性菌研究, フィンランド・ヘルシンキ大学
- 2) 平成21年4月～, 複合汚染環境での薬剤耐性菌発生に関する研究, 台湾・国立成功大学
- 3) 平成24年4月～, 養殖場の薬剤耐性菌研究, 台湾・国立台湾海洋大学
- 4) 平成25年4月～, 排水・河川・海洋の薬剤耐性遺伝子定量, タイ・チュラロンコン大学

北村 真一

- 1) 平成18年9月～, 魚類感染症の発症メカニズムに関する研究, 韓国・国立全南大学校水産生命医学科

濱村奈津子

- 1) 平成21年4月～, イエローストーン温泉郡のメタゲノム解析, 米国・モンタナ州立大学およびポートランド州立大学
- 2) 平成22年10月～, モンゴル汚染環境サンプルの化学分析及び微生物生態解析, モンゴル国立大学

6. 2 在外研究等

6. 3 海外調査・国際学会等

環境動態解析部門

郭 新宇

- 1) 平成25年4月20日～30日, 国際学会 PAMS Meeting 参加 (杭州) と東シナ海における等深線を横切る交換流量に関する研究打合せ (青島), 中国
- 2) 平成25年5月24日～27日, Workshop on Shallow Sea Dynamics 参加, 天津, 中国
- 3) 平成25年7月6日～15日, WCRP/CLIVAR Second International Symposium on Boundary Current Dynamics 参加, 麗江, 中国
- 4) 平成25年8月3日～22日, Qiongzhou 海峡における潮流・残差流に関する共同研究, 杭州, 中国
- 5) 平成25年11月1日～4日, 東シナ海における等深線を横切る交換流量に関する研究打合せ, 天津, 中国
- 6) 平成25年11月13日～19, JSPS Joint International Seminar 参加, チンマイ, タイ
- 7) 平成25年12月21日～2014年1月7日, Qiongzhou 海峡における潮流・残差流に関する共同研究 (杭州), Jiaozhou 湾の生態系モデリングに関する共同研究 (青島), 中国
- 8) 平成26年3月2日～18日 日本南岸の黒潮による栄養塩輸送及び下流側への影響に関する共同研究 (杭州)、東シナ海における栄養塩と貧酸素水塊に関する共同研究 (上海), 中国

吉江 直樹

- 1) 平成25年10月11日～18日, 国際学会 PICES 2013 annual meeting 参加 (ナナイモ), カナダ
- 2) 平成26年2月23日～3月3日, 国際学会 Ocean Science meeting 2014参加 (ハワイ), アメリカ

化学汚染・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 平成25年8月25日～平成25年8月30日, 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2013) で座長および発表, Daegu, Korea
- 2) 平成25年9月8日～平成25年9月14日, インド・バンガロールの電子・電気機器廃棄物リサイクル工場周辺における環境調査および研究試料の採取, KLE's Nijalingappa College, Bangalore, India
- 3) 平成25年11月17日～平成25年11月22日, SETAC North America 2013 Annual Meeting 参加, Nashville, TN, USA.
- 4) 平成26年1月4日～平成26年1月8日, ベトナム・ハノイ周辺の環境汚染調査および研究試料の採取, Research Centre for Environmental Technology and Sustainable Development (CETASD), Hanoi University of Science, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam.

岩田 久人

- 1) 平成25年6月28日～7月5日, The XIII International Congress of Toxicology 2013, 参加・発表, ソウル, 韓国
- 2) 平成25年8月23日～9月1日, The 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN2013), 参加・発表, テグ, 韓国
- 3) 平成25年12月20日～22日, 日韓共同研究セミナー, Kyung Hee University 研究発表会, 参加・発表, ソウル, 韓国
- 4) 平成26年3月27日, 研究打ち合わせ, Korean Institute of Toxicology, Jinju, 韓国

Annamalai Subramanian

- 1) 平成25年8月25日～平成25年8月30日, 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2013) で発表, Daegu, Korea
- 2) 平成25年9月8日～平成25年9月17日, インド・バンガロールの電子・電気機器廃棄物リサイクル工場周辺における環境調査および研究試料の採取, KLE's Nijalingappa College, Bangalore, India.
- 3) 平成25年10月12日～平成25年10月14日, International Conference on Environmental Specimen Banks 2013で講演, Shanghai, China.

高菅 卓三

- 1) 平成25年8月25日～平成25年8月30日, 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN 2013) で座長および発表, Daegu, Korea
- 2) 28-30 November 2013, The 10th Workshop on Environmental Monitoring of Persistent Organic Pollutants in East Asian Countries. で発表3件, Manila, Philippines.
- 3) 10-12 March 2014. 3R International 2014 Special Session : Biomass Utilization Challenges-New Production Development of Biodiesel Fuel (ASTEM) 3R 国際会議 (京都大学) のバイオマス特別セッションで発表

仲山 慶

- 1) 平成25年6月16日～平成25年6月22日, 7th International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology 参加・発表, 香港 SAR, 中国.
- 2) 平成25年12月11日～平成25年12月14日, 研究打ち合わせ, セミナー参加, City University of Hong Kong, 香港 SAR, 中国.

磯部 友彦

- 1) 平成25年4月7日～平成25年4月12日, 6th International Symposium on Flame Retardants で発表, San Francisco, CA, USA.
- 2) 平成25年6月17日～平成25年6月22日, 7th International Conference on Marine Pollution and Ecotoxicology で発表, The University of Hong Kong, Hong Kong, China.
- 3) 平成25年8月25日～平成25年8月30日, 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN2013) で発表, Daegu, Korea.
- 4) 平成25年9月8日～平成25年9月17日, インド・バンガロールの電子・電気機器廃棄物リサイクル工場周辺にお

ける環境調査および研究試料の採取, KLE's Nijalingappa College, Bangalore, India.

- 5) 平成26年1月30日～平成26年2月4日, 海鳥の解剖およびサンプル採取, Oregon State University, Portland, OR, USA.

野見山 桂

- 1) 平成25年8月25日～平成25年8月30日, 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN2013) で発表, Daegu, Korea.
- 2) 平成25年9月29日～平成25年10月5日, SETAC Australia 2013 で発表, Melbourne, Australia.
- 3) 平成25年11月16日～平成25年11月23日, SETAC North America 2013 Annual Meeting で発表, Nashville, TN, USA.

板井 啓明

- 1) 平成25年7月7日～平成25年7月14日, 29th International Conference on Environmental Geochemistry and Health で発表, Toulouse, France.
- 2) 平成25年8月5日～平成25年8月14日, ガーナ・Accra 市において現地調査および研究試料の採取, Accra, Ghana.
- 3) 平成25年8月25日～平成25年9月1日, Goldschmidt2013 で発表, Firenze, Italy.
- 4) 平成26年3月10日～平成26年3月21日, Midi-Pyrenees Observatory (OMP) において水銀安定同位体分析, Toulouse, France.

阿草 哲郎

- 1) 平成25年6月30日～7月5日, The XIII International Congress of Toxicology 2013, 参加・発表, ソウル, 韓国
- 2) 平成25年12月20日～22日, 日韓共同研究セミナー, Kyung Hee University 研究発表会, 参加・発表, ソウル, 韓国
- 3) 平成26年1月4日～11日, ベトナム現地調査およびサンプリング, ベトナム
- 4) 平成26年3月23日～3月29日, Society of Toxicology 2014 53rd Annual Meeting, 参加・発表, Phoenix, USA

平野 将司

- 1) 平成25年6月30日～7月5日, The XIII International Congress of Toxicology 2013, 参加・発表, ソウル, 韓国
- 2) 平成25年8月23日～9月1日, The 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN2013), 参加・発表, テグ, 韓国
- 3) 平成25年11月17日～20日, 第5回 環境科学国際検討会, 参加・発表, 基隆, 台湾
- 4) 平成25年12月20日～22日, 日韓共同研究セミナー, Kyung Hee University 研究発表会, 参加・発表, ソウル, 韓国

Nguyen Minh Tue

- 1) 平成25年8月25日～平成25年8月30日, 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN2013) で発表, Daegu, Korea.
- 2) 平成25年11月20日～平成25年11月24日, ベトナム・ハノイ周辺において現地調査および研究試料の採取, Hanoi, Vietnam.
- 3) 平成26年1月4日～平成26年1月12日, ベトナム・ハノイ周辺の環境汚染調査および研究試料の採取, Research Centre for Environmental Technology and Sustainable Development (CETASD), Hanoi University of Science, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam.

落合 真理

- 1) 平成25年11月16日～平成25年11月23日, SETAC North America 2013 Annual Meeting で発表, Nashville, TN, USA.
- 2) 平成25年12月5日～平成25年12月16日, 20th Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals で発表, Dunedin, New Zealand

Le Huu Tuyen

- 1) 平成25年8月25日～平成25年8月30日, 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN2013) で発表, Daegu, Korea.

6. 国際的活動

- 2) 平成25年11月20日～平成25年11月24日, ベトナム・ハノイ周辺において現地調査および研究試料の採取, Hanoi, Vietnam.
- 3) 平成26年1月4日～平成26年1月12日, ベトナム・ハノイ周辺の環境汚染調査および研究試料の採取, Research Centre for Environmental Technology and Sustainable Development (CETASD), Hanoi University of Science, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam.

後藤 哲智

- 1) 平成25年8月5日～平成25年8月14日, ガーナ・Accra 市において現地調査および研究試料の採取, Accra, Ghana.
- 2) 平成25年8月25日～平成25年8月30日, 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (DIOXIN2013) で発表, Daegu, Korea.

田上 瑠美

- 1) 平成25年11月16日～平成25年11月23日, SETAC North America 2013 Annual Meeting で発表, Nashville, TN, USA.

辻沢 雄将

- 1) 平成25年9月8日～平成25年9月17日, インド・バンガロールの電子・電気機器廃棄物リサイクル工場周辺における環境調査および研究試料の採取, KLE's Nijalingappa College, Bangalore, India
- 2) 平成26年1月4日～平成26年1月11日, ベトナム・ハノイ周辺の環境汚染調査および研究試料の採取, Research Centre for Environmental Technology and Sustainable Development (CETASD), Hanoi University of Science, Vietnam National University, Hanoi, Vietnam.

西本 慶

- 1) 平成25年9月8日～平成25年9月17日, インド・バンガロールの電子・電気機器廃棄物リサイクル工場周辺における環境調査および研究試料の採取, KLE's Nijalingappa College, Bangalore, India

生態系解析部門

鈴木 聡

- 1) 平成25年6月, The Canadian Society of Microbiologists 63rd Annual Conference 参加・招待講演, オタワ, カナダ
- 2) 平成25年9月, 陸水・沿岸の薬剤耐性遺伝子調査, バンコク市周辺, タイ
- 3) 平成25年9月, 養殖環境中薬剤耐性遺伝子調査, ヘルシンキ市周辺, フィンランド
- 4) 平成25年11月, 養殖環境中薬剤耐性遺伝子調査および The 5th Joint forum of Environmentla Sciences 参加, 基隆市および宜蘭市周辺, 台湾

北村 真一

- 1) 平成25年7月, 7th Tunicate Meeting 国際学会に参加・発表, Naples, Italy
- 2) 平成25年12月, Department of Biology and Chemistry Special Departmental Seminar に参加・講演, Hong Kong

横川 太一

- 1) 平成25年9月, 養殖環境中薬剤耐性遺伝子調査, ヘルシンキ市周辺, フィンランド
- 2) 平成25年9月, 13rd Symposium on Aquatic Microbial Ecology に参加・発表, ストレーザ, イタリア
- 3) 平成25年11月, 養殖環境中薬剤耐性遺伝子調査および The 5th Joint forum of Environmentla Sciences 参加・発表, 基隆市および宜蘭市周辺, 台湾
- 4) 平成25年12月, 赤道域太平洋調査航海 (東京大学大気海洋研究所, KH13-7次航海)

濱村奈津子

- 1) 平成25年5月, American Society for Microbiology 113th General Meeting 国際学会に参加・発表, コロラド, アメリカ
- 2) 平成25年6月, 耐酸性重金属耐性菌に関する共同研究の実施, オレゴン, アメリカ
- 3) 平成25年10月, The 5th Taiwan-Korea-Japan International Symposium on Microbial Ecology に参加・発表, Taipei,

Taiwan

高部 由季

- 1) 平成25年5～7月, 酸素非発生型好気性光合成細菌の生理学に関する共同研究, トレボン, チェコ共和国
- 2) 平成25年9月, 陸水・沿岸の薬剤耐性遺伝子調査, バンコク市周辺, タイ
- 3) 平成25年11月, 養殖環境中薬剤耐性遺伝子調査および The 5th Joint forum of Environmental Sciences 参加・発表, 基隆市および宜蘭市周辺, 台湾

6. 4 外国人客員研究員等

環境動態解析部門

- 1) Ms. Yingying Hu, 中国海洋大学, 平成25年10月1日～平成26年3月31日
- 2) Liisa Puusepp, Tallinn University, Estonia, 日本学術振興会外国人特別研究員, 平成25年11月22日～平成27年8月21日

化学汚染・毒性解析部門

- 1) Ms. Sonia Dias Coelho, Aveiro University, Portugal, 共同研究の実施, 平成25年6月20日～平成25年9月3日
- 2) Dr. Ana Catarina Almeida Sousa, Aveiro University, Portugal, 共同研究の実施, 平成25年8月10日～平成25年9月15日
- 3) Ms. Fabiana Encarnacao Pinto Freitas, 共同研究の実施, 平成25年9月21日～平成25年12月10日

生態系解析部門

大森 浩二

- 1) Ngyen Tai Tue, JSPS 海外特別研究員, ベトナム共和国のマングローブ生態系における有機物動態解析, ベトナム共和国: 平成24年10月～平成26年9月

6. 5 海外からの訪問者

共通

- 1) Mrs. Sri Setiawati, Dr. Jumain Appe, Mr. I. Gusti Ketut Astana, Mr. Ardi Matutu, Mr. Prawata, Mr. Triyanto and Mr. Kunto Ismoyo, Ministry of Research and Technology and BPPT, Indonesia, 平成25年5月8日～平成25年5月10日, インドネシア - 日本の学術交流に関わる情報交換

化学汚染・毒性解析部門

- 1) Dr. Peethambaram Parthasarathy, E. Parisaraa (P) Ltd., Bangalor, India and Dr. Kesan A. Bulbule, KEL's Nijalingappa College, Bangalor, India, 平成25年7月4日～平成25年7月6日, 特別セミナーでの講演およびインド調査の打ち合わせ
- 2) Dr. Alistair B. A. Boxall, Environment Department, University of York, UK, 平成25年9月18日～平成25年9月19日, 卓越した大学院拠点形成補助金による特別セミナーでの講演および PPCPs 汚染に関する情報交換
- 3) Hwang, J-H., Kyung Hee University, Korea, 平成25年8月4日～16日, 野生生物の毒性影響に関する共同研究
- 4) Cho, S-W., Kyung Hee University, Korea, 平成25年8月4日～16日, 野生生物の毒性影響に関する共同研究

6. 6 招聘研究員

生態系解析部門

- 1) Ms. Narantuya Damdinsuren, National University of Mongolia, Mongol, モンゴル鉱山地域における重金属耐性菌の分布及び多様性解析に関する共同研究の実施, 平成26年1月15日～平成26年2月15日

6. 7 留学生

環境動態解析部門

- 1) Soeyanto Endro, 大学院理工学研究科博士後期課程, 大学経費, JCOPE2の再解析データからみた黒潮流量の経年変動に関する研究, インドネシア
- 2) 王玉成, 大学院理工学研究科博士後期課程, 私費, 東シナ海における栄養塩輸送機構に関する研究, 中国
- 3) 于晓杰, 大学院理工学研究科博士後期課程, 中国政府派遣留学生, 瀬戸内海における底部冷水・潮汐フロントに関する研究, 中国

化学汚染・毒性解析部門

- 1) Nguyen Minh Tue, 日本学術振興会外国人特別研究員, Dynamics and Risk Assessment of Endocrine Disrupter Emission from Plastic Waste Recycling in Vietnam (ベトナムの樹脂廃棄物リサイクルにより発生する内分泌攪乱物質の動態とリスク評価), ベトナム (平成27年3月まで)
- 2) Le Huu Tuyen, 大学院理工学研究科博士後期課程, 大学支援経費, Monitoring and Bioassay Studies on the Environmental Contamination by PAHs in Vietnam (ベトナムにおける PAHs の汚染実態解明とバイオアッセイによるリスク評価), ベトナム
- 3) Adi Slamet Riyadi, 大学院理工学研究科博士後期課程, 大学支援経費, Spatial and Temporal Variations of Trace Element Contamination in Jakarta Bay (ジャカルタ湾における微量元素汚染の時空間変動解析), インドネシア
- 4) Yoo Jean, 大学院理工学研究科アジア環境学特別コース博士後期課程, アザラシのシトクロム P450による化学物質代謝能の解析, 韓国
- 5) Maria Claret Lauan, 大学院理工学研究科博士後期課程環境機能科学専攻, 環境汚染物質によるフィリピン野生生物プロテオームへの影響解析, フィリピン
- 6) Ngyuen Thanh Hoa, 大学院理工学研究科アジア環境学特別コース博士前期課程, 化学物質による生物プロテオームへの影響解析法の開発, ベトナム

生態系解析部門

- 1) Ngo Vy Thao, 理工学研究科, 大学経費, 海水中での細菌タンパク質の分解過程, ベトナム
- 2) 金 受珍, 理工学研究科, 私費, 沿岸海水中のテトラサイクリン耐性遺伝子の研究, 大韓民国
- 3) Avi N. Oktaviani, 理工学研究科, 大学経費, 抗生物質の海水中細菌群集への影響, インドネシア
- 4) Luu Viet Dung, 大学院理工学研究科博士前期課程アジア環境学特別コース, 大学経費, ベトナム共和国メコン川河口におけるマングローブ生態系の有機物動態と食物連鎖網, ベトナム共和国

7. 教育活動

7. 1 卒業論文・修士論文・博士論文 題目 (平成25年度)

環境動態解析部門

卒業論文

- 1) 日下 光国：海底堆積物分析による親潮域の低次生産の長期変動に関する研究
- 2) 井内 智広：温暖化に伴う瀬戸内海の藻場変動に関する研究
- 3) 占部 浩行：瀬戸内海および周辺地域の海陸風に関する研究
- 4) 宮地 宏弥：瀬戸内海の長期水温変動に関する研究
- 5) 富田 和之：動物プランクトンの生理過程が生態系に及ぼす影響の数値モデル解析
- 6) 荒井 翔太：法華津湾の内部波に関する研究
- 7) 高橋 祐介：瀬戸内海および宇和海における赤潮発生要因に関する研究
- 8) 坂本 航平：東シナ海における植物プランクトン群集構造の短期変動に関する研究

課題研究 A

- 1) 平田 景都：珪藻群集組成に基づく大気降下物による湖沼生態系への影響ーニセコ大沼の例ー

化学汚染・毒性解析部門

卒業論文

- 1) 亀井 俊紀：東アジア近海における水銀の時空間変動：カツオ試料を用いた解析
- 2) 林田 義一：ガーナの E-waste 処理地域におけるダイオキシン類縁化合物と臭素系難燃剤の汚染実態
- 3) 高口 倅暉：イヌ・ネコにおける PCBs および水酸化代謝物の脳移行
- 4) 西本 慶：リン酸エステル系難燃剤によるインドネシアの母乳汚染
- 5) 山本 恭央：ペットネコにおける有機ハロゲン化合物および水酸化代謝物の汚染実態と曝露源の推定
- 6) 久米奈緒子：スジイルカ (*Stenella coeruleoalba*) における残留性有機ハロゲン化合物汚染の経年変化
- 7) 大田 真人：鯨類試料を指標とした北西太平洋の水銀動態解析
- 8) 堀 崇亮：東日本震災地におけるアイナメの有機ハロゲン化合物汚染
- 9) 近岡 浩佑：琵琶湖北湖湖底の溶存酸素濃度の季節変動とマンガン溶出量の関係
- 10) 芳之内結加：環境汚染物質によるバイカルアザラシ エストロゲン受容体 α ・ β アイソフォーム 転写活性化能の評価
- 11) 大西 成規：組換え近交系マウスを使ったダイオキシン類感受性規定遺伝子の探索
- 12) 大石 達也：魚類を対象とする新規免疫毒性評価法の構築に向けた感染実験の条件検討
- 13) 崎生 啓太：飼育水中のコルチゾル濃度を指標としたメダカのストレスの評価

修士論文

- 1) 今川 渉：日本海深海生態系における残留性有機ハロゲン化合物の分布と蓄積
- 2) 長野 靖子：イヌ・ネコに残留するハロゲン化フェノール類の代謝・排泄能とその種間比較
- 3) 桂 加奈：ヒト母乳中内分泌攪乱活性スクリーニングとリスク評価
- 4) 古池 幸：ホッキョクグマのシトクロム P450 1A・2B による PCBs 代謝能の評価
- 5) 中川 祥子：化学物質によるホッキョクグマ (*Ursus maritimus*) CAR のシグナル伝達系への影響

博士論文

- 1) 大塚 将成：ガーナ共和国・アクラ地域の電気電子機器廃棄物処理場における重金属類汚染の実態解明

7. 教育活動

- 2) Mari Ochiai (落合 真理) : Accumulation Features and Blood-Brain Transfer of Halogenated Phenolic Metabolites in Cetaceans (鯨類における有機ハロゲン代謝物の蓄積特性と脳移行)

生態系解析部門

卒業論文

- 1) 磯辺 貴大 : スクーチカ症の原因虫 *Miamiensis avidus* 感染時のヒラメ体内における好酸球の動態
- 2) 木村 文華 : ウイルス感染に対する魚類脾臓の免疫学的役割の解明
- 3) 岸 佑里子 : ヒラメ *Paralichthys olivaceus* の同種異系移植片に対する免疫拒絶に関する研究
- 4) 里中 美穂 : リンホシスチス病耐性ヒラメのウイルス性出血性敗血症ウイルスに対する感受性
- 5) 中村 拓哉 : 水圏環境からのサルファ剤耐性遺伝子群のキャプチャーと多様性解析
- 6) 松本健太郎 : *Acinetobacter* から海洋性 *Vibrio* へのサルファ剤耐性遺伝子の伝達に及ぼす金属の影響
- 7) 中尾 浩則 : 宇和海の養殖環境海水中の従属栄養細菌と光従属栄養細菌の群集構造
- 8) 西岡 将 : 沿岸養殖環境の細菌群集の季節変動
- 9) 大野真衣子 : 海洋細菌群集からの伝達性プラスミドの捕獲とそれに担われるオキシテトラサイクリン耐性遺伝子
- 10) 板野 賢大 : 愛媛県今治市近郊に生息するカシミサンショウウオ (*Hynobius nebulosus*) の生息地解析
- 11) 岡田 朋 : 瀬戸内海備讃瀬戸におけるカイアシ類の摂食機構について

修士論文

- 1) 野澤 昭乃 : Studies of the causative agent and pathogenic mechanisms of soft tunic syndrome in ascidian *Halocynthia roretzi*
- 2) Avi N. Oktaviani : Effect of antibiotic addition on bacterial community in seawater
- 3) LUU VIET DUNG : Material cycle of mangrove forests in Viet Nam

博士論文

- 1) 金 受珍 : Occurrence and diversity of tetracycline resistance gene, *tet* (M), in Korean coastal seawater

7. 2 講義・集中講義 (平成25年度)

環境動態解析部門

武岡 英隆

- 1) 平成25年度前期, 環境科学セミナー I, スーパーサイエンス特別コース
- 2) 平成25年度前期, コース英語 I, スーパーサイエンス特別コース
- 3) 平成25年度前期, 新入生セミナー, スーパーサイエンス特別コース
- 4) 平成25年度前期, 海洋学通論, スーパーサイエンス特別コース・理学部
- 5) 平成25年度前期, 地球科学, 工学部
- 6) 平成25年度後期, 環境科学セミナーIV, スーパーサイエンス特別コース
- 7) 平成25年度後期, 環境学通論, スーパーサイエンス特別コース・理学部
- 8) 平成25年度後期, 社会デザイン演習 I、II, 工学部
- 9) 平成25年度前期, 沿岸海洋学特論, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 10) 平成25年度前後期, 環境建設工学ゼミナール, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 11) 平成25年度前後期, 環境建設工学特別実験, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 12) 平成25年度後期, 海洋環境工学特論III, 大学院理工学研究科博士後期課程

郭 新宇

- 1) 平成25年度前期, 地球科学野外研究, 理学部
- 2) 平成25年度前期, 沿岸海洋学, 理学部・スーパーサイエンス特別コース
- 3) 平成25年度後期, 海洋物理学 II, 理学部・スーパーサイエンス特別コース

- 4) 平成25年度後期, 地球科学課題研究, 理学部
- 5) 平成25年度後期, 地球科学特別演習Ⅰ, 理学部
- 6) 平成25年度後期, 地球科学特別演習Ⅱ, 理学部
- 7) 平成25年度後期, 地球環境学特論, 理学部
- 8) 平成25年度前期, 大気海洋科学特論, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 9) 平成25年度前期, 地球科学高等実験Ⅰ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 10) 平成25年度前期, 地球科学高等実験Ⅴ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 11) 平成25年度前期, 地球科学フィールド高等実習Ⅰ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 12) 平成25年度前期, 地球科学フィールド高等実習Ⅴ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 13) 平成25年度後期, 地球科学高等実験Ⅲ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 14) 平成25年度後期, 地球科学フィールド高等実習Ⅲ, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 15) 平成25年度前期, 大気海洋力学, 大学院理工学研究科博士後期課程
- 16) 平成25年度前後期, 地球進化学特論Ⅷ, 大学院理工学研究科博士後期課程

磯辺 篤彦

- 1) 平成25年度前期, 地球科学野外研究, 愛媛大学理学部
- 2) 平成25年度前期, 地球環境学序論, 愛媛大学理学部
- 3) 平成25年度前期, 自然の法則, 愛媛大学共通教育
- 4) 平成25年度前期, 海洋物理学Ⅰ, 愛媛大学理学部
- 5) 平成25年度前期, 地球科学Ⅱ, 愛媛大学共通教育
- 6) 平成25年度後期, 地球科学特別演習Ⅰ, 愛媛大学理学部
- 7) 平成25年度後期, 地球科学課題研究, 愛媛大学理学部
- 8) 平成25年度後期, 海洋物理学実験, 愛媛大学理学部
- 9) 平成25年度後期, 地球科学特別演習Ⅱ, 愛媛大学理学部
- 10) 平成25年度前期, 地球科学高等実験Ⅰ, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 11) 平成25年度前期, 地球科学高等実験Ⅴ, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 12) 平成25年度前期, 地球科学フィールド高等実習Ⅰ, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 13) 平成25年度前期, 地球科学フィールド高等実習Ⅴ, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 14) 平成25年度後期, 地球科学高等実験Ⅲ, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程
- 15) 平成25年度後期, 地球科学フィールド高等実習Ⅲ, 愛媛大学大学院理工学研究科博士前期課程

加 三千宣

- 1) 平成25年度前期, 海洋学通論, スーパーサイエンス特別コース・理学部
- 2) 平成25年度後期, 最新地球惑星科学, 理学部
- 3) 平成25年度後期, 地球環境学特論, 理学部

吉江 直樹

- 1) 平成25年度前期, 微分方程式, 工学部
- 2) 平成25年度前期, 水理学Ⅰおよび同演習, 工学部
- 3) 平成25年度後期, 地球環境学 工学部
- 4) 平成25年度前期, 環境建設デザイン演習Ⅲ, 工学部
- 5) 平成25年度前期, 社会デザイン演習Ⅰ, 工学部
- 6) 平成25年度前期, 社会デザイン演習Ⅱ, 工学部
- 7) 平成25年度前期, 社会デザイン演習Ⅲ, 工学部
- 8) 平成25年度後期, 環境建設デザイン演習Ⅲ, 工学部
- 9) 平成25年度後期, 社会デザイン演習Ⅰ, 工学部
- 10) 平成25年度後期, 社会デザイン演習Ⅱ, 工学部
- 11) 平成25年度後期, 社会デザイン演習Ⅲ, 工学部

集中講義

郭 新宇

- 1) 平成25年度後期, 実践型環境特別演習 B, 長崎大学大学院工学研究科

化学汚染・毒性解析部門

講 義

田辺 信介

- 1) 平成25年度前後期, 環境保全セミナー, 農学部
- 2) 平成25年度後期, 環境化学, 農学部
- 3) 平成25年度後期, 海洋環境学, 農学部
- 4) 平成25年度後期, 生物環境保全学入門, 農学部
- 5) 平成25年度前後期, 卒業論文, 農学部
- 6) 平成25年度前期, 化学序論, 理学部
- 7) 平成25年度前期, 卒業研究 I, 理学部
- 8) 平成25年度後期, 卒業研究 II, 理学部
- 9) 平成25年度後期, 環境化学, 理学部
- 10) 平成25年度前期, 環境科学セミナー I, スーパーサイエンス特別コース
- 11) 平成25年度前期, 環境科学セミナー III, スーパーサイエンス特別コース
- 12) 平成25年度前期, コース英語 I, スーパーサイエンス特別コース
- 13) 平成25年度前期, 新入生セミナー B, スーパーサイエンス特別コース
- 14) 平成25年度前期, Environmental Toxicology and Chemistry, 大学院農学研究科アジア・アフリカ環太平洋生物資源学特別コース
- 15) 平成25年度前期, Advanced Lab Work IV, 大学院農学研究科アジア・アフリカ環太平洋生物資源学特別コース
- 16) 平成25年度前期, Advanced Practicum IV, 大学院農学研究科アジア・アフリカ環太平洋生物資源学特別コース
- 17) 平成25年度前期, Advanced Seminar IV, 大学院農学研究科アジア・アフリカ環太平洋生物資源学特別コース
- 18) 平成25年度前期, 有害物質動態論, 大学院農学研究科, 大学院理工学研究科
- 19) 平成25年度前期, 生物環境保全学研究, 大学院農学研究科
- 20) 平成25年度前期, 生態環境科学特論 II, 大学院理工学研究科博士後期課程
- 21) 平成25年度前後期, 環境機能科学特別研究, 大学院理工学研究科博士後期課程
- 22) 平成25年度前後期, 環境機能科学特別演習, 大学院理工学研究科博士後期課程

岩田 久人

- 1) 平成25年度前期, 新入生セミナー B, スーパーサイエンス特別コース
- 2) 平成25年度前期, SSC 共通セミナー, スーパーサイエンス特別コース
- 3) 平成25年度前期, 環境毒性学, 理学部・スーパーサイエンス特別コース・農学部
- 4) 平成25年度前期, 基礎生物化学, 理学部・スーパーサイエンス特別コース
- 5) 平成25年度後期, 環境学通論, スーパーサイエンス特別コース
- 6) 平成25年度後期, 環境科学コースセミナー IV, スーパーサイエンス特別コース
- 7) 平成25年度後期, 環境科学コース英語 II, スーパーサイエンス特別コース
- 8) 平成25年度後期, 課題研究 A, スーパーサイエンス特別コース
- 9) 平成25年度後期, 生物学展望, 理学部
- 10) 平成25年度後期, 生物学課題研究, 理学部
- 11) 平成25年度前・後期, 環境保全セミナー, 農学部
- 12) 平成25年度前・後期, 生物学特別演習, 理学部
- 13) 平成25年度前・後期, 生態化学実験, 農学部
- 14) 平成25年度前・後期, 卒業研究, 理学部
- 15) 平成25年度前期, 生物環境保全学研究, 大学院農学研究科
- 16) 平成25年度後期, 環境分子毒性学, 大学院理工学研究科・大学院農学研究科
- 17) 平成25年度前・後期, 生物環境保全学演習 I, 大学院農学研究科

- 18) 平成25年度前・後期, 生物環境保全学演習Ⅱ, 大学院農学研究科
- 19) 平成25年度前・後期, 生物環境保全学実験Ⅰ, 大学院農学研究科
- 20) 平成25年度前・後期, 生物環境保全学実験Ⅱ, 大学院農学研究科

磯部 友彦

- 1) 平成25年度前期, 課題研究 C, スーパーサイエンス特別コース
- 2) 平成25年度後期, 課題研究 C, スーパーサイエンス特別コース
- 3) 平成25年度前期, 基礎化学実験, 理学部化学科
- 4) 平成25年度後期, 環境化学, 理学部

野見山 桂

- 1) 平成25年度前期, 基礎化学実験, 理学部化学科
- 2) 平成25年度前期, 卒業研究Ⅰ, 理学部
- 3) 平成25年度後期, 卒業研究Ⅱ, 理学部
- 4) 平成25年度後期, 新入生セミナー B
- 5) 平成25年度集中, 化学ゼミナールⅠ
- 6) 平成25年度集中, 化学ゼミナールⅡ
- 7) 平成25年度集中, 化学ゼミナールⅢ
- 8) 平成25年度集中, 化学ゼミナールⅣ
- 9) 平成25年度集中, 分子科学課題演習Ⅰ
- 10) 平成25年度集中, 分子科学課題演習Ⅱ

板井 啓明

- 1) 平成25年度後期, 地球化学, 理学部地球科学科
- 2) 平成25年度後期, 地球化学, スーパーサイエンス特別コース
- 3) 平成25年度後期, 地球環境学特論, 理学部地球科学科
- 4) 平成25年度後期, 地球科学課題研究, 理学部地球科学科
- 5) 平成25年度前期, 地球科学野外研究, 理学部地球科学科
- 6) 平成25年度後期, 地球科学Ⅱ, 共通教育科目
- 7) 平成25年度後期集中, 地球科学実験Ⅱ, 理学部地球科学科
- 8) 平成25年度前期, 新入生セミナー A 共通教育科目
- 9) 平成25年度前期, 卒業研究Ⅰ, 理学部地球科学科
- 10) 平成25年度後期, 卒業研究Ⅱ, 理学部地球科学平成24年度後期, 地球化学, 理学部

集中講義

田辺 信介

- 1) 平成25年度後期, 生物濃縮論, 熊本県立大学環境共生学部

仲山 慶

- 1) 平成25年度前期, 基礎生物学演習, 理学部

生態系解析部門

講義

鈴木 聡

- 1) 平成25年度前期, 新入生セミナー, スーパーサイエンスコース
- 2) 平成25年度前期, 環境生化学, 農学部
- 3) 平成25年度後期, 環境学通論, スーパーサイエンスコース
- 4) 平成25年度後期, コース英語, スーパーサイエンスコース
- 5) 平成25年度前期, 環境科学セミナーⅢ, スーパーサイエンスコース

7. 教育活動

- 6) 平成25年度後期, 環境科学セミナーⅡ, スーパーサイエンスコース
- 7) 平成25年度前期, 生物環境保全学実験Ⅲ, 農学部
- 8) 平成25年度通年, 分子生態学実習, 農学部
- 9) 平成25年度後期, 環境分子生物学, 大学院農学研究科
- 10) 平成25年度前後期, 生物環境保全学研究, 大学院農学研究科
- 11) 平成25年度前後期, 生物環境保全学演習Ⅰ, 大学院農学研究科
- 12) 平成25年度前後期, 生物環境保全学演習Ⅱ, 大学院農学研究科
- 13) 平成25年度前後期, 生物環境保全学実験Ⅰ, 大学院農学研究科
- 14) 平成25年度前後期, 生物環境保全学実験Ⅱ, 大学院農学研究科
- 15) 平成25年度前期, フィールドワーク, 大学院理工学研究科アジア環境学特別コース
- 16) 平成25年度後期, フィールドワーク, 大学院理工学研究科アジア環境学特別コース
- 17) 平成25年度後期, インターンシップ, 大学院理工学研究科アジア環境学特別コース
- 18) 平成25年度後期, 微生物学, 聖カタリナ女子高等学校専攻科

大森 浩二

- 1) 平成25年度前期, 博物館実習(事前指導)
- 2) 平成25年度前期, 基礎英語, 愛媛大学理学部
- 3) 平成25年度後期, 野外実習, 愛媛大学理学部
- 4) 平成25年度後期, 博物館実習(事後指導)
- 5) 平成25年度後期, 環境生物学, 愛媛大学理学部
- 6) 平成25年度後期, 生物学序論, 愛媛大学理学部
- 7) 平成25年度前期, 基礎生物英語, 愛媛大学理学部
- 8) 平成25年度前後期, 生物学ゼミナール, 愛媛大学理学部
- 9) 平成25年度前後期, 卒業研究, 愛媛大学理学部
- 10) 平成25年度前後期, 生物学演習, 愛媛大学理学部
- 11) 平成25年度前後期, 生物学課題研究, 愛媛大学理学部
- 12) 平成25年度前期, 環境科学セミナーⅠ, Ⅲ, SSC
- 13) 平成25年度後期, 環境科学セミナーⅡ, Ⅳ, SSC
- 14) 平成25年度前後期, SSC 課題実験, SSC
- 15) 平成25年度前後期, 新入生セミナー A, B, SSC
- 16) 平成25年度前後期, 水域生態学, 愛媛大学大学院理工学研究科
- 17) 平成25年度前後期, 生物学ゼミナール, 愛媛大学大学院理工学研究科
- 18) 平成25年度前後期, 生態学特論, 愛媛大学大学院理工学研究科

北村 真一

- 1) 平成25年度前期, 海洋生物学, 理学部
- 2) 平成25年度前期, 海洋生物学実習, 理学部
- 3) 平成25年度後期, 生物学課題研究, 理学部
- 4) 平成25年度前期, 生物学ゼミナールⅠ, 理学部
- 5) 平成25年度後期, 生物学ゼミナールⅡ, 理学部
- 6) 平成25年度後期, 生物学展望, 理学部
- 7) 平成25年度後期, 水圏微生物学, 大学院理工学研究科博士前期課程
- 8) 平成25年度後期, 微生物学, 理学部

横川 太一

- 1) 平成25年度前期, 生物環境保全学実験Ⅲ, 農学部
- 2) 平成25年度後期, 環境基礎数学, 農学部
- 3) 平成25年度後期, フィールドワーク, 大学院理工学研究科アジア環境学特別コース

集中講義

北村 真一

- 1) 平成25年度前期, 自然計特別講義 I, 琉球大学
- 2) 平成25年度前期, 培養細胞工学, 福井県立大学

8. 設 備

(平成25年度導入)

化学汚染・毒性解析部門

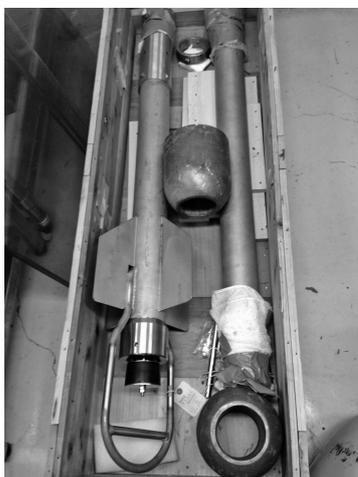
- 1) レブコ超低温槽 (EXF40086) : 肝臓などの新鮮生物試料を、 -80°C で長期保存する



- 2) 卓上型超遠心機 (Optima MAX-XP) : すりつぶした生物の組織や細胞を遠心分離によって構成するタンパク質や成分別に細かく分画する装置



- 3) 重鎮型柱状採泥器 (離合社5168-A-鉛60) : 海底の堆積物や泥を採取する装置



9. 広 報

(平成25年度)

9. 1 CMES ニュース

CMES ニュース No. 27

目 次

新任教員紹介

加 三千宣・磯部 友彦

科学研究費新規採択課題紹介

基盤研究 (A) 「ペット動物の化学汚染:有機ハロゲン化合物および代謝物の暴露実態解明とリスク評価」
化学汚染・毒性解析部門 教授 田辺 信介

基盤研究 (A) (海外学術) 「人為・自然錯乱された熱帯アジアの水循環における抗生物質と薬剤耐性遺伝子の動態」

生態系解析部門 教授 鈴木 聡

若手研究 (A) 「哺乳類に残留する有機ハロゲン代謝物の脳移行と甲状腺ホルモンへの影響評価」

化学汚染・毒性解析部門 講師 野見山 桂

挑戦的萌芽研究 「航空写真観測と数値モデルによるクラゲ集群密度と湾規模の現存量推定手法の開発」

環境動態解析部門 准教授 郭 新宇

科学研究費の採択状況

編集後記

CMES ニュース No. 29

目 次

科学研究費新規採択課題紹介

新学術領域研究 「ローカスケールの大気海洋相互作用が海洋生態系に及ぼす影響の評価」

環境動態解析部門 講師 吉江 直樹

基盤研究 (B) 「琵琶湖深部の貧酸素化にともなうマンガン:ヒ素大量溶出モデルの構築」

化学汚染・毒性解析部門 講師 板井 啓明

挑戦的萌芽研究 「ゲノム・核内受容体の相互作用アレイによる化学物質影響評価の開発」

化学汚染・毒性解析部門 教授 岩田 久人

若手研究 (B) 「抗生物質流出による水圏微生物群集の応答解析および腐食食物網の影響評価」

生態系解析部門 講師 横川 太一

特別研究員奨励費 「ベトナムの樹脂廃棄物リサイクルにより発生する内分泌攪乱物質の動態とリスク評価」

化学汚染・毒性解析部門 日本学術振興会特別研究員 Nguyen Tue Min

新任研究員紹介

環境動態解析部門 研究員 Liisa Puusepp

学会参加報告

「The 3rd international workshop on microbiology for young scientists at Center for Ecological Research, Kyoto University」

生態系解析部門 理工学研究科アジア環境特別コース博士課程学生 Ngo Vy Thao

編集後記

9. 2 報道関係

化学汚染・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 平成25年6月21日, サカナは養殖に限る 養殖アユが「優等生」 ダイオキシン類の濃度, 週刊朝日
- 2) 平成25年6月8日~22日, 地球環境2013 過去の汚染の貴重な記録 愛媛大の生物試料バンク, 千葉日報、神奈川新聞、京都新聞、熊本日日新聞、信濃毎日新聞
- 3) 平成25年6月23日, うちの自慢 愛媛大学 生物や環境試料1350種冷凍保存, 読売新聞
- 4) 平成25年7月4日, 大学 愛媛大生物環境試料バンク 知の明日を築く 生物分析地球環境守る, 日本経済新聞
- 5) 平成25年8月20日, マングースから PCB 普天間、牧港、米軍基地周辺高濃度9倍 愛媛大・名桜大調査, 琉球新報
- 6) 平成25年9月7日, 海へ溶けだす化学物質 詳細な解明必要, 朝日新聞
- 7) 平成25年9月19日, Science Forum at KLE College, City plus, Bangalore, India
- 8) 平成26年3月17日, 豊穰の海を守る ②野生のスナメリ, 愛媛新聞
- 9) 平成26年3月22日放送, 瀬戸内海国立公園80周年 野生のスナメリ, 愛媛新聞レポート

板井 啓明

- 1) 平成26年3月12日放送, 琵琶湖湖底へのマンガンの濃集, おうみ発610, NHK 大津放送局

9. 3 講座, 講演会等

環境動態解析部門

武岡 英隆

- 1) 瀬戸内海の環境、坂の上の雲ミュージアム講座、10月21日
- 2) 環境教育学, 生態系Ⅱー海 (命を育む潮の流れ), 愛媛大学附属高校, 11月1日

化学汚染・毒性解析部門

田辺 信介

- 1) 化学物質と環境, 愛媛県立松山南高等学校スーパーサイエンスハイスクール高大連携授業, 松山市, 2月.
- 2) 環境ホルモンについて, 三重中学校ミニ講義, 松山市, 6月.

岩田 久人

- 1) 環境と生物: 化学物質による環境汚染と野生生物への影響, 愛媛大学オープンキャンパス講義

生態系解析部門

鈴木 聡

- 1) 特別講演会, 水圏環境・養殖環境における薬剤耐性遺伝子とその水平伝達, 平成25年7月16日, 酪農学園大学獣医学部
- 2) リーディング大学院講義, Antibiotic resistance genes (ARGs) and its horizontal gene transfer (HGT) in aquaculture environment, 平成25年12月9日, 北海道大学大学院獣医学研究科
- 3) SATREPS 特別講演, 水圏環境・養殖環境における薬剤耐性遺伝子とその水平伝達, 平成26年2月10日, 大阪大学グローバルコラボレーションセンター

10. 調査実習船「いさな」運航状況



(平成25年度)

船長：大西秀次郎

日付	運行海域	目的
H25.4.18	伊予灘	海洋観測
H25.4.23	伊予灘	海洋観測
H25.5.16~17	水島(岡山)	海洋観測
H25.5.28	中島	海洋観測
H25.5.31	松山沖	地球科学野外実習(底泥採取実習)
H25.7.1	伊予灘	バルーン空撮による海洋観測
H25.7.25	伊予灘	バルーン空撮による海洋観測
H25.7.29~30	伊予灘	航海実習
H25.8.3~4	宇和海	SSC 合宿研修における海洋観測実習
H25.8.8~9	伊予灘	バルーン空撮による海洋観測
H25.8.19~20	伊予灘	バルーン空撮による海洋観測
H25.8.23	伊予灘	調査
H25.8.27~9.1	宇和海	海洋観測
H25.9.5	松山沖	理学部実習
H25.9.9~10	伊予灘	調査
H25.9.24	伊予灘	調査
H25.9.30~10.3	別府湾	調査
H25.10.10	伊予灘	調査
H25.11.6	松山沖	調査
H25.11.22	松山沖	調査
H25.12.16	松山沖	調査

11. 研究員名簿

(研究員：沿岸環境科学研究センター規則（14章参照）に基づき任命された学内の協力研究者）

(平成25年度)

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
伊福 誠	理工学研究科生産環境工学専攻	教授	エスチャリーにおける混合と循環に関する研究	環境動態解析部門
畑田 佳男	理工学研究科生産環境工学専攻	講師	沿岸波浪に関する研究	環境動態解析部門
渡邊 政広	理工学研究科生産環境工学専攻	教授	都市域から沿岸海域への汚濁流出に関する研究	環境動態解析部門
中村 孝幸	理工学研究科生産環境工学専攻	准教授	沿岸構造物に関する研究	環境動態解析部門
三宅 洋	理工学研究科生産環境工学専攻	講師	流域の自然環境および人間活動が河川生物群集に及ぼす影響の解明群集	環境動態解析部門
井内 國光	理工学研究科生産環境工学専攻	准教授	海岸地下水に関する研究	環境動態解析部門
森脇 亮	理工学研究科生産環境工学専攻	准教授	大気環境に関する研究	環境動態解析部門
堀 利栄	理工学研究科数理物質科学専攻	准教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究	環境動態解析部門
川瀬久美子	教育学部社会科教育	准教授	珪藻分析に基づく瀬戸内海の古環境変遷の解明	環境動態解析部門
三浦 猛	南予水産研究センター	教授	環境汚染物質が魚類の生殖に与える影響の機構解明	化学汚染・毒性解析部門
菅原 卓也	農学部生物資源学科	准教授	環境化学物質の生体リスク評価、特に免疫系に及ぼす化学物質の影響の解析	化学汚染・毒性解析部門
柿沼 喜己	農学部生物資源学科	教授	イオンホメオスタシスへの化学物質の影響	化学汚染・毒性解析部門
村上 安則	理工学研究科環境機能科学専攻	准教授	環境毒物が脊椎動物の神経系ならびにその発生過程に及ぼす影響の解析	化学汚染・毒性解析部門
藤野 貴広	総合科学研究支援センター	准教授	脂質代謝に於ける脂溶性難分解毒性物質の動態	化学汚染・毒性解析部門
佐野 栄	教育学部理科教育	教授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究	生態系解析部門
佐藤 成一	理工学研究科環境機能科学専攻	教授	淡水性藻類の細胞および細胞器官の形態形成	生態系解析部門
小南 哲也	理工学研究科環境機能科学専攻	教授	海産動物である棘皮動物(特にウニ)を用いた発生学的研究	生態系解析部門

氏 名	所 属	職	研 究 課 題	主として連携する研究分野
中島 敏幸	理工学研究科環境機能科学専攻	准教授	水界微生物群集の種間相互作用の解析	生態系解析部門
佐藤 康	理工学研究科環境機能科学専攻	准教授	水生植物のリグニン合成・蓄積機構の研究	生態系解析部門
金田 剛史	理工学研究科環境機能科学専攻	講 師	藻類の形態形成に関する研究	生態系解析部門
井上 幹生	理工学研究科環境機能科学専攻	准教授	河川性魚類の生息環境の解析	生態系解析部門
畑 啓生	理工学研究科環境機能科学専攻	助 教	沿岸魚類群集の解析	生態系解析部門

12. 客員研究員名簿

(客員研究員：沿岸環境科学研究センター規則（14章参照）に基づき委嘱された学外の協力研究者)

(平成25年度)

氏名	所属	職	研究課題	主として連携する研究分野
門谷 茂	北海道大学大学院水産科学研究院 海洋環境科学分野	教授	瀬戸内海の栄養塩動態に関する研究	環境動態解析部門
塚本 秀史	弓削商船高等専門学校 情報工学科	教授	燧灘の海洋構造に関する研究	環境動態解析部門
橋本 俊也	広島大学大学院生物圏科学研究科	准教授	生態系モデルに関する研究	環境動態解析部門
高橋 暁	独立行政法人産業技術総合研究所中国センター 地質情報研究部門 沿岸海洋研究グループ	主任研究員	瀬戸内海の流動の数値シミュレーションに関する研究	環境動態解析部門
森本 昭彦	名古屋大学地球水循環研究センター	准教授	豊後水道の水温予報に関する研究	環境動態解析部門
柳 哲雄	九州大学応用力学研究所 東アジア海洋大気環境研究センター	教授	沿岸海域の物質循環に関する研究	環境動態解析部門
松野 健	九州大学応用力学研究所 地球環境力学部門	教授	東シナ海の流動と物質循環に関する研究	環境動態解析部門
市川 香	九州大学応用力学研究所 地球環境力学部門	准教授	黒潮の沿岸海域への影響に関する研究	環境動態解析部門
清水 学	独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所 海洋・生態系研究センター 生態系モデルグループ	グループ長	東シナ海の海洋構造に関する研究	環境動態解析部門
才野 敏郎	独立行政法人海洋研究開発機構 物質循環研究プログラム	プログラムディレクター	沿岸海域における基礎生産の変動とその制御要因に関する研究	環境動態解析部門
速水 祐一	佐賀大学低平地沿岸海域研究センター	准教授	沿岸海域における物質輸送, 物理生物相互作用に関する研究	環境動態解析部門
木村 伸吾	東京大学大学院新領域創成科学研究科 環境学研究系	教授	海洋生物資源解析に関する研究	環境動態解析部門
井内 美郎	早稲田大学 人間科学学術院	教授	瀬戸内海の堆積物に関する研究	環境動態解析部門
兼田 淳史	福井県立大学 海洋生物資源学部	講師	豊後水道の物理環境に関する研究	環境動態解析部門
奈良 正和	高知大学教育研究部自然科学系理学部門	准教授	瀬戸内海の海底堆積物と底生動物に関する研究	環境動態解析部門

氏 名	所 属	職	研 究 課 題	主として連携する研究分野
原口 強	大阪市立大学 大学院理学研究科	准教授	内湾浅海域および湖沼の堆積プロセスの高分解能に関する研究	環境動態解析部門
山口 一岩	香川大学農学部 応用生物科学科	助 教	人間活動が沿岸環境に及ぼす影響に関する研究	環境動態解析部門
柴田 康行	独立行政法人国立環境研究所 環境計測研究センター	上級首席研究員	多環芳香族炭化水素, 有機スズ化合物, 重金属類および POPs 関連化学物質の環境モニタリング及び環境動態の解明	化学汚染・毒性解析部門
功刀 正行	東京理科大学 環境保全室	放射線施設管理部門長	有害化学物質による海洋汚染の動態解明	化学汚染・毒性解析部門
堀口 敏宏	独立行政法人国立環境研究所環境リスク研究センター 生態系影響評価研究室	室 長	巻貝類の内分泌攪乱の実態及び機構の解明	化学汚染・毒性解析部門
森 千里	千葉大学大学院医学研究院 環境生命医学領域	教 授	内分泌攪乱物質の人体汚染における生殖機能や次世代に対する影響	化学汚染・毒性解析部門
小宮山政敏	千葉大学大学院医学研究院 環境生命医学領域	准教授	GFP マウスを用いた精子形成障害評価法の開発と生殖障害のメカニズムの解析	化学汚染・毒性解析部門
藤瀬 良弘	財団法人日本鯨類研究所	理 事	鯨類と海洋生態系における環境化学物質の蓄積特性と鯨類生態の解明に関する研究	化学汚染・毒性解析部門
高田 秀重	東京農工大学農学部環境資源科学科	教 授	東南アジア地域における微量有機汚染物質の分布・発生源・動態の解明	化学汚染・毒性解析部門
井口 泰泉	自然科学研究機構岡崎統合バイオサイエンスセンター	教 授	内分泌攪乱物質	化学汚染・毒性解析部門
大嶋 雄治	九州大学大学院農学研究院資源生物科学部門	教 授	水生生物における化学物質の影響	化学汚染・毒性解析部門
有菌 幸司	熊本県立大学 環境共生学部	教 授	環境化学物質の生態毒性に関する研究	化学汚染・毒性解析部門
國頭 恭	信州大学理学部 物質循環学科	准教授	微量元素の環境モニタリングおよび環境動態の解明	化学汚染・毒性解析部門
渡邊 泉	東京農工大学大学院物質循環環境科学部門	准教授	野生生物の微量元素汚染および毒性影響の解明	化学汚染・毒性解析部門
山田 格	国立科学博物館 動物研究部	グループ長	海棲哺乳動物の生態に関する研究	化学汚染・毒性解析部門
滝上 英孝	国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センター ライフサイクル物質管理研究室	室 長	バイオアッセイ/化学分析を用いた残留性化学物質の包括評価と管理手法の開発	化学汚染・毒性解析部門
篠原 亮太	熊本県立大学 環境共生学部	教 授	PCBs 代謝物の分析法開発と環境動態解析および生態リスク評価	化学汚染・毒性解析部門
堤 裕昭	熊本県立大学 環境共生学部	教 授	有明海の生物生産と海洋環境保全	化学汚染・毒性解析部門
吉水 守	北海道大学大学院水産科学研究科	特 任教授	海洋生物のウイルス性疾病の制御に関する研究	生態系解析部門

12. 客員研究員名簿

氏 名	所 属	職	研 究 課 題	主として連携する研究分野
小池 勲夫	琉球大学	監 事	海洋中の生元素動態に関する研究	生態系解析分野
木暮 一啓	東京大学大気海洋研究所 海洋生態系動態部門	教 授	海洋微生物の生理生態学的研究	生態系解析部門
永田 俊	東京大学大気海洋研究所 海洋化学部門	教 授	水圏における溶存態有機物の動態に関わる微生物群集の多様性と機能に関する研究	生態系解析部門
上 真一	広島大学 (大学院生物圏 科学研究科)	理事・ 副学長 (教授)	海洋動物プランクトンの生産生態学的研究	生態系解析部門
深見 公雄	高知大学 (大学院黒潮圏 海洋科学研究科)	理 事 (教授)	海洋物質循環における微生物の役割と相互作用に関する研究	生態系解析部門
木下 泉	高知大学教育研究部総合 科学系	教 授	仔稚魚の形態と生態に関する研究	生態系解析部門
伊谷 行	高知大学教育研究部人文 社会科学系	准教授	海洋生物の共生に関する研究	生態系解析部門
野中 里佐	獨協医科大学 微生物学 講座	助 教	薬剤耐性菌の環境中動態に関する研究	生態系解析部門
松岡 篤	新潟大学理学部 地質科 科学科	教 授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —プランクトンに関する研究—	生態系解析部門
中野 伸一	京都大学生態学研究セン ター	教 授	海洋食物網の動態解明	生態系解析部門
三島 康史	独立行政法人産業技術総 合研究所中国センター バイオマス研究センター	主 任 研究員	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —化学的側面に関する研究—	生態系解析部門
松岡 敷充	長崎大学環東シナ海環境 資源研究センター	教 授	瀬戸内海の底質環境に関する総合研究 —プランクトンに関する研究—	生態系解析部
上田 拓史	高知大学教育研究総合科 学系	教 授	海洋生物に関する研究	生態系解析部門
松田 博貴	熊本大学大学院 自然科 学研究科	教 授	浅海域の海底地形解析に関する研究	生態系解析部門
山田 佳裕	香川大学農学部 応用生 物科学科	准教授	水域生態系における物質循環	生態系解析部門
大林由美子	横浜国立大学大学院工学 研究院	研 究 教 員	生物地球化学的物質循環における海洋 微生物群集の機能に関する研究	生態系解析部門

13. 運営委員会



(平成25年度)

委員長	武岡英隆	沿岸環境科学研究センター長教授
委員	藤江啓子	法文学部教授
委員	日詰雅博	教育学部教授
委員	中島敏幸	大学院理工学研究科（理）准教授
委員	山下政克	大学院医学系研究科教授
委員	井内國光	大学院理工学研究科（工）准教授
委員	竹内一郎	農学部教授
委員	渡邊博善	研究支援部部長
委員	田辺信介	沿岸環境科学研究センター教授
委員	鈴木聡	沿岸環境科学研究センター教授
委員	岩田久人	沿岸環境科学研究センター教授
委員	磯辺篤彦	沿岸環境科学研究センター教授
委員	大森浩二	沿岸環境科学研究センター准教授
委員	郭新宇	沿岸環境科学研究センター准教授
委員	北村真一	沿岸環境科学研究センター准教授
委員	加三千宣	沿岸環境科学研究センター准教授
委員	磯部友彦	沿岸環境科学研究センター准教授

14. センター規則および運営委員会規程 ●●●●●●●●●●

愛媛大学沿岸環境科学研究センター規則

平成16年4月1日
規則第197号

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第30条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、学内共同施設として、沿岸域の環境科学に関する研究及び教育を行うことにより、沿岸環境科学研究の総合的推進を図り、併せて地域社会の発展に貢献することを目的とする。

(研究部門)

第3条 前条の目的を達成するため、センターに次の研究部門を置く。

- (1) 環境動態解析部門
- (2) 化学汚染・毒性解析部門
- (3) 生態系解析部門
- (4) 国際・社会連携部門

(組織)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 専任教員
- (3) その他必要な職員（以下「センター職員」という。）

(先端研究推進会議)

第5条 センターの業務に関する重要な事項は、愛媛大学先端研究・学術推進機構先端研究推進会議（以下「先端研究推進会議」という。）において審議する。

(運営委員会)

第6条 センターの運営に関する事項を審議するため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する規程は、別に定める。

(センター長)

第7条 センター長候補者は、愛媛大学（以下「本学」という。）の専任の教授のうちから先端研究推進会議が推薦し、学長が選考する。

2 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命されたセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第8条 センターの専任教員は、先端研究推進会議が推薦し、学長が選考する。

(職務)

第9条 センター長は、センターの業務を掌理する。

- 2 センターの専任教員は、センター長の職務を助け、センターの業務を処理する。
- 3 センター職員は、センターの業務に従事する。

(研究員)

第10条 センターに、研究員を置くことができる。

- 2 研究員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事するものとする。
- 3 研究員は、本学の専任教員のうちから運営委員会の推薦により、学長が任命する。
- 4 研究員の任期は2年以内とし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第11条 学長は、他の大学又は公設試験研究機関の研究者のうちから運営委員会の推薦により、センターの研究計画に基づき研究に従事する者を客員研究員として委嘱することができる。

2 客員研究員の任期は2年以内とし、再任を妨げない。
(利用)

第12条 センターの利用に関する規程は、別に定める。
(生物環境試料バンク)

第13条 センターに、生物・環境試料を収集管理し、学内外の研究に供する生物環境試料バンク（以下「バンク」という。）を置く。

2 バンクに関する規程は、別に定める。
(研究生)

第14条 センターは、研究生を受け入れることができる。
2 研究生の入学選考は、運営委員会で行う。

(事務)

第15条 センターに関する事務は、研究支援部研究拠点事務課において処理する。

(雑則)

第16条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年6月9日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年4月14日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成22年9月7日から施行し、平成22年7月7日から適用する。

附 則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会規程

平成16年4月1日
規則第26号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター規則第6条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）の運営に係る基本事項に関すること。
- (2) センターの子算及び決算に関すること。
- (3) その他センターの運営に関すること。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

14. センター規則および運営委員会規程

- (1) センター長
 - (2) センターの講師以上の専任教員
 - (3) 各学部の専任教員 各1人
 - (4) 研究支援部長
 - (5) その他委員長が必要と認めた者
- 2 前項第3号の委員は、各学部長が推薦し、学長が任命する。
 - 3 第1項第5号の委員は、運営委員会の議を経て委員長が推薦し、学長が任命する。
 - 4 第1項第3号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときはこれを補充し、その任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員（代理者を含む。以下同じ。）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第7条 運営委員会は、専門的事項を調査検討するため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関する事項は、運営委員会が定める。

(事務)

第8条 運営委員会に関する事務は、研究支援部研究拠点事務課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク内規

平成16年4月1日
制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）規則第14条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク（以下「試料バンク」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(業務)

第2条 試料バンクは、生物及び環境の試料を収集管理するとともに、学内外の研究に供し、沿岸環境科学の推進に資する業務を処理する。

(組織)

第3条 試料バンクに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 試料バンク長

(2) その他必要な職員

第4条 試料バンク長は、センター教員のうちからセンター運営委員会が推薦し、センター長が任命する。

2 試料バンク長の任期は2年とし、再任を妨げない。

3 試料バンク長はセンター長の指示に従い、試料バンクの業務を掌理する。

(専門委員会)

第5条 試料バンクに、試料バンクに関する重要事項を審議するため試料バンク専門委員会を置く。

2 試料バンク専門委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第6条 試料バンクの事務は、研究支援部研究拠点事務課で処理する。

(雑則)

第7条 この内規に定めるもののほか、試料バンクの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この内規は、平成16年4月1日から施行する。

2 この内規の施行後、最初に任命される試料バンク長の任期は、第4条第2項の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。

附 則

この内規は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この内規は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成22年4月1日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク専門委員会に関する内規

平成16年4月1日
制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク内規第5条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク専門委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 生物及び環境の試料（以下「試料」という。）の受入れに関する事項

(2) 試料の管理に関する事項

(3) 試料の提供に関する事項

(4) 試料を用いた共同研究に関する事項

(5) その他試料に関し必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1) 試料バンク長

(2) その他試料バンク長が指名する者

2 前項第2号の委員は、試料バンク長が推薦し、センター長が任命する。

3 第1項第2号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に、委員長を置き、試料バンク長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

14. センター規則および運営委員会規程

(議事)

第5条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させ、説明または意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 委員会の事務は、研究支援部研究拠点事務課で処理する。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、専門委員会の運営に関し必要な事項は、専門委員会が定める。

附 則

1 この内規は、平成16年4月1日から施行する。

2 この内規の施行後、最初に任命される第3条第1項第2号の委員の任期は、同条第3項の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。

附 則

この内規は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この内規は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成22年4月1日から施行する。

発行 2014年9月
発行者 愛媛大学沿岸環境科学研究センター
〒790-8577 松山市文京町2番5号
TEL (089) 927-8164
FAX (089) 927-8167
印刷 創風社出版

この年報は、再生紙・大豆インキを使用しています。



13. 運営委員会

(平成24年度)

委員長	武岡 英隆	沿岸環境科学研究センター長教授
委員	田辺 信介	沿岸環境科学研究センター教授
委員	鈴木 聡	沿岸環境科学研究センター教授
委員	岩田 久人	沿岸環境科学研究センター教授
委員	磯辺 篤彦	沿岸環境科学研究センター教授
委員	大森 浩二	沿岸環境科学研究センター准教授
委員	郭 新宇	沿岸環境科学研究センター准教授
委員	北村 真一	沿岸環境科学研究センター准教授
委員	牧 秀明	法文学部教授
委員	家山 博史	教育学部教授
委員	村上 安則	大学院理工学研究科（理）准教授
委員	今村 健志	大学院医学系研究科教授
委員	中村 孝幸	大学院理工学研究科（工）准教授
委員	逸見 彰男	農学部教授
委員	渡邊 博善	研究支援部部長

14. センター規則および運営委員会規程 ●●●●●●●●●●

愛媛大学沿岸環境科学研究センター規則

平成16年4月1日
規則第197号

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第30条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、学内共同施設として、沿岸域の環境科学に関する研究及び教育を行うことにより、沿岸環境科学研究の総合的推進を図り、併せて地域社会の発展に貢献することを目的とする。

(研究部門)

第3条 前条の目的を達成するため、センターに次の研究部門を置く。

- (1) 環境動態解析部門
- (2) 化学汚染・毒性解析部門
- (3) 生態系解析部門
- (4) 国際・社会連携部門

(組織)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 専任教員
- (3) その他必要な職員（以下「センター職員」という。）

(先端研究推進会議)

第5条 センターの業務に関する重要な事項は、愛媛大学先端研究・学術推進機構先端研究推進会議（以下「先端研究推進会議」という。）において審議する。

(運営委員会)

第6条 センターの運営に関する事項を審議するため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する規程は、別に定める。

(センター長)

第7条 センター長候補者は、愛媛大学（以下「本学」という。）の専任の教授のうちから先端研究推進会議が推薦し、学長が選考する。

2 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命されたセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第8条 センターの専任教員は、先端研究推進会議が推薦し、学長が選考する。

(職務)

第9条 センター長は、センターの業務を掌理する。

- 2 センターの専任教員は、センター長の職務を助け、センターの業務を処理する。
- 3 センター職員は、センターの業務に従事する。

(研究員)

第10条 センターに、研究員を置くことができる。

- 2 研究員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事するものとする。
- 3 研究員は、本学の専任教員のうちから運営委員会の推薦により、学長が任命する。
- 4 研究員の任期は2年以内とし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第11条 学長は、他の大学又は公設試験研究機関の研究者のうちから運営委員会の推薦により、センターの研究計画に基づき研究に従事する者を客員研究員として委嘱することができる。

2 客員研究員の任期は2年以内とし、再任を妨げない。
(利用)

第12条 センターの利用に関する規程は、別に定める。
(生物環境試料バンク)

第13条 センターに、生物・環境試料を収集管理し、学内外の研究に供する生物環境試料バンク（以下「バンク」という。）を置く。

2 バンクに関する規程は、別に定める。
(研究生)

第14条 センターは、研究生を受け入れることができる。
2 研究生の入学選考は、運営委員会で行う。

(事務)

第15条 センターに関する事務は、研究支援部研究拠点事務課において処理する。

(雑則)

第16条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年6月9日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年4月14日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成22年9月7日から施行し、平成22年7月7日から適用する。

附 則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会規程

平成16年4月1日
規則第26号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター規則第6条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）の運営に係る基本事項に関すること。
- (2) センターの子算及び決算に関すること。
- (3) その他センターの運営に関すること。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

14. センター規則および運営委員会規程

- (1) センター長
 - (2) センターの講師以上の専任教員
 - (3) 各学部の専任教員 各1人
 - (4) 研究支援部長
 - (5) その他委員長が必要と認めた者
- 2 前項第3号の委員は、各学部長が推薦し、学長が任命する。
 - 3 第1項第5号の委員は、運営委員会の議を経て委員長が推薦し、学長が任命する。
 - 4 第1項第3号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときはこれを補充し、その任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員（代理者を含む。以下同じ。）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第7条 運営委員会は、専門的事項を調査検討するため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関する事項は、運営委員会が定める。

(事務)

第8条 運営委員会に関する事務は、研究支援部研究拠点事務課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク内規

平成16年4月1日
制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター（以下「センター」という。）規則第14条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク（以下「試料バンク」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(業務)

第2条 試料バンクは、生物及び環境の試料を収集管理するとともに、学内外の研究に供し、沿岸環境科学の推進に資する業務を処理する。

(組織)

第3条 試料バンクに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 試料バンク長

(2) その他必要な職員

第4条 試料バンク長は、センター教員のうちからセンター運営委員会が推薦し、センター長が任命する。

2 試料バンク長の任期は2年とし、再任を妨げない。

3 試料バンク長はセンター長の指示に従い、試料バンクの業務を掌理する。

(専門委員会)

第5条 試料バンクに、試料バンクに関する重要事項を審議するため試料バンク専門委員会を置く。

2 試料バンク専門委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第6条 試料バンクの事務は、研究支援部研究拠点事務課で処理する。

(雑則)

第7条 この内規に定めるもののほか、試料バンクの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この内規は、平成16年4月1日から施行する。

2 この内規の施行後、最初に任命される試料バンク長の任期は、第4条第2項の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。

附 則

この内規は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この内規は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成22年4月1日から施行する。

愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク専門委員会に関する内規

平成16年4月1日
制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク内規第5条第2項の規定に基づき、愛媛大学沿岸環境科学研究センター生物環境試料バンク専門委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 生物及び環境の試料（以下「試料」という。）の受入れに関する事項

(2) 試料の管理に関する事項

(3) 試料の提供に関する事項

(4) 試料を用いた共同研究に関する事項

(5) その他試料に関し必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1) 試料バンク長

(2) その他試料バンク長が指名する者

2 前項第2号の委員は、試料バンク長が推薦し、センター長が任命する。

3 第1項第2号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に、委員長を置き、試料バンク長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

14. センター規則および運営委員会規程

(議事)

第5条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させ、説明または意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 委員会の事務は、研究支援部研究拠点事務課で処理する。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、専門委員会の運営に関し必要な事項は、専門委員会が定める。

附 則

1 この内規は、平成16年4月1日から施行する。

2 この内規の施行後、最初に任命される第3条第1項第2号の委員の任期は、同条第3項の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。

附 則

この内規は、平成16年11月16日から施行する。

附 則

この内規は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成22年4月1日から施行する。

発行 2013年9月
発行者 愛媛大学沿岸環境科学研究センター
〒790-8577 松山市文京町2番5号
TEL (089) 927-8164
FAX (089) 927-8167
印刷 創風社出版

この年報は、再生紙・大豆インキを使用しています。

